

授 業 計 画

平成 25 年度

Syllabus 2013

健康科学部 看護学科

健康科学部

看護学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

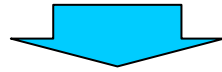
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

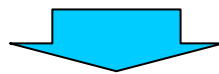


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

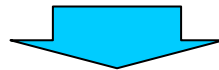


健康科学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



看護学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

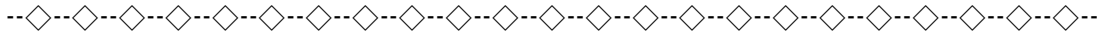
APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

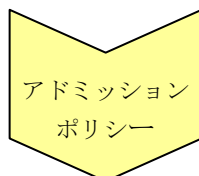
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

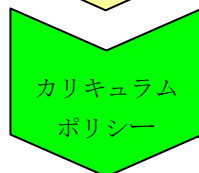
アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



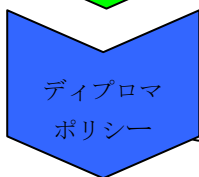
3つの方針（ポリシー）について



・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。



・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。



・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

看護学科ポリシー

看護学科は、学部ポリシーに基づき、豊かな人間性と看護実践能力を備え、地域社会に貢献できる人材の育成を目指します。

アドミッション ポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 人の命や健康に関心を持ち、看護に対して熱意のある人
2. 誠実で何事に対しても努力する姿勢のある人
3. 生涯にわたり自己を管理して学習に取り組もうとする向上心のある人

カリキュラム ポリシー

・看護学科のディプロマポリシーに示された5つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 人間理解と人権擁護に必要な幅広い学問分野の知識や技術を習得し、高い倫理観を培うことにより、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を身につける
2. 看護に関する専門的知識と技術を習得することにより、根拠に基づいた看護を計画的に展開する実践能力を身につける
3. 人々の健康生活の保持増進や健康障害に必要な援助についての知識と技術を習得することにより、それぞれ特有の看護課題に対応する実践能力を身につける
4. 保健医療福祉チームの一員としてチーム医療における看護の役割を理解し、他職種との協働・連携を通して看護が展開できる実践能力を身につける
5. 変化する社会の中で、看護の役割・責務を自覚し看護学の発展に参加し専門職者として研鑽し続ける基本的能力を身につける

ディプロマ ポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに、次の力を身につけた人に学士（看護学）の学位を授与します。

1. 豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力
2. 多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力
3. 成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力
4. 保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力
5. 国際的な視野を持ち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○																			
		看護学科ディプロマポリシー																			
		1			2			3								4			5		
		豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力			多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力			成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力								保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力			国際的な視野をもち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力		
1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3		
看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	実施する看護について説明し同意を得る能力	人間や健康を総合的に捉える能力	看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力	看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力	自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力	健康レベルを成長発達に応じて査定する能力	個人と家族の生活を査定する能力	看護援助技術を適切に実施する能力	健康の保持増進と疾病を予防する能力	急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	終末期にある人々を援助する能力	保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力	安全なケア環境を提供する能力	保健医療福祉における協働と連携をする能力	社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	看護専門職として価値と専門性を発展させる能力		
基礎科目	日本語(読解と表現)				○																
	英語				○																
	コンピュータ演習				○																
	生物基礎									○											
	化学基礎									○											
教養科目	宗教と人生			○	○	○	◎							○							
	生命倫理学	◎	○	○										○							
	哲学			○			○														
	文学			○			○														
	芸術			○			○														
	色彩とデザイン			○			○														
	心理学			○	○	◎	○														
	仏教と現代社会			○	○	○	◎														
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			○	○	○	◎														
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			○	○	○	◎														
	法と社会															○					
	日本国憲法	◎	○	○											○	○					
	人権の歴史	○	○																		
	政治学																	○			
	社会学									○					○						
	経済学														○		○				
	化学										○										
	生物学										○										
	食と健康										○										
	実用英語(初級)				○																
	実用英語(中級)				○																
	中国語(初級)				○																
中国語(中級)				○																	
韓国語(初級)				○																	
韓国語(中級)				○																	
健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)											◎										
健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)											◎										
健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)											◎										
私のためのキャリア設計																			○		
専門基礎科目	I群(健康支援と社会保健)													◎	○	○	○				
	社会福祉論													◎	○	○	○				
	人間関係論(カウンセリング含む)			○	○	◎	○							○							
	家族関係論													○	○	○	○				
	精神保健							○	○	○	○	◎									
	環境保健学														○	◎	○				
	保健医療福祉行政論														○	○	◎				
	公衆衛生学(疫学含)														◎	○	○				
	保健統計学														◎	○	○				
	基礎生物学							○	◎	○					○	○					
	形態機能論Ⅰ							○	◎	○					○	○					
	形態機能論Ⅱ							○	◎	○					○	○					
生化学							○	◎	○					○	○						
栄養学(食品学を含む)							○	◎	○					○	○						
薬理学							○	◎	○					○	◎						
免疫・微生物学							○	◎	○					○	○						
専門実践科目	臨床病理病態学Ⅰ(内科系)						○	◎	○					◎	○						
	臨床病理病態学Ⅱ(内科系)						○	◎	○					◎	○						
	臨床病理病態学Ⅲ(外科系)						○	◎	○					◎	○						
	臨床病理病態学Ⅳ(周産期・小児科系)						○	◎	○					◎	○						
IV群(基礎看護学)	看護学概論	○	○	◎	○	○															
	看護理論			○	○													◎	○	○	
	ヘルスアセスメント								◎	○	○	○									
	看護技術論Ⅰ(生活技術援助)								○	○	○	◎	○								
	看護技術論Ⅱ(診療技術援助)								○	○	○	◎				○					
	看護技術論Ⅲ(看護過程)				○	○		◎			○										
	基礎看護学実習Ⅰ					◎				○	○	○				○					
	基礎看護学実習Ⅱ	○	◎	○			◎	○			○										
	看護教育学																	○	◎	○	
	看護倫理	◎	○	○														○	○	○	
看護管理学															○	○	○		◎		

業 科 目 の 分 区		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○																												
		看護学科ディプロマポリシー																												
		1			2			3					4			5														
		豊かな感性と人間性を持ち、幅広い視点で人とその生活について理解し、命の尊厳と人間尊重について考える力			多様な価値観をもつ人びとや自分と世代・立場の異なる人びとを理解し、看護に必要な援助的人間関係を形成する力			成長発達段階や健康レベルに応じた健康課題をもつ人びとに対して、科学的根拠に基づいた看護を実践する力					保健医療福祉に携わる人と協働し、地域における人々の健康レベルの向上に貢献する力			国際的な視野を持ち、人々の健康に対し実践を通して貢献でき、将来において、看護実践・教育・研究を担い、その発展に貢献できる力														
1-1			1-2			1-3			2-1		2-2		2-3	3-1		3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	4-1	4-2	4-3	5-1	5-2	5-3		
看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力			実施する看護について説明し同意を得る能力			人間や健康を総合的に捉える能力			看護の対象となる人々とコミュニケーションを開ける能力		看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力		自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力	根拠に基づき看護を計画的に実践する能力		健康レベルを成長発達に応じて査定する能力	個人と家族の生活を査定する能力	看護援助技術を適切に実施する能力	健康の保持増進と疾病を予防する能力	急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	終末期にある人々を援助する能力	保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力			安全なケア環境を提供する能力	保健医療福祉における協働と連携をする能力	社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	看護専門職として価値と専門性を発展させる能力
専 門 教 育 科 目	V 群 (成人・老年看護学)	成人看護学概論	○	○	○											○														
		成人看護学実習 I	○																											
		成人看護学実習 II	○	○	○																									
		老年看護学概論	○																											
		老年看護学実習 I	○																											
		老年看護学実習 II	○																											
		母性看護学概論	○																											
		母性看護学実習																												
専 門 実 践 科 目	VI 群 (母性・小児看護学)	小児看護学概論	○		○																									
		小児看護学実習																												
		精神看護学概論	○		○	○	○	○																						
		精神看護学実習																												
		在宅看護学概論	○																											
		在宅看護学実習																												
		公衆衛生看護学概論																												
		健康教育論																												
		学校保健概論	○																											
		国際看護学																												
		災害看護学(災害保健を含む)																												
		育 科 目	VIII 群 (統合と実践の看護)	基礎ゼミ																										
看護研究 I (基礎編)																														
看護研究 II (応用編)																														
リスクマネジメント論	○			○																										
看護の統合と実践実習	○			○																										
目 関 連 科 目	IX 群 (保健師関連)	疫学																												
		公衆衛生看護学活動展開論																												
		健康相談活動の理論と実践																												
		産業保健論																												
		公衆衛生看護学実習 I																												
		公衆衛生看護学実習 II																												
		公衆衛生看護学特論																												
		学校保健活動論	○																											
学校保健演習	○																													
教 論 開 連 目 関 連 科 目	X 群 (養護)	養護概説	◎																											

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」(下表 1-1...、2-2...など)の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1					2					3				
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力					経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力					学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」(マップ上部 1-1...、2-1...など)をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

健康科学部看護学科

【卒業要件単位数】

平成 25 ~ 24(2013 ~ 2012)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	24 単位	24 単位	12 科目
	専門実践科目	65 単位	65 単位	37 科目
	統合科目	9 単位	9 単位	5 科目
	関連科目			
合 計		124 単位	110 単位	60 科目

平成 23 ~ 22(2011 ~ 2010)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	専門基礎科目	22 単位	22 単位	9 科目
	専門実践科目	68 単位	68 単位	37 科目
	統合科目	6 単位	6 単位	3 科目
	関連科目			
	基礎科目	2 単位	2 単位	1 科目
合 計		124 単位	110 単位	56 科目

平成 25 ~ 24 (2013 ~ 2012) 年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ
								1年	2年	3年	4年		
								必修	選択				
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2					[安井]・[辻本]・[野田]	14
	英語	演習	2				2					(平本 幸治)	15
	英語	演習	2				2					[小泉 毅]	16
	英語	演習	2				2					[Michael, H. FOX]	17
	コンピュータ演習	演習	2				2					(堀池 聡)	18
	コンピュータ演習	演習	2				2					(西田 悦雄)	19
	コンピュータ演習	演習	2				2					[佐竹 邦子]	20
	生物基礎	講義	2				2					[谷口]・[橋本]・[大藤]	21
化学基礎	講義	2				2					[市村]・[立谷]・[田中]・[田村]	22	
教養科目	宗教と人生	講義	2				2					(本多 彩)	23
	生命倫理学	講義	2									[浅沼 光樹]	24
	哲学	講義	2									[三浦 摩美]	25
	文学	講義	2									(安井 重雄)	26
	芸術	講義	2									[柳楽 節子]	27
	芸術	講義	2									[岩見 健二]	28
	心理学	講義	2									(北島 律之)	29
	仏教と現代社会	講義	2									(本多 彩)	30
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義	2									[塚本 潤一]	31
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義	2									[重親 知左子]	32
	色彩とデザイン	講義	2									[浜島 成嘉]・(稲富 恭)	33
	法と社会	講義	2									[國友 順市]	34
	日本国憲法	講義	2									[笹田 哲男]	35
	人権の歴史	講義	2									[西脇 修]	36
	政治学	講義	2									(斎藤 正寿)	37
	社会学	講義	2									(吉原 恵子)	38
	経済学	講義	2									(石原 敬子)	39
	化学	講義	2									[薬師寺 大二]	40
	生物学	講義	2									[石井 禎基]	41
	食と健康	講義	2									(亀谷 小枝)	42
	実用英語（初級）	演習	2									[加藤 恭子]	43
	実用英語（中級）	演習	2										
中国語（初級）	演習	2									[佟 曉寧]	45	
中国語（中級）	演習	2									[佟 曉寧]	46	
韓国語（初級）	演習	2									[高 秀美]	47	
韓国語（中級）	演習	2									[高 秀美]	48	
健康・スポーツ科学（講義）	講義	2									(三宅 一郎)	49	
健康・スポーツ科学（講義）	講義	2									(徳田 泰伸)	50	
健康・スポーツ科学（演習）	演習	2									(三宅一)・(徳田)・(梅本)・(矢野)	51	
健康・スポーツ科学（演習）	演習	2									(三宅一)・(徳田)・(梅本)・(矢野)	52	
私のためのキャリア設計	講義	2										[森本 次郎]	53

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）

は保健師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格選択科目（12単位以上必要）

は養護教諭免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		看護師	保健師	養護教諭一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の担当者	ページ
								1年	2年	3年	4年		
								必修	選択				
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2				2						
	英語	演習	2				2						
	コンピュータ演習	演習	2				2						
	生物基礎	講義	2				2						
	化学基礎	講義	2				2						
教養科目	宗教と人生	講義	2				2						
	生命倫理学	講義		2								[浅沼 光樹]	24
	哲学	講義		2								[三浦 摩美]	25
	文学	講義		2								(安井 重雄)	26
	芸術	講義		2								[柳楽 節子]	27
	芸術	講義		2								[岩見 健二]	28
	心理学	講義		2								(北島 律之)	29
	仏教と現代社会	講義		2								(本多 彩)	30
	国際理解と宗教（キリスト教）	講義		2								[塚本 潤一]	31
	国際理解と宗教（イスラム教）	講義		2								[重親 知左子]	32
	色彩とデザイン	講義		2								[浜島 成嘉]・(稲置 恭)	33
	法と社会	講義		2								[國友 順市]	34
	日本国憲法	講義		2								[笹田 哲男]	35
	人権の歴史	講義		2								[西脇 修]	36
	政治学	講義		2								(斎藤 正寿)	37
	社会学	講義		2								(吉原 恵子)	38
	経済学	講義		2								(石原 敬子)	39
	化学	講義		2								[薬師寺 大二]	40
	生物学	講義		2								[石井 禎基]	41
	食と健康	講義		2								(亀谷 小枝)	42
	実用英語（初級）	演習		2								[加藤 恭子]	43
	実用英語（中級）	演習		2								[加藤 恭子]	44
	中国語（初級）	演習		2								[佟 曉寧]	45
	中国語（中級）	演習		2								[佟 曉寧]	46
	韓国語（初級）	演習		2								[高 秀美]	47
	韓国語（中級）	演習		2								[高 秀美]	48
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(三宅 一郎)	49	
健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(徳田 泰伸)	50	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	51	
健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(榎本)・(矢野)	52	
私のためのキャリア設計	講義		2									[森本 次郎]	53

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）
 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格選択科目（12単位以上必要）
 は養護教諭免許必修科目
 学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	日本語(読解と表現)				
担当者氏名	安井 重雄、野田 直恵、辻本 恭子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現を身につける。それによって、コミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する小テスト(30%)と定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くので、国語辞典あるいは電子辞書を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	音読み・訓読みにおける、同じ発音の漢字の熟語を書き分ける。
3	四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれど、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語・、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体について振り返り、授業内容をまとめる。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテキストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テキストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《テキスト》

『TOEIC Test Fundamentals』クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業の到達目標》

日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際のコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《授業時間外学習》

次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テキストを精読しておいて下さい。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《テキスト》

プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy English〕（長崎出版）

《参考図書》

NHKラジオの「新基礎英語」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業の到達目標》

英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《授業時間外学習》

毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までです。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《成績評価の方法》

英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）

《備考》

1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会うありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（A lphabet）英検5級リスニングテスト
3	場所を聞くいつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（A lphabet）英検5級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）英検4級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）英検3級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習 英検5級（全体）
10	～しましょうか？～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（s i l e n t E）英検4級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（s i l e n t E）英検3級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics（p o l i t e v o w e l s）英検準2級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（p o l i t e v o w e l s）英検5、4級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検3級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習 英検準2級総復習

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 2』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction/Orientation	教員紹介・自己紹介。
2	U.1: Jobs Topic Talk: "Numbers"	仕事・数字を説明。
3	U.1: Daily Activities Topic Talk: "Time"	日常活動・時間を表現する
4	U.2: Current Activities Topic Talk: "Work"	日常活動・時間を表現 Part 2
5	U.2: Feelings Topic Talk: "Dating"	感情やデートの話し
6	U.3: People We Admire Topic Talk: "Movies"	尊敬される人々・映画を語る
7	U.3: Cities Topic Talk: "Travel"	都会・旅行を描写する
8	U.4: On the Weekend Topic Talk:	週末の活動を語る
9	U.4: On Vacation Topic Talk: "Vacation"	Vacationの経験を喋る
10	U.5: Entertainment Topic Talk: "TV"	娯楽・テレビを話す。
11	U.5: Music Topic Talk: "Music"	好みのMusicを語る
12	U.6: A City Square Topic Talk: "Sports"	方向を聞く・スポーツの話し。
13	U.6: Public Transportation	公共交通を喋る
14	大復習	大復習
15	まとめor自己評価	まとめor自己評価

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	堀池 聡				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

コンピュータを活用し、自分が調べたことや自分が考えたことなどを他者に正確に伝える報告書や発表用スライドなどを作成する技術を学びます。具体的にはMicrosoft Officeのワード、エクセル、パワーポイントについて演習を行います。

《テキスト》

教科書は使用しません。毎回プリントなどを配布します。

《参考図書》

必要に応じて紹介します。

《授業の到達目標》

まず、本学計算機実習室の基本的な使い方とコンピュータに関する基本的な知識を身につけます。そのうえでインターネットを使った情報収集や、集めた情報を加工する技術、それを文書や発表用のスライドにまとめる技術などを身につけます。

《授業時間外学習》

授業の課題だけでなく普段の生活の中でもコンピュータを活用し、授業で習った内容を自分のものにするよう心がけてください。

《成績評価の方法》

・毎回の課題の提出状況(20%)と内容(80%)を総合的に評価します。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要説明、計算機実習室利用の手続きと初期設定等
2	コンピュータ利用の基礎	Windows の基礎、電子メールの活用
3	インターネットの活用	インターネット上の情報の検索
4	文書作成(1)	ページレイアウトや書式設定の基礎
5	文書作成(2)	表や図形の活用
6	文書作成(3)	応用課題
7	表計算(1)	簡単なデータ処理と表の作成
8	表計算(2)	関数の活用とセル参照
9	表計算(3)	グラフの作成
10	表計算(4)	応用課題
11	プレゼンテーション(1)	スライド作成の基礎
12	プレゼンテーション(2)	アニメーションの活用
13	プレゼンテーション(3)	応用課題
14	まとめ(1)	総合的な演習課題
15	まとめ(2)	総合的な演習課題

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	西田 悦雄				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

本学計算機実習室のコンピュータを使うための基礎的な知識や技術の習得を目指します。
また、情報化社会の通信基盤である「コンピュータ・ネットワーク」の利用に際してのその利便性や危険性など情報化社会で必要とされる「情報モラル」などの知識の獲得も目指します。

《授業の到達目標》

1. 情報収集のためのWebブラウザを使った検索等の操作ができる。
2. レポート作成に用いるワードプロセッサソフト・表計算ソフトや発表のためのプレゼンテーションソフトの操作が行え活用できる。
3. 情報の共有やコミュニケーションのための電子メールが活用できる。

《成績評価の方法》

提出課題の提出状況(20%)と課題内容(80%)を総合的に評価します。

《テキスト》

教科書は使用しません。必要に応じて適宜配付します。

《参考図書》

小柳・小野・平井・宮本編著、『教育方法・技術論』学芸図書、2012 など。

《授業時間外学習》

授業内で配付する資料は学期終了まで自由に閲覧できますから、配付資料を熟読し理解を深めて下さい。
課題作成については、授業時間内を基本としていますが、不足分は時間外学習で対応してください。

《備考》

“ 便利な文房具や道具として ” のコンピュータの積極的な利用を希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要 利用のための手続き	計算機実習室利用のための手続きと初期設定
2	Windows, 電子メールの基礎	Windowsのパスワード変更, 電子メールの概要と活用,
3	Webブラウザの活用	Webブラウザの操作方法, 検索サイト, 情報化の光と影
4	文書の作成(1)	ワードプロセッサソフトの演習, 基本操作説明 Webブラウザによる情報検索
5	文書の作成(2)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用 Webブラウザによる情報収集, 文書作成
6	文書の作成(3)	ワードプロセッサソフトの演習・Webブラウザの活用 情報の引用, 参照のつけ方, 文書作成
7	表計算ソフト(1)	表計算ソフトの演習, 基本操作説明, セル, 罫線, 表組の活用 基本的な関数の活用
8	表計算ソフト(2)	表計算ソフトの演習, グラフ描画方法, 有効的なグラフの形状
9	プレゼンテーションソフト(1)	プレゼンテーションのための基礎知識, 基本操作説明 発表テーマの設定, 情報収集, 発表テーマ資料の作成
10	プレゼンテーションソフト(2)	魅力ある資料のためのアニメーションとデザインの活用 発表テーマ資料の作成
11	プレゼンテーション資料の発表/総合的な演習(1)	資料を用いての発表, レポート, 課題の作成のための実践
12	総合的な演習(1)	ワードプロセッサとブラウザ, 表計算ソフトの連携
13	総合的な演習(2)	表計算ソフトとプレゼンテーションソフトの連携
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションソフトの多角的な活用
15	まとめ	総合的な演習およびその他補足とまとめ

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	佐竹 邦子				
授業方法	演習	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行い、課題を示します。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれら使いこなしていくための基礎的知識を身につけられる。メールやインターネット、各種ソフトウェアの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

- (1) 平常点 (25%)
- (2) 提出課題 (75%)

《テキスト》

- ・「学生のためのOffice2010&情報モラル」, noa出版

《参考図書》

- ・学生に役立つ Microsoft Excel 2010 基礎, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft Excel 2010 応用, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft Word 2010 基礎, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft Word 2010 応用, FOM出版
- ・学生に役立つ Microsoft PowerPoint 2010 基礎, FOM出版

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回の授業範囲のテキストを読むこと。分からない専門用語等が出てきた場合には、メモをして可能な限り事前に調べておくこと。
- (2) 復習の方法：授業範囲のテキスト・配布プリントを読み返すこと。分からない内容があるときは、関連図書を読んだり直接質問したりすること。

《備考》

- (1) 欠席した場合、次回授業までに自習しておくこと。
- (2) 質問等はオフィスアワーなどに来ること。授業時間直前の質問は授業開始の遅れとなるためできるだけ控えて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業概要の説明、学内情報システムに関する理解 実習室ログオンアカウントの確認、パスワード管理方法の理解
2	Windowsの基礎 Webメール(1)	Windowsの基本操作、e-learningシステムへの登録 Webメールの送受信、署名の設定、連絡先機能の利用
3	Webメール(2)	ファイルの添付、携帯電話版Webメールの利用 メールに関するマナー
4	インターネット上の 情報検索(1)	検索サイトの利用、論理式を使った検索、検索オプションの活用 情報の信頼性の検証方法
5	インターネット上の 情報検索(2)	情報モラル、著作権・肖像権の理解 個人情報保護の理解
6	ワープロソフトの基礎(1)	文字書式設定、段落書式設定(インデント、タブ) 表の作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入
7	ワープロソフトの基礎(2)	前回学習範囲の演習課題
8	表計算ソフトの基礎(1)	画面説明、四則演算、SUM関数、AVERAGE関数、IF関数 相対参照・絶対参照・複合参照
9	表計算ソフトの基礎(2)	COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数 セル書式の設定、罫線設定、グラフ作成、並べ替え
10	表計算ソフトの基礎(3)	前回・前々回学習範囲の演習課題
11	プレゼンテーションソフトの基礎(1)	画面説明、スライドデザインの設定、文字入力 ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入
12	プレゼンテーションソフトの基礎(2)	画面切り替え効果、アニメーション、スライドショー、色・動きの統一感 今回・前回学習範囲の演習課題
13	レポート作成のための PC活用	表紙作成、ページ設定、ページ番号設定、Excelの表・グラフの挿入
14	総合課題(1)	これまでのまとめとなる課題を行なう。
15	総合課題(2)	これまでのまとめとなる課題を行なう。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	化学基礎				
担当者氏名	谷口 武、橋本 陽江、大藤 隆彦				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。(アチーブメントテスト70%、平常点30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合 イオン・共有・配位・水素結合
3	化学反応式	$\text{CH}_4 + 2\text{O}_2 \rightarrow \text{CO}_2 + 2\text{H}_2\text{O}$ の意味
4	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
5	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
6	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？
7	溶解・浸透圧	ナメクジに塩をかけると・・・
8	酸と塩基	酸味の原因
9	コロイド	豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
10	有機化学 有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学 官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学 糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学 タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「食を中心とした化学」 北原・塚本・野中・水崎著 (東京化学社)

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎 化学入門コース1」 竹内敬人著 (岩波書店)

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《基礎・教養科目 基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹、田中 貞之、田村 淳				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいない呼吸もある？
5	小テスト 生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝 メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	小テスト 神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫 体を外敵から守るしくみ
14	小テスト 人間と自然	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》

われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約20%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ
2	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神 : 学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、ターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で試聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
 (内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。また、個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	実在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点(30%)、及び、定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生がこれまで気付かなかった日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、講義の今後のありかたについての説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
7	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
8	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
9	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。曼陀羅 倭絵 水墨画
10	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。画卷
11	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-6	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-7	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験の観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%レポート・小テストなど10%受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (とても詳しく、心理学全般の内容が記載されています)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格についての心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	君って、どんな人？(性格)	質問紙による性格検査の実施。《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加

定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

宗教ツアー
 花まつり法要 など
《備考》

科目名	国際理解と宗教（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えてこない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態が続けるのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎×大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

科目名	国際理解と宗教 (イスラム教)				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/ レザー・アスラン『変わるイスラム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ(例：モスクの見学)。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、欠席となる。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、デザインの基礎(1):色 色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
2	デザインの基礎(2):色色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。(担当:浜島)
3	デザインの基礎(3):色配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
4	デザインの基礎(4):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。(担当:稲富)
5	デザインの基礎(5):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。(担当:稲富)
6	デザインの基礎(6):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。(担当:稲富)
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。(担当:浜島)
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。(担当:稲富)
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。(担当:稲富)
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。(担当:浜島)
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する(担当:稲富)
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。(担当:稲富)
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。(担当:稲富)
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。(担当:稲富)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲富)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡
これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 <small>小さな政治と大きな政治</small>	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 <small>様々なアクター・利益</small>	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 <small>政党と選挙</small>	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分かった社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
(配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
(配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007,有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と..民社会	個人と社会、..由と連帯、..民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	薬師寺 大二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

原子や分子の構造、化学結合、物質の状態、有機化学など、化学の基礎から応用までをパワーポイントを使って、視覚的にわかりやすく解説します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

- ・「新・物質科学ライブラリ1 基礎 化学」 梶原篤・金折賢二 共著 (サイエンス社)
- ・「一般化学」 長島弘三・富田功 共著 (裳華房)

《授業の到達目標》

生活に必要な衣服や日用品、医薬品など、我々は化学の恩恵を受けています。本講義では、化学が我々にとって必要かつ身近なものだと感じてもらい、また化学の理解を通じて科学的思考を養います。

《授業時間外学習》

授業で配布されたプリントを必ず見直し、分からなかったところは参考書を見るなどして確認してください。

《成績評価の方法》

定期試験により評価(100%)します。

《備考》

積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	化学の歴史的背景を踏まえ、化学の基本法則や原子の構成について解説する。
2	原子軌道	原子軌道のエネルギー準位や多電子原子の構成原理について解説する。
3	元素と周期律	元素の周期性、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などについて解説する。
4	共有結合と分子軌道	共有結合の形成、分子軌道のエネルギー、結合と結合などについて解説する。
5	分子の形と混成軌道	メタン、エチレン、アセチレンの形と混成軌道について解説する。
6	種々の化学結合(1)	ファンデルワールス力、配位結合、水素結合などについて解説する。
7	種々の化学結合(2)	金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン結晶などについて解説する。
8	物質の三態	理想気体の状態方程式、実在気体、蒸気圧曲線などについて解説する。
9	混合物の状態変化	濃度、ドルトンの分圧の法則、蒸気圧降下、浸透圧などについて解説する。
10	化学反応(1)	酸・塩基反応について解説する。
11	化学反応(2)	酸化還元反応について解説する。
12	有機化学の基礎	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC命名法などについて解説する。
13	立体化学	立体構造の表示法、構造異性体、立体異性体などについて解説する。
14	低分子有機化合物	官能基、アルコール化合物、カルボン酸化合物などについて解説する。
15	学習のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行う。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明： 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)： 栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)： 栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)： 栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)： 食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)： 家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)： 環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活 (1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活 (2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活 (3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《テキスト》

妻鳥千鶴子（他）著、First Time Trainer for the TOEIC TEST
(Cengage Learning)

《参考図書》

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の 演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1～UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

ビジネスシーンや日常生活など、身近な話題に即した各テーマを取り上げ、その内容に応じたリスニング問題、リーディング問題の演習・解説を行うことによって、各パートの問題へのアプローチの仕方、各パートの効率的な解き方を身につける。実用英語（初級）での学習内容、または、それに相当する知識を基に、さらに進んだ語彙力の増強、文法事項の理解の定着をはかる。

《授業の到達目標》

TOEICの問題形式に慣れ、授業で身につけた語彙力・文法力をベースに、スコア500～600を取ることを目標にする

《成績評価の方法》

平常点30%、毎回の講義後に提出する提出物30%、定期試験40%

《テキスト》

吉田佳代（他）著、実生活で役立つTOEIC® テストリスニング（成美堂） 数越知子/Braven Smillie 著、TOEIC® テスト・リーディング集中演習（金星堂）

《参考図書》

《授業時間外学習》

次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《備考》

毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Listening / Reading対策	Listening対策 (Unit 1) / Reading (Unit 1:短文穴埋め問題の攻略 語彙の問題に慣れよう)
2	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 2) / Reading (Unit 2 & 15:短文穴埋め問題の攻略 品詞 & 読解問題の攻略 タイトルと設問を先読みしてポイントをおさえよう)
3	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 3 & 4) / Reading (Unit 3 & 16:短文穴埋め問題の攻略 主語と一致する動詞 & 読解問題の攻略 設問の種類を分析しよう)
4	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 5) / Reading (Unit 4 & 17:短文穴埋め問題の攻略 時制や仮定法の問題に慣れよう & 読解問題の攻略 語句の言い換えに注意して答えを選ぼう)
5	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 6 & 7) / Reading (Unit 11: 長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう (1) 時制)
6	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 8) / Reading (Unit 5 & 18:短文穴埋め問題の攻略 自動詞・他動詞・使役動詞 & 読解問題の攻略 背景知識を使って答えを探そう Eメール・手紙)
7	Listening / Reading (Part 6対策)	Listening (Unit 9 & 10) / Reading (Unit 12:長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう (2) 代名詞)
8	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 11) / Reading (Unit 6 & 19:短文穴埋め問題の攻略 不定詞・動名詞・分詞に慣れよう & 読解問題の攻略 背景知識を使って答えを探そう 求人広告)
9	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 12 & 13) / Reading (Unit 20:読解問題の攻略 まとめ)
10	Listening / Reading (Part 5 & 6対策)	Listening (Unit 14) / Reading (Unit 7 & 13:短文穴埋め問題の攻略 比較・関係詞の問題 & 長文穴埋め問題の攻略 文章の流れを理解しよう(3)つなぎ言葉)
11	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 15 & 16) / Reading (Unit 8 & 21:短文穴埋め問題の攻略 前置詞・接続詞の問題 & 読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(1))
12	Listening / Reading (Part 5 & 7対策)	Listening (Unit 17) / Reading (Unit 9 & 22:短文穴埋め問題の攻略 名詞・冠詞・数量詞の問題 & 読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(2))
13	Listening / Reading (Part 7 対策)	Listening (Unit 18 & 19) / Reading (Unit 23:読解問題の攻略 2つの文書のトピックと関連性を把握しよう(3))
14	Listening / Reading (Part 5,6 & 7 対策)	Listening (Unit 20) / Reading (Unit 10, 14 & 24 短文穴埋め問題の攻略まとめ、長文穴埋め問題の攻略まとめ & 読解問題の攻略まとめ)
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語 』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度20%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる
- ・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音 子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音 子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えろと意味)について勉強する。
6	文化項目(1)：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니까体)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの(해요体)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（20％）各分野の学習後に課すレポート課題（60％）平常点（20％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1～2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 23 ~ 22 (2011 ~ 2010) 年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護 師	保健 師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択				1年	2年	3年	4年			
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2				2							
	英語	演習	2				2							
	コンピュータ演習	演習	2				2							
	生物基礎	講義	2				2							
	化学基礎	講義	2				2							
人 文 系	宗教と人生	講義	2				2							
	生命倫理学	講義		2								[浅沼 光樹]	58	
	生涯発達心理学	講義		2								(森田 義宏)	59	
	人間関係論（含カウンセリング）	講義		2								(森田 義宏)	60	
	哲学	講義		2								[三浦 摩美]	61	
	文学	講義		2								(安井 重雄)	62	
	芸術	講義		2								[柳楽 節子]	63	
	芸術	講義		2								[岩見 健二]	64	
	心理学	講義		2								(北島 律之)	65	
	宗教と文化（仏教）	講義		2								(本多 彩)	66	
	宗教と文化（キリスト教）	講義		2								塚本 潤一]	67	
	宗教と文化（イスラム教）	講義		2								[重親 知左子]	68	
	生活とデザイン	講義		2								(稲富 恭)	69	
	色彩学	講義		2								[浜島 成嘉]	70	
	音楽表現	演習		2								未定	71	
	社 会 系	アメリカ文学	講義		2								(平本 幸治)	72
		論説と評論	講義		2								(安井 重雄)	73
歴史学		講義		2								(金子 哲)	74	
日本語表現法		演習		2								[野田 直恵]	75	
法と社会		講義		2								[國友 順市]	76	
日本国憲法		講義		2								[笹田 哲男]	77	
人権の歴史		講義		2								[西脇 修]	78	
政治学		講義		2								(斎藤 正寿)	79	
国際関係論		講義		2								(斎藤 正寿)	80	
社会学		講義		2								(吉原 恵子)	81	
自 然 科 系	ジェンダー論	講義		2								(吉原 恵子)	82	
	経済学	講義		2								(石原 敬子)	83	
	数学	講義		2								不開講		
	物理学	講義		2								(湯瀬 晶文)	84	
	化学	講義		2								[薬師寺 大二]	85	
	生物学	講義		2								(石井 禎基)	86	
	食と健康	講義		2								(亀谷 小枝)	87	
コンピュータ応用演習	演習		2								(河野 稔)	88		
語 学 系	英語	演習		2								[Michael. H. FOX]	89	
	英語	演習		2								[Michael. H. FOX]	90	
	英語	演習		2								[Michael. H. FOX]	91	
	フランス語	演習		2								[本多 雄一郎]	92	
	フランス語	演習		2								[本多 雄一郎]	93	
	ドイツ語	演習		2								[竹内 節]	94	
	ドイツ語	演習		2								[竹内 節]	95	
	中国語	演習		2								[佟 曉寧]	96	
	中国語	演習		2								[佟 曉寧]	97	
	韓国語	演習		2								[高 秀美]	98	
韓国語	演習		2								[高 秀美]	99		
体 育 系	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(三宅 一郎)	100	
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(徳田 泰伸)	101	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(梅本)・(矢野)	102	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(梅本)・(矢野)	103	
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2										
	私のためのキャリア設計	講義		2									[森本 次郎]	104
	就職基礎能力	講義		2									不開講	
	就職基礎能力	講義		2									不開講	
キ ャ リ ア 系	就職基礎能力	講義		2									不開講	
	就職基礎能力	講義		2									不開講	

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）
 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）
 は養護教諭免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

業 科 目 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護 師	保健 師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ペー ジ	
			必修	選択				1年	2年	3年	4年			
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	演習	2				2							
	英語	演習	2				2							
	コンピュータ演習	演習	2				2							
	生物基礎	講義	2				2							
	化学基礎	講義	2				2							
人 文 系	宗教と人生	講義	2				2							
	生命倫理学	講義		2								[浅沼 光樹]	58	
	生涯発達心理学	講義		2								(森田 義宏)	59	
	人間関係論（含カウンセリング）	講義		2								(森田 義宏)	60	
	哲学	講義		2								[三浦 摩美]	61	
	文学	講義		2								(安井 重雄)	62	
	芸術	講義		2								[柳楽 節子]	63	
	芸術	講義		2								[岩見 健二]	64	
	心理学	講義		2								(北島 律之)	65	
	宗教と文化（仏教）	講義		2								(本多 彩)	66	
	宗教と文化（キリスト教）	講義		2								塚本 潤一]	67	
	宗教と文化（イスラム教）	講義		2								[重親 知左子]	68	
	生活とデザイン	講義		2								(稲富 恭)	69	
	色彩学	講義		2								[浜島 成嘉]	70	
	音楽表現	演習		2								未定	71	
	アメリカ文学	講義		2								(平本 幸治)	72	
論説と評論	講義		2								(安井 重雄)	73		
歴史学	講義		2								(金子 哲)	74		
日本語表現法	演習		2								[野田 直恵]	75		
社 会 系	法と社会	講義		2								[國友 順市]	76	
	日本国憲法	講義		2								[笹田 哲男]	77	
	人権の歴史	講義		2								[西脇 修]	78	
	政治学	講義		2								(斎藤 正寿)	79	
	国際関係論	講義		2								(斎藤 正寿)	80	
	社会学	講義		2								(吉原 恵子)	81	
	ジェンダー論	講義		2								(吉原 恵子)	82	
経済学	講義		2								(石原 敬子)	83		
自 然 科 系	数学	講義		2								不開講		
	物理学	講義		2								(湯瀬 晶文)	84	
	化学	講義		2								[薬師寺 大二]	85	
	生物学	講義		2								(石井 禎基)	86	
	食と健康	講義		2								(亀谷 小枝)	87	
	コンピュータ応用演習	演習		2								(河野 稔)	88	
語 学 系	英語	演習		2								[Michael. H. FOX]	89	
	英語	演習		2								[Michael. H. FOX]	90	
	英語	演習		2								[Michael. H. FOX]	91	
	フランス語	演習		2								[本多 雄一郎]	92	
	フランス語	演習		2								[本多 雄一郎]	93	
	ドイツ語	演習		2								[竹内 節]	94	
	ドイツ語	演習		2								[竹内 節]	95	
	中国語	演習		2								[佟 曉寧]	96	
	中国語	演習		2								[佟 曉寧]	97	
	韓国語	演習		2								[高 秀美]	98	
韓国語	演習		2								[高 秀美]	99		
体 育 系	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(三宅 一郎)	100	
	健康・スポーツ科学（講義）	講義		2								(徳田 泰伸)	101	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(梅本)・(矢野)	102	
	健康・スポーツ科学（演習）	演習		2								(三宅一)・(徳田)・(梅本)・(矢野)	103	
キ ャ リ ア 系	特別講義	講義		2										
	私のためのキャリア設計	講義		2									[森本 次郎]	104
	就職基礎能力	講義		2									不開講	
	就職基礎能力	講義		2									不開講	
キ ャ リ ア 系	就職基礎能力	講義		2									不開講	

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は看護師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）
 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格選択科目（14単位以上必要）
 は養護教諭免許必修科目

学年配当欄において 囲みで表示している科目については、 囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《テキスト》

市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考図書》

『生命倫理学入門 [第3版]』今井道夫、産業図書、2011
 『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業の到達目標》

- ・生命倫理学とは何か説明できる。
- ・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
- ・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、ターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《授業時間外学習》

授業で試聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《成績評価の方法》

(1) 毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。(80%)
 (内訳：記述形式 40%、記述内容40%) (2) 定期試験 (20%)

《備考》

自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴って生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴って生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴って生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要性について学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

- * 発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
- * 発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
- * 発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》

授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》

試験 100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション生涯発達心理学とは	オリエンテーション 発達の概念 発達の原理 発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境 野生児の記録 家系研究 双生児研究 親の養育態度
3	乳児期の心理 1	乳児期の認知 感覚運動的知能 脱馴化 愛着 基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理 1	幼児の認知 前概念思考期 直観的思考期 象徴機能 3項関係 心の理論ことばの獲得
5	幼児期の心理 2	社会性の発達 遊びの発達 自律性/恥・疑惑 主導性/罪悪感
6	児童期の心理 1	児童期の認知発達 具体操作期 クラスの概念 脱中心化 勤勉性/.等感
7	児童期の心理 2	ギャング集団 道徳性の発達 向社会的行動の発達 学校ストレス 心身症
8	青年期の心理 1	過渡期 文化相対論 自我の覚醒 自主自律の要求 異議申し立て 精神的離乳
9	青年期の心理 2	第 2 反抗期 脱衛星化 感情の論理 理想主義 自己主張・自己顕示
10	青年期の心理 3 成人期の心理 1	自我・一性の確立 再衛星化 職業への準備 恋愛と結婚 青年から成人へ仕事と家庭
11	成人期の心理 2	一家を構える 親意識 仕事における自己拡大 仕事と家庭 親密性/孤立 愛
12	中年期の心理 1	個性化 第 2 の人生 生活の再構造化 体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理 2	生殖性/停滞 世話 更年期 自殺 夫婦の危機 子どもの成長と独立
14	老年期の心理 1	加齢と老化 統.性/絶望 英知 高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理 2 まとめ	引退の危機 健康の危機 死の危機 サクセスフルエイジング

科目名	人間関係論（含カウンセリング）				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくれるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

* 人間関係に関する専門用語について説明できる。* 自分を取り巻く人間関係について把握できる。* 自分の対人関係の在り方を理解できる。* 人間関係に起因する問題に向きあい、対処できるスキルを身につける

《授業時間外学習》

身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》

試験 80% 提出物 20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ヤマアラシのジレンマ 個室化・個人化 私事化
2	人間関係論の始まり	科学的管理 ホーソン研究 照明実験 能率の論理・心情の論理
3	集団とリーダーシップ1	集団の分類 集団の機能 集団決定 向社会性 リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ2	オハイオ研究 リーダーシップ行動論 状況理論 成熟理論
5	対人関係と自己理解1	ジョーハリーの窓 自己概念 自己概念の形成 公的自己意識 私的自己意識
6	対人関係と自己理解2	自己評価と他者評価 客観的自己理解 パーソナリティ 価値観 パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解3	印象形成 対人魅力 ソシオメトリー 愛他的行動
8	対人関係の種類	共感性 恋愛類型 対人類型 愛着の内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション1	コミュニケーションプロセス 文脈 ノイズ ことばの意味論 外延 内包
10	カウンセリング1	アドバイス・ガイダンス・カウンセリング・セラピー ロジャースの人間観 自己概念と現実
11	カウンセリング2	カウンセリングの過程 ラポート 受容 積極的傾聴 共感的理解 沈黙 感情の反射問題への気づき 洞察
12	対人関係の分析1	交流分析 自我機能 自我防衛機制 構造分析 3つの心 エゴグラム
13	対人関係の分析2	交流分析 交流パターン 平行的（相補）交流 交叉的交流 仮面的交流 ゲーム分析
14	対人関係の分析3	交流分析 ストローク ストローク論 脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル	Lazarus & Folkmanモデル 対人ストレスイベント ストレスコーピング パーンアウト アクション ソーシャルスキル

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

哲学の主要テーマである「真理」と「知識」の問題についてどのような哲学的議論があるか概説し、哲学的思考の特徴を理解できるようにする。それを基に、哲学上の自然主義と反自然主義の各立場が知識と言語、言語と行為、意志と行為、心身問題といったテーマにおいてどのように展開されているかについて考察する。また、個人と社会（社会哲学）、実存の問題についても若干の考察を試みたい。

《テキスト》

門脇俊介著『現代哲学』産業図書

《参考図書》

授業中に適宜紹介する。

《授業の到達目標》

「哲学」とはどのような営みであるかについて理解できるようにする。人間が持ち得る「知識」の成り立ちについて、分析的に把握できるようにする。心身問題について理解できるようにする。個人と社会、公共の利益と社会契約という視座について理解できるようにする。個人の実存とコミュニケーションの成立に関して、客観的な視座を持てるようになる。

《授業時間外学習》

- ・テキストの予習と復習を通して、哲学論文の要旨を読解できるよう練習する。
- ・授業で紹介する哲学者の思想について復習するとともに、参考図書や各哲学者の著作に触れてみることで理解を深めるように努める。

《成績評価の方法》

平常の課題レポート（60%）および学期末のレポート（40%）で評価する。

《備考》

- ・提出するレポートは必ずホッチキス止めをすること。
- ・その他受講上必要な注意事項については、最初の授業およびその都度授業内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	～哲学への誘い～ 哲学とは何か	授業進行のためのガイダンス 「哲学」の開始、古代自然哲学から近代の知識論へ
2	「知識」に関する自然主義と反自然主義の問題	人間が何かについて「知る」ということについての2つの異なる態度について
3	「知識」とは何か	「知識」とは何であり、どのようにして成立するのかについて
4	「知識」の2つのあり方	ア・プリオリな知識とア・ポステリオリな知識について
5	「信念」の正当化と知識	「信念」の正当化に関する異なる立場、心理主義と規約主義について
6	「知識」はどこに成立するのか	实在論と観念論の対立
7	「信念」はいかにして正当化されるのか	基礎づけ主義と整合説の対立
8	「知識」と「言語」の問題	「真理」と「知識」の基盤としての言葉の意味の由来、要素還元主義について
9	「言語」と「行為」の問題	言語規則と言語行為論について
10	「知識」はどこに成立するのか	知識論と心身問題
11	心身問題の異なる立場	随伴現象説、同一説および機能主義について
12	「意志」と「行為」の問題	行為の因果説と反因果説について
13	社会と哲学の問題	自由意志と一般意志について
14	社会と哲学の問題	一般意志と社会契約説について
15	個人の実存の問題 まとめ	コミュニケーションと正当化の問題および人間の現実存在（実存）の問題について

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、事実を超えてさまざまな世界を構築し、そこに触れる人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学及び現代小説を取り上げるが、各作品における言葉の持つ面白さや意味について考え、また作品のテーマについても考察する。

《テキスト》

毎回、作品の一部をコピーして配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

さまざまな文学作品に接して、それらの言葉を読み解き、作品のテーマについて考えることで、言葉というものについての理解を深める。またそのことにより、現代社会を生きていく上で参考となる、言葉によって表現された多様な価値観について自ら考える力を身につける。

《授業時間外学習》

配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《成績評価の方法》

授業時の意見文やレポートなどを提出することによる平常点(30%)、及び、定期試験(70%)によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方とその生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	源氏の武将たちの戦い方と生き方について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らの生き方と死に方について考え、また『平家物語』のテーマである無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
6	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の人生と生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生や青少年を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	現代社会をテーマとした小説や、会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてふりかえり、言葉について考える。

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物の資料をはじめ、視聴覚資料を多く提示し、受講生がこれまで気付かなかった日本美術の面白さを発見する手がかりとなる授業をめざします。

《授業の到達目標》

日常生活にある行事や習慣のなかに日本の美を見出すことができる。日本の文化について広く関心を持ち、自ら学ぶことができる。芸術全般を楽しむことができる。

《成績評価の方法》

日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの提出（100%）により評価します。

《テキスト》

なし。

《参考図書》

『日本美術の特質』矢代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》

各授業時に所定の内容を指示します。

《備考》

レポートの作成と提出の要領については、12月中旬の授業時に連絡する予定です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介 授業内容説明	教員の版画制作の経験と日本美術との関連性について聞くとともに、講義の今後のありかたについての説明を理解する。
2	現代の美術作家紹介-1	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
3	現代の美術作家紹介-2	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
4	現代の美術作家紹介-3	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
5	現代の美術作家紹介-4	現代の美術作家を知り、作品を鑑賞しながら、過去の日本美術及び西洋美術との関連性を理解する。
6	日本の信仰	自然崇拜 神道 仏教が美術に及ぼした影響を知り、日常生活にあるしきたりや習慣のなかにある日本の美を発見することができる。
7	仏教美術-1	仏教伝来から天平時代までの仏像を中心に鑑賞し、中国から朝鮮を経て日本に伝えられた仏像が、日本に定着していく過程の変化と魅力を感じ取ることができる。
8	仏教美術-2	平安時代の密教と鎌倉時代の禅宗について知り、それぞれに大きく異なる仏教信仰のありかたと、美術への表れを、鑑賞から感じ取ることができる。
9	日本の美術-1	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。曼陀羅 倭絵 水墨画
10	日本の美術-2	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。画卷
11	日本の美術-3	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。狩野派 等伯
12	日本の美術-4	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。琳派
13	日本の美術-5	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。奇想の絵師
14	日本の美術-6	日本の絵画を中心に鑑賞し、社会状況との関連性を把握するとともに、時代ごとに異なる美を感じ取ることができる。浮世絵
15	日本の美術-7	日本美術の特質について、そのいくつかをイメージすることができる。

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・ 課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代 ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス 印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派 現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験の観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%レポート・小テストなど10%受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣
 (とても詳しく、心理学全般の内容が記載されています)

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
 ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説。《序章 §1～9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ。《第1章 §1～2, §6～7》
3	覚えているって、どういつこと？(記憶)	記憶のプロセス、記憶にまつわるいくつかの事象。《第3章 §4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方。条件づけなど。《第3章 §1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方。《第2章 §5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	私たちが欲するものを分類。《第2章 §1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)	欲求の階層。思うようにいかないときの行動。《第2章 §2～4》
8	君って、どんな人？(性格)	性格についての心理学の見方。《第4章 §1, 第5章》
9	君って、どんな人？(性格)	質問紙による性格検査の実施。《第4章 §1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観。《第4章 §2～3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質。《第6章 §1～2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果。《第6章 §4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論。心理療法にも言及。《第5章 §4, 第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり。
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解。

科目名	宗教と文化 (仏教)				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業の到達目標》

比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
 現代仏教についての理解をめざす
 仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
 浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約30%
 定期テスト 約40%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の手習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	宗教と文化（キリスト教）				
担当者氏名	塚本 潤一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

なぜ人間は対立するのか、なぜ国際社会は緊張状態が続くのか。それはこの世界が多様な価値観に満ちているにも関わらず、それを知らず、受け止めようとしなからである。まず多様な価値観を理解し、相手を受け入れるところから、共存関係は始まる。本講義では、キリスト教について学ぶ。そしてキリスト教が本来内包していたはずの、異なった価値観の人々を受け入れる視点を、講義を通して身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

- *キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。
- *キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に配布するレポート用紙を用いて、次回の講義に提出する復習レポート（60%）、および期末レポート（40%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。ビデオを使って、世界の諸問題およびキリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	世界の「今」を知る	この世界にはさまざまな問題がひしめいている。人口問題、環境問題、水・食糧問題、貧困と格差、民族間・宗教観対立など、世界の「今」を知る。
3	中東問題をひもとく	一向に解決のきざしの見えない中東問題。特に、パレスチナ・イスラエル問題を三千年以上にわたる歴史をひもときながら解決の糸口を探る。
4	旧約聖書を学ぶ（1）	奴隷で始まり、奴隷に終わってしまった旧約聖書の悲しみの歴史を学ぶ。力と富による繁栄は一瞬で過ぎ去り、すべてを失ってしまったことを学ぶ。
5	旧約聖書を学ぶ（2）	力と富をひたすら求めてきた旧約聖書の民は、すべてを失った時に、大きな価値観の転換を迫られる。自分たちが本当に求めるべきものはなにであったのか？
6	旧約聖書を学ぶ（3）	力と富ではなく、神の言葉が必要であると気づいた民に、神は「救い主」を送ることを約束する。「救い主」とは何なのか、その驚きのイメージを学ぶ。
7	新約聖書を学ぶ（1）	今から二千年前に一人の人が生まれた。その名は「イエス」。30年あまりの短い生涯であったが、その存在は世界を動かすことになった。その生涯を学ぶ。
8	新約聖書を学ぶ（2）	イエスの言葉、行い、他者との関わりについて学び、その独創性に触れる。そしてイエスの伝えなかった「愛」「罪の赦し」について考える。
9	新約聖書を学ぶ（3）	イエスはたった一年の活動で、逮捕され、無実であったにもかかわらず、十字架刑という死刑で息を引き取る。なぜイエスは殺されなければならなかったのかを探る。
10	キリスト教の成立	十字架の上で死んだイエスは復活し、その愛は時を越え普遍的なものとなった。こうして、旧約聖書の「救い主」とは、イエスであったと受け止めるキリスト教が成立する。
11	ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の関係を知る	現代において対立関係にあるように見えるユダヤ教、イスラム教、キリスト教が、実は同じ旧約聖書を正典とする親戚関係にあることを学ぶ。
12	キリスト教の諸教派について学ぶ	キリスト教の成立以降、ローマ・カトリック教会、東方正教会、プロテスタント教会と様々な教派が生まれてきた。それらを見渡し、整理していく。
13	キリスト教の歴史の光と影	キリスト教の二千年間の歴史は、素晴らしい光の側面があり、同時に世界に様々な影を落としてきた。その功罪を歴史的に振り返る。
14	対立を乗り越えるために	文明は衝突したままなのか、諸宗教は対立を続け、常に国際関係は緊張状態が続けるのか。対立を乗り越え、世界が共存関係を築くためには何が必要なのか、共に考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。また国際理解をどのように深めていけばよいのか整理する。

《テキスト》

プリント（毎授業ごとに配布する）

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『不思議なキリスト教』橋爪大三郎×大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『キリスト教との出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、
- 『旧約聖書に強くなる本改訂新版』浅見定雄著（日本キリスト教団出版局）2010

《授業時間外学習》

- *その日の復習レポートをまとめ、次回の授業に提出する。（レポート用紙は授業ごとに配布する）
- *日頃からキリスト教の正典である聖書を読んでおく。
- *配布する資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

*私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

科目名	宗教と文化（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

世界におけるムスリム（イスラム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラムの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラムに関心を持ち、激動期に入ったイスラムをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる現状を把握できる。
- ・イスラムに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・授業終了後に課すレポート(50%)と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面からイスラムと民主主義の関係について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の交流を歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考図書》

白杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか』青土社、2011/ 河田尚子『イスラムと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラムを知る12 イスラム銀行金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003/ レザー・アスラン『変わるイスラム 源流・進展・未来』藤原書店、2009

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェック、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》

- ・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲富 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけでなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような身の回りのデザインと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考図書》

- ・以下のような文献が授業の理解を深めます。
- ・『世界デザイン史』阿部 公正、美術出版社,1995
- ・『近代椅子学事始』島崎 信、ワールドフォトプレス,2002
- ・『20世紀ファッションの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建築のかたちは何によって決ま	住宅と家族の生活の関わり
3	携帯電話デザインの変遷	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法
4	材料と椅子のデザイン	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展
5	デザインと地域性	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連
6	デザインの歴史(1)	クラシックなデザインの系譜(ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	デザインの歴史(2)	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(ルネサンスから新古典様式)
8	デザインの歴史(3)	社会の変化とデザインの関わり(アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	映像の構成方法	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法
10	自動車の発展とデザイン	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト
11	近代以降のファッションの歴史	20世紀ファッションの系譜と大衆化現象
12	都市のデザインと思想	世界の都市における都市形態の決定要因
13	和風デザインの系譜	懐石料理と茶室の背景
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評の	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどのような色が注意して見ておくこと。

《成績評価の方法》

小テスト(50点)、カラーリング課題(50点)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(1)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(2)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どのような色調がどのようなイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故そのような現象が起こるのかを考える。
9	配色調和(1)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(2)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどのようにつくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

科目名	音楽表現				
担当者氏名	田中 敬子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

音楽の3大要素のリズム・メロディー・ハーモニーのうち、まず音符が読めなくてもできるリズムから授業を始めます。リズムアンサンブル、ボディーパーカッション、ボイスパーカッションでリズムで表現できる様々な音楽活動を行います。単旋律の活動としてハンドベル、カウベル、トーンチャイムなどのアンサンブルをします。最終的にはハーモニーをつけてのアンサンブルを行います。

《授業の到達目標》

さまざまなリズムが理解できるようになる。
共同活動を通して、自分の役割を理解できるようになる。
アンサンブルを行うことで、より深く音を聞くようになる。
アンサンブルの音楽活動の楽しさを知る。
自らアレンジすることができるようになる。

《成績評価の方法》

授業態度30% (座席指定。積極的な授業参加を評価)。
授業中に実施の学期末発表50% (定期試験は実施しない)。学期末発表は全員の前での実技発表 (個人発表、グループ発表など任意)
レポート20%

《テキスト》

適宜プリントを配布

《参考図書》

《授業時間外学習》

原則的に予習の必要はない (必要な時のみ事前に指示する)。毎回の授業時の実践が一番大切である。復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問して下さい。

《備考》

1. 授業計画については、授業の進行状況に応じて適宜変更することがある。2. 講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁 (発覚時は減点)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。リズムについての説明と簡易なアンケート調査。
2	リズムでアンサンブル	2グループによるリズムアンサンブル。リズム打ち+リズム打ち、ピアノとリズム打ち、歌唱とリズム打ち、等
3	リズムでアンサンブル	3～4グループによるリズムアンサンブル。「釣られたら負けよ」勝ち抜き合戦。
4	ボディーパーカッション	初級ボディーパーカッション～中級ボディーパーカッション
5	ボディーパーカッション	上級ボディーパーカッション。創作してみよう。
6	ボイスパーカッション	ボイスパーカッションのみのアンサンブル。ボイスパーカッション+ボディーパーカッション。
7	アルプスの楽器	カウベル、木のスプーンの楽器紹介。カウベルアンサンブル。カウベル1人演奏。アルプスの曲を演奏しよう。
8	ハンドベル	ハンドベルの楽器紹介。ハンドベルで楽曲を演奏するまでの準備について。ハンドベルアンサンブル。
9	ハンドベルの復習 トーンチャイム	ハンドベルの復習。トーンチャイムの楽器紹介。トーンチャイムを鳴らしてみよう。
10	トーンチャイム	トーンチャイムで楽曲を演奏するまでの準備について。トーンチャイムアンサンブル。
11	トーンチャイムの復習、 学期末発表について	トーンチャイムの復習。学期末発表の構想。
12	学期末発表の練習	個人またはグループで練習。
13	学期末発表の練習	個人またはグループで練習。
14	学期末発表	全員の前で個人またはグループで実技発表。
15	総合復習とレポート提出	総まとめとレポート作成・提出。

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

19世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（1830 - 60）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テキストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》

アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》

期末レポート（50％）、授業中に実施する小テスト（50％）

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》

配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	1776年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	1800年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家 Emerson	Ralph Waldo Emerson (1803 - 82) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家 Thoreau	Henry David Thoreau (1817 - 62) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家 Hawthorne	Nathaniel Hawthorne (1804 - 64) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter (1)	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter (2)	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家 Melville	Herman Melville (1819 - 91) の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick (1)	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick (2)	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

この授業では、新書などを中心に、現代社会におけるさまざまな問題を論じた文章を扱う。そこで述べられている多様な意見を読み、その内容を論者の立場に立って理解し、それに対して、自分たちの意見を持つように心懸ける。

《テキスト》

毎回、コピーを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業の到達目標》

論説文の読解力を身につけ、できるだけ論理的に物事を考え、自らの意見を持てるようにする。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読し、分からない言葉は辞書を引いておくこと。

《成績評価の方法》

授業中に提出する意見文（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、日本の伝統文化などについての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困、競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化社会についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	日本人の身体とはどのようなものか、についての評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	日本人の身体とはどのようなものか、についての評論を読む。
13	近代とは何かについての評論を読む	明治時代に西欧から導入された近代のさまざまな仕組みのゆがみが指摘されているが、そのことについての評論を読む。
14	近代とは何かについての評論を読む	明治時代に西欧から導入された近代のさまざまな仕組みのゆがみが指摘されているが、そのことについての評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

歴史って、嫌だよな。奇々怪々な暗記にウンザリしたよな。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよな。でも、安心して！ この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからね。覚えるんじゃないで、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》

1. 時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。2. 現代人の魂の根に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気づき、共感することができる。3. 人間の価値感の根にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》

学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》

なし

《参考図書》

勝俣鎮夫『戦国時代論』 学術書だけど、読みやすくブツ飛んだ内容。ノ網野善彦『増補 無縁・公界・楽』 必読教養書。危険な内容。ノ橋爪大三郎『はじめての構造主義』 「柔らかく頭」のための基本書。ノ今村仁司『排除の構造』 頭痛に襲われたいという方へ。ノ『週間朝日百科 日本の歴史』 前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》

この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》

常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場 1	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場 2	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場 3	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁 1	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁 2	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括 1	全体を振り返る
15	総括 2	全体を振り返る

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	講義	単位・必修	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
 状況に応じて用語を使い分けできる。
 基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
 資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

- (1) 授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
- (2) 課題等の提出状況およびその内容20%
- (3) 定期試験（レポート試験）50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点を理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第1回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第1回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第1回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第5回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第3回」・「第4回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第5回」・「第6回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《テキスト》

『新版 大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
 その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考図書》

『国語表現ハンドブック 新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
 『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

- (1) 授業時に配布する課題プリント等を指定時までには仕上げる。こと。（提出または提示を求める。）
- (2) 教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《基礎・教養科目 教養科目 社会系》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》

目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考図書》

適宜指示する

《授業の到達目標》

リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》

予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》

授業態度（40%）および定期試験による評価（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道德、法の適用
2	基本的人権	プライバシー権
3	基本的人権	表現の自由
4	基本的人権	生存権
5	基本的人権	自己決定権
6	基本的人権	信教の自由
7	基本的人権	法の下での平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法	結婚・離婚、内縁
11	家族と法	親子、親権
12	家族と法	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《備考》

法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	社会の規範、法の種類、法システム、国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	明治憲法の成立過程と特質、日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	人権の特色・種類、「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	「法の下での平等」原則について、また、「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	「象徴天皇制」の意義・内容、選挙制度の内容、「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	国会の組織・権能、内閣の組織・権能、議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	司法権独立の意義、裁判所の組織・権能、司法の民主的統制、また、「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力				

《授業の概要》

現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》

様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
 差別を見抜く力を身につけましょう。
 人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
 人権感覚を豊かにしましょう。いのちとは何かを総括します。

《成績評価の方法》

定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》

テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

共生教育のすすめ 仲田 直
 これでわかった！部落の歴史 私のダイガク講座 上杉聡
 これでなっとく！部落の歴史 続私のダイガク講座 上杉聡

《授業時間外学習》

配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》

出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます。
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考えます。
5	日本近世の身分制について	土農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくられたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられ、固定概念しての男女の様々な性差別を考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

政治学のボキャブラリーを使用して、現実には起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 <small>小さな政治と大きな政治</small>	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 <small>様々なアクター・利益</small>	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 <small>政党と選挙</small>	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。

20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史 - 世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、分かった社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。
 (配点：文章作成能力および知識の定着度45点)
 定期試験(持ち込み不可)により学習達成度を評価する。
 (配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点)

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵(2007,有斐閣アルマ)

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也(2000,日本実業出版社)、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析(1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、..と他者
3	行為の分析(2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析(3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析(4)正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類 社会的カテゴリー
6	行為の分析(5)予言の..成就	予言の..成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析(6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序(1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序(2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序(3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序(4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる(1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる(2)国家と..民社会	個人と社会、..由と連帯、..民社会、共同体、私的領域と公共領域 公的領域、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	(適宜指示を行う)
15	学習の総まとめ(2)	(適宜指示を行う)

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 恵子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること/男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点をういながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語るができるようになる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
- (3) 講義のなかから、分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て/女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
7	女の時間/男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間/男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ	(適宜、学習内容を提示します)
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）
『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう(1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう(2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割(1)	競争の市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割(2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう(1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう(2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう(3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力				

《授業の概要》

シラバスを登録するシステムに問題があるため、詳細な内容については初回授業時に説明するが、概要は以下のとおり。

この授業では物理の考え方を知らするために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容あるいは進行方法を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組み(20%)、レポート及びペーパーテスト等(80%)により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

未定

《参考図書》

シラバスを登録するシステムに問題があり、正確に登録できないため、詳細な内容については初回授業時に説明する。

《授業時間外学習》

シラバスを登録するシステムに問題があるため、詳細な内容については初回授業時に説明する。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合演習(2)	これまでのまとめ
2	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定(大切なので履修希望者は必ず出席のこと 単位に関する意見の確認も行います)
3	物理の考え方(2)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(2)
4	力学の初歩と基本定理(1)	静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理(2)	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理(3)	加速度と運動方程式(1)
7	力学の初歩と基本定理(4)	加速度と運動方程式(2)
8	力学の初歩と基本定理(5)	運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理(6)	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学(1)	光や波の性質について(1)
11	電磁気学(2)	光や波の性質について(2)
12	相対論	時空間4次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習(1)	問題演習と実験
15	物理の考え方(1)	物理学の考え方と数学の簡単な復習(1) 教学システムに問題があるため、詳細な内容については授業時に説明(以下同様)

科目名	化学				
担当者氏名	薬師寺 大二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

原子や分子の構造、化学結合、物質の状態、有機化学など、化学の基礎から応用までをパワーポイントを使って、視覚的にわかりやすく解説します。

《テキスト》

プリントを配布します。

《参考図書》

- ・「新・物質科学ライブラリ1 基礎 化学」 梶原篤・金折賢二 共著 (サイエンス社)
- ・「一般化学」 長島弘三・富田功 共著 (裳華房)

《授業の到達目標》

生活に必要な衣服や日用品、医薬品など、我々は化学の恩恵を受けています。本講義では、化学が我々にとって必要かつ身近なものだと感じてもらい、また化学の理解を通じて科学的思考を養います。

《授業時間外学習》

授業で配布されたプリントを必ず見直し、分からなかったところは参考書を見るなどして確認してください。

《成績評価の方法》

定期試験により評価(100%)します。

《備考》

積極的な授業参加を期待します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	化学の歴史的背景を踏まえ、化学の基本法則や原子の構成について解説する。
2	原子軌道	原子軌道のエネルギー準位や多電子原子の構成原理について解説する。
3	元素と周期律	元素の周期性、イオン化エネルギー、電子親和力、電気陰性度などについて解説する。
4	共有結合と分子軌道	共有結合の形成、分子軌道のエネルギー、結合と結合などについて解説する。
5	分子の形と混成軌道	メタン、エチレン、アセチレンの形と混成軌道について解説する。
6	種々の化学結合(1)	ファンデルワールス力、配位結合、水素結合などについて解説する。
7	種々の化学結合(2)	金属結合と金属結晶、イオン結合とイオン結晶などについて解説する。
8	物質の三態	理想気体の状態方程式、実在気体、蒸気圧曲線などについて解説する。
9	混合物の状態変化	濃度、ドルトンの分圧の法則、蒸気圧降下、浸透圧などについて解説する。
10	化学反応(1)	酸・塩基反応について解説する。
11	化学反応(2)	酸化還元反応について解説する。
12	有機化学の基礎	飽和炭化水素、不飽和炭化水素、IUPAC命名法などについて解説する。
13	立体化学	立体構造の表示法、構造異性体、立体異性体などについて解説する。
14	低分子有機化合物	官能基、アルコール化合物、カルボン酸化合物などについて解説する。
15	学習のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行う。

科目名	生物学				
担当者氏名	石井 禎基				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

講義全体をとおして、生物に共通する原理や生命活動を支えるしくみを理解できるように、「エネルギー」、「情報伝達」、「システム」をキーワードにして概説していく。

《授業の到達目標》

この生物学の講義の各テーマを自分なりに自分の言葉で説明できるようになることを目標とする。また、生物学はただ単に生物に関する学問でなく、現代の社会背景を考える一助となる学問である。そのため、この講義が新聞記事やテレビ番組などのさまざまな内容をより深く理解する手助けとなることを期待する。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト（70%）と平常点（30%）により評価する。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 南雲保 編集（羊土社）
 フォトサイエンス生物図録 鈴木孝仁 監修（数研出版）

《参考図書》

ケイン生物学 石川統 監訳（東京化学同人）
 基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 著（羊土社）
 理系総合のための生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 編集（羊土社）
 エッセンシャル細胞生物学 中山桂子・松原謙一 監訳（南江堂）
 ヒューマン・イマジネーション 坂井建雄・岡田隆夫 監訳（医学書院）

《授業時間外学習》

生物学の用語とその定義を理解し、その用語を利用しながら生物学の事象を自分の言葉で説明できるように復習をする。

《備考》

常に考えながら講義を聴くこと。大切だと思うところはメモをとること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物学について	生物学におけるものの考え方と生物学の階層構造について。
2	生物とは	生命の歴史の概観、生物の分類体系、生物の共通する特徴など。
3	生命系の化学的構成部品	生物は、共通する基本的な物質からできている。
4	細胞膜と浸透圧	生命の基本単位である細胞をを形作る細胞膜の特性と細胞に作用する物理的現象について。
5	細胞内外への物質の出入り	細胞は、細胞膜を通して必要な物質を取り入れ不必要なものを排出する。また、産生した物質を分泌する。
6	生物・環境間のエネルギーの流れ	生態系においてエネルギーと物質は循環している。
7	代謝・酵素・共役反応	生命活動におけるエネルギーの受け渡しはどうやって行われるのか。
8	細胞内のエネルギーの流れ	細胞内でエネルギーはどのような形で利用されるのか。
9	細胞間の情報伝達	多細胞生物は、細胞どうし互いに連絡をとっている。
10	細胞内の情報伝達	他の細胞から送られた情報が細胞内でどのように伝達されるのか。
11	遺伝情報	子孫に伝えられる特徴の情報とは何か。
12	遺伝情報の伝達	遺伝情報はどのように伝達されるのか。
13	運動のシステム	運動は、骨・関節と神経と筋肉の働きで起こる。
14	生体内環境維持のシステム	ヒトの内部環境の変動は小さい。
15	身体を守るシステム	生物は、外からの侵入者や自分でないものに対して防御する。

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力				

《授業の概要》

誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》

- ・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
- ・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
- ・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
- ・遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明：食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《テキスト》

「食生活論 第3版」福田靖子、小川宣子編（朝倉書店）

《参考図書》

「食生活論」遠藤金次他編（南江堂）「健康と食生活 改訂版」吉田勉編（学文社）「私たちの食と健康」吉田勉監修（三共出版）

《授業時間外学習》

- ・毎回、テキストをしっかりと読んで勉強してくること。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
- ・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》

授業初回到授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を發展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。大学生活や社会生活に必要な、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》

読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
 各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
 文章やデータなどの情報をまとめ、図表やグラフなど適切な表現を用いた口頭発表の資料を作成できる。

《成績評価の方法》

課題の提出物80点、授業中に出题する質問への回答（ミニッツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など/eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理(ここまで)のふり返り
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	これまでの学習のふり返り

《テキスト》

授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
 その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考図書》

矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社。
 奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社。
 その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》

提出課題を仕上げるのが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》

パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 2』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction/Orientation	教員紹介・自己紹介。
2	Unit 7: At a supermarket	スーパーで買い物。
3	Unit 7: Clothes & colors	洋服とファッションの話。
4	Unit 8: Shops and Stores	海外で買い物のHow To.
5	Unit 8: Places in Town	方向を説明すること。
6	Unit 9 Hobbies	趣味の話し。
7	Unit 9: Indoor Exercise	Sportsについての話。
8	Unit 10: Travel Plans	旅行をすること。
9	Unit 10: Trip Preparations	旅行の計画・準備。
10	Unit 11 Quantities	数量・分量を述べること。
11	Unit 11: Cooking	料理を作る等。
12	Unit 12: Job Skills	仕事に重大な能力・手腕。
13	New Year's Holidays	お正月の話。
14	Unit 12: Artistic Talents	芸術の世界。
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	Are you a Student ?	仕事を聞くこと。
3	Names and Jobs	仕事を聞くこと。Part 2
4	People and Places	国籍・住所を訪ねること
5	Phone Numbers and Email	電話番号・メールアドレスを聞くこと
6	Family	家族を説明すること。
7	Family and Friends	家族を説明すること。Part 2
8	Clothing	洋服を語る
9	Favorite Things	大切なものを喋る。
10	Getting Around	日常交通を語る。
11	What time is it?	時間を指示すること。
12	My Routine	日常癖を述べる事。
13	My Weekend	週末の話。
14	Online Habits	オンラインの生活
15	Review and Survey	復習・アンケートを実施。

科目名	英語				
担当者氏名	Michael.H.FOX				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得する可能性がある。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切に指導し、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	興味・興味を述べる
3	Talking About Sports	暇と活動
4	Geography	地理学を語る
5	Weather	気候や天気を述べる
6	Everyday Activities	日常活動を喋る
7	Life Experiences	人生の主な体験を語る
8	School Subjects	学内の教科・科目について語る
9	At School	大学にて。。話し合い
10	Phone Messages	電話で英語を
11	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
12	Wishes	将来の希望
13	Opinions	意見を述べる事
14	Getting Away	海外へ旅行
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考図書》

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2) 定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、 日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（あなたは誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿・形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（その人はどんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

科目名	フランス語				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、1年に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《テキスト》

『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考図書》

《授業の到達目標》

普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《成績評価の方法》

(1)授業中に会話の応答が出来るか、筆記問題が出来るかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令・依頼の表現	様々な状況でひとに命令・依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

科目名	ドイツ語				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テスト（20％）を行うほか、ノートの提出（30％）、それに期末試験（50％）によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベット、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編 1	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

科目名	ドイツ語				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《テキスト》

在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考図書》

適宜資料を配布する

《授業の到達目標》

今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《授業時間外学習》

必ず予習をして聴講すること

《成績評価の方法》

事前に告知して小テスト（20％）を行うほか、ノートの提出（30％）、それに期末試験（50％）によって評価する。

《備考》

教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってこること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編 2	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法 1	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法 2	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編 1	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編 2	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編 3	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編 4	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 1	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習 2	動詞の人称変化。

科目名	中国語				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 復母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語				
担当者氏名	佟 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

この講義は中国語初級・中国語 の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語 』
陳 淑梅 ・ 劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
会話 簡単な日常会話ができる。
中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法
CDを聞くこと
新出単語をチェックすること
- ・ 復習の方法
CDを聞くこと
会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・ 授業態度20%
- ・ 課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・ 期末試験60%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・ 中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
- ・ 毎回出席をとる
- ・ 授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	数の言い方 ・ お金の言い方 形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	量詞（ものの数え方） 動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	時刻の言い方 状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	時間量の言い方 完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	前置詞「給」 助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	現在進行形の言い方 助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める

《授業の到達目標》

- 1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
- 2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
- 3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音 基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音(10個)について説明する。
2	文字と発音 子音(平音)	韓国語の基本母音を復習後、基本子音(10個)を学ぶ。
3	文字と発音 子音(激音・濃音)	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音 二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音 子音(終声子音)・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1):韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字:日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語				
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力				

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語(文法編)』 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

- 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
- 『パスポート朝鮮語小事典』 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
- 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞)について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2): 韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字: 日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを实践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《授業時間外学習》

<予習方法>
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
<復習方法>
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配布する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院) 『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院) 『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著(杏林書院) 『からだの「仕組み」のサイエンス』運動生理学の最前線 加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》

毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《成績評価の方法》

小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（20％）各分野の学習後に課すレポート課題（60％）平常点（20％）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	15週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	1年 期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自1日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	10週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しよう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える
15	学習	学習のまとめ

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク 等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法> シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

科目名	健康・スポーツ科学（演習）				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
『からだロジック入門』（宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットパードゴルフ・ベタンク等の中から1種目実施。
5	屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
7	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
8	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
9	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
10	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
11	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
12	屋内種目（体育館）	前週 実施グループ 屋内種目（体育館）を実施
13	屋外種目（テニスコート・周辺）	前週 実施グループ 屋外種目（テニスコート・周辺）
14	屋外種目（グラウンド）	前週 実施グループ 屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《基礎・教養科目 教養科目 キャリア系》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	森本 次郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3～4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら体験的に「キャリアデザイン」を学ぶ。

《テキスト》

寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房、2012年

《参考図書》

講義中適宜指示する

《授業の到達目標》

自分自身やキャリアについて様々なワークを通じて学ぶことにより、有意義な大学生活を過ごすための力や、将来のキャリアを考える力を身につける。

《授業時間外学習》

予習については、テキストのねらい・予備知識の部分をシラバスの進行に合わせて事前に読んでおく。
復習については、毎回の授業の課題等を整理し、文書化して自身のキャリアデザイン・就職活動に活用できるようにまとめる。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度等） 50%、毎回実施するレポート 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業のねらい
2	自分のキャリアを考える	大学時代のキャリア形成
3	自分のキャリアを考える	かなえたい夢について考える
4	自己理解を深める	現在の自己の全体像を知る
5	自己理解を深める	自我状態を知る
6	自己理解を深める	自分の性格を知る
7	自己理解を深める	歩んできた道を振り返る
8	自己理解を深める	将来像を考える
9	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
10	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
11	キャリア理論を学ぶ	キャリア実践方法を知る
12	社会人基礎力を身につける	社会で求められる能力を知る
13	社会人基礎力を身につける	論理的思考（ロジカルシンキング）を身につける
14	社会人基礎力を身につける	創造的思考（クリエイティブシンキング）を身につける
15	まとめ	自己理解をまとめる

平成 25 (2013) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成25年度（2013年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	看護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年	2年	3年	4年			
専 門 基 礎 科 目	社会福祉論 人間関係論(カウンセリングを含む) 家族関係論 精神保健 環境保健学 保健医療福祉行政論 公衆衛生学(疫学含) 保健統計学	講義	2				2					竹内 一夫	108	
		講義	2				2					竹内 一夫	109	
		講義	2				2					[南川 博康]	110	
		講義	2				2							
		講義	1						1					
		講義	2						2					
		講義	2						2					
		講義	2						2					
	構造と機能の 群(人体の)	基礎生物学	講義	2				2					不開講	
		形態機能論	講義	2				2					[水口 龍次]	111
		形態機能論	講義	2				2					[水口 龍次]	112
		生化学	講義	2				2					[溝邊 雅一]	113
		栄養学(食品学を含む)	講義	2				2					(真鍋 祐之)	114
		薬理学	講義	2					2					
		免疫・微生物学	講義	2						2				
	及び回復の促進 の群(疾病の)	臨床病理病態学(内科系)	講義	2						2				
		臨床病理病態学(内科系)	講義	2						2				
		臨床病理病態学(外科系)	講義	2						2				
		臨床病理病態学(産婦人科・小児科系)	講義	2						2				
	群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2				2					道廣 睦子	115
		看護理論	講義	1				1					道廣 睦子	116
		ヘルスアセスメント	演習	1				1					小林・森崎・星・明石	117
		看護技術論(生活技術援助)	演習	2				4					小林・森崎・星・明石	118
		看護技術論(診療技術援助)	演習	2					4					
		看護技術論(看護過程)	演習	1						2				
		基礎看護学実習	実習	1				3					道廣・小林・森崎・星・明石	119
		基礎看護学実習	実習	2						6				
看護教育学		講義	1							1				
看護倫理		講義	1							1				
看護管理学		講義	1							1				
群(成人・老年看護学)		成人看護学概論	講義	2						2				
		成人看護援助論(生命危機状態にある人)	講義	2							2			
		成人看護援助論(常態の維持・増進が困難な人)	講義	2							2			
	成人看護学実習	実習	3								9			
	成人看護学実習	実習	3								9			
	老年看護学概論	講義	2						2					
	老年看護援助論	演習	2							4				
	老年看護学実習	実習	2								6			
	老年看護学実習	実習	2								6			
	小児看護学	母性看護学概論	講義	2						2				
母性看護援助論		演習	2							4				
母性看護学実習		実習	2								6			
小児看護学概論		講義	2						2					
小児看護援助論		演習	2							4				
小児看護学実習	実習	2								6				

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
専 門 実 践 科 目	精神看護学概論	講義	2						2				
	精神看護援助論	講義	2							2			
	精神看護学実習	実習	2								6		
	在宅看護概論	講義	2						2				
	在宅看護援助論	講義	2							2			
	在宅看護実習	実習	2								6		
	公衆衛生看護学概論	講義	2						2				
	健康教育論	講義	1							1			
	学校保健概論	講義	1						1				
	国際看護学	講義	1							1			
	災害看護学(災害保健を含む)	講義	1								1		
	専 門 教 育 科 目	基礎ゼミ	演習	2				2					*1
看護研究(基礎編)		講義	2						2				
看護研究(応用編)		演習	2							2			
リスクマネジメント論		講義	1						1				
看護の統合と実践実習		実習	2							6			
専 門 関 連 科 目	疫学	講義	2						2				
	公衆衛生看護学活動展開論	演習	2						4				
	健康相談活動の理論と実践	講義	2						2				
	産業保健論	講義	1						1				
	公衆衛生看護学実習	実習	1							3			
	公衆衛生看護学実習	実習	4								12		
	公衆衛生看護学特論	講義	1								1		
	学校保健活動論	講義	2						2				
教 諭 関 連 科 目	学校保健演習	演習	2							2			
	養護概説	講義	2						2				

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は養護教諭免許必修科目

*1 道廣・加藤・若井・新田・小林・瀧本・白神・小島・久井・秦・森崎・高橋・大植・弘中・星・柴田・未定・渋谷・東・藤本・廣田・明石

授業 区 分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				2					[砂子 滋美]	121
	教育原理	講義	2				2					(廣岡 義之)	122
	教育心理学	講義	2					2					
	教育制度論	講義	2				2					(廣岡 義之)	123
	教育課程論(道徳、特別活動を含む)	講義	2					2					
	教育方法・技術論	講義	2					2					
	生徒指導論(進路指導を含む)	講義	2					2					
	教育相談(カウンセリングを含む)	講義	2					2				(原 志津)	124
	養護実習(事前事後指導を含む)	実習	5							5			
	教職実践演習(養護教諭)	演習	2								2		

は養護教諭免許必修科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法(2単位)、体育(2単位)、外国語コミュニケーション(2単位)、情報機器の操作(2単位)について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	社会福祉論				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

いま医療も福祉も利用者の自己決定権を尊重し、支援をしていくことが求められている。社会福祉は、人々がいかなる状況に置かれようとも、より良き生活が確保されることを保証していくための方法であり、そのためには彼らのニーズを全人格的にとらえることが不可欠な要素となる。社会福祉論では、医療チームの一員として人々に関わる看護師に不可欠な社会福祉の視点、支援方法について学ぶ。

《授業の到達目標》

我々を含め、利用者が持つ生活課題を多面的に分析、理解できるようにする。

利用者の生活を支援することと、看護がどのように関わるかが理解できるようにする。

対人援助専門職に不可欠な価値態度が理解でき、人の全人格的な痛みに対する共感性を養うことができる。

《成績評価の方法》

講義への出席は必須とする。成績評価は、受講態度、定期試験、課題レポート等の提出でおこない、各項目の成績への関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題レポート等20%とする。

《テキスト》

系統看護学講座 専門基礎分野
社会福祉 - 健康支援と社会福祉 - 医学書院 2011

《参考図書》

新・社会福祉士養成講座 4
現代社会と福祉 社会福祉原論 中央法規出版 2009

《授業時間外学習》

常に社会の動き、医療の動き、社会福祉の動きに関心を持つべく、新聞、専門雑誌に目を通すこと。原則シラバスと教科書に沿って授業を進めます。授業の該当箇所はあらかじめ目を通して授業に参加してください。

《備考》

授業時間中の質問は大歓迎です。わかるまで聞いてください。自分だけがと思わないで、授業に参加してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉を学ぶ	貧困とは、社会福祉援助とは、社会福祉の必要性とは、社会福祉の今日的意味とはなど、社会福祉を学ぶ上での基本的概念について学習する。
2	社会福祉の歴史的発展と課題	社会福祉のこれまでの発展過程でみられた問題の整理をし、社会福祉が現代社会でどのような役割、どのような専門性を期待されているのかを概観する。
3	現代社会の変化と社会福祉、社会保障の動向	大きく変化した現代社会で、社会福祉が求められた変化と、生活問題に対応する社会保障制度が果たすべき役割と課題について学習する。
4	生活に関わるの医療保障制度と健康保険	医療保障制度としての健康保険制度が我々の健康を守り、保険事故（疾病状況）が起こった時にはどのように対応がなされるのかを学習する。
5	生活にかかわるその他の保障制度	高齢、災害、失業など、疾病以外で、我々の経済状況に大きな影響を及ぼす問題に対応する社会保障の仕組みと施策について学ぶ。
6	貧困と社会福祉	現代社会の新しい貧困の実情、セーフティーネットとしての所得補償と公的扶助の現状を学ぶことで、社会福祉支援の在り方を検討する。
7	次世代を担う子供たちの福祉	地域、家族の介護力、教育力、保育力が著しく衰退している現代社会の中で、子供たちの人権を守り、子供たちの福祉を確保していくためには何が必要かを検討する。
8	超高齢社会と介護保険	人口減少に歯止めがかからないわが国での、高齢社会対策がどのようになされ、介護保険がどのような役割を果たしているのかを学ぶ
9	障害を持つ人たちを支える福祉 その1	社会福祉 6法に規定されている身体障害者福祉法、知的障害者福祉法での障害者支援の現実と問題点について学ぶ。
10	障害を持つ人たちを支える福祉 その2	精神障害者福祉法、発達障害者支援法という後発の障害者支援の法律での支援の現状と課題について学ぶ。
11	社会福祉援助の方法 その1 個別援助技術	個人や家族を対象とした社会福祉援助技術であるケースワーク、カウンセリングについて、特に近年要求される、エビデンスに基づいた支援の在り方について学ぶ。
12	社会福祉援助の方法 その2 集団援助技術	当事者グループや子供たちのグループ支援をはじめとして、集団過程を通じての支援が有効な人々を対象とした援助技術であるグループワークについて学ぶ。
13	社会福祉援助の方法 その3 ケアマネジメント	介護保険のサービス提供の方法として認知されたケアマネジメントは、本来種々の領域での複雑化した問題を持つ利用者支援に優れた方法である。その支援の仕組みを学ぶ。
14	社会福祉援助の方法 その4 その他の援助技術	専門職がその能力を発揮するにはスーパービジョンが、また自分の支援の効果を評価するためには調査という技術が必要とされる。ここではその内容について学ぶ。
15	社会福祉・看護実践でのチームアプローチと連携	人を支援する仕事を現すキーワードには、チームケア、連携、協働、協働という語があげられる。ここでは医療現場、福祉現場、地域での連携、チームケア、協働について学ぶ。

科目名	家族関係論				
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

現代家族は、少子・超高齢社会の中で、伝統的に培ってきた様々な機能が果たせなくなるとともに、DV、非行、虐待、介護問題、離婚率の増加など、様々な新しい問題を抱えてきた。ここでは家族の機能、構造を考えるとともに、現代家族の抱える問題についても検討を加え、看護師として必要な家族ケアの視点を養うとともに、家族支援の在り方、個々の患者へのアプローチ方法についても検討を加える。

《授業の到達目標》

現代家族の直面している問題を理解できるようになる。
 地域社会や社会構造の変化と関連だてて、家族が直面している問題を理解できるようになる。
 家族内での人間関係（夫婦、親子）の形成と、維持について理解できるようになり、解決課題へ取り組む家族の保持力を、家族の発達段階に合わせて理解できるようになる。

《成績評価の方法》

この授業での評価は、受講態度、定期試験、課題達成の3項目で行う。その関与率は、受講態度30%、定期試験50%、課題達成20%とし、その合計で、評価点とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	家族を考える	家族をめぐる諸概念の検討と、現代家族の直面している問題を概観する。
2	家族の発生 パートナー選択と結婚	家族発生の出発点である配偶者の選択がどうなされ、夫婦関係がどのように形成されて行くのかを検討する。
3	夫の役割、妻の役割	伝統的な家族から現代家族まで、その役割は社会の変化とともに変化してきている。今家族はどこに向かって進もうとしているのかを検討する。
4	父なること、母になること	DINKと DEWK、子育てでの夫婦の役割、地域の役割、祖父母の役割について考える。
5	子供の成長と父母の役割	夫と妻から、父親と母親へ、そして祖父と祖母へ、夫婦の成長の過程と老いの過程、そこでの対処課題について検討する。
6	夫婦での看取りと、両親の看取り	必然のこととして、家族というシステムも老いの過程を経て、看取りの過程に直面し、消滅していく。現代社会における看取りの過程での問題点についても検討を加える。
7	伝統的な家族機能と現代家族	伝統的な家族機能から現代家族までの家族機能とそこでの人間関係の特徴を検討する。
8	社会の変化と都市型家族の問題点	地域機能が衰退化してきている現代都市社会において、縮小した家族機能で生活問題に対処を迫られている現代家族の問題点と地域の福祉社会化について検討する。
9	家族員が病んだ時	患者家族としては、どのような精神的、肉体的問題に直面するのか、患者との人間関係、家族間の人間関係にどのような変化が起こるのかを概観する。
10	在宅ケアでのストレスマネジメント	患者へのケアの質を高めるとともに、家族の生活の質を高める家族のストレスマネジメントと課題への対処力の保持について検討する。
11	家族支援者に必要な専門職としての態度	バイスティックの7原則を基本として、対人援助の専門職に必要な価値、態度を学ぶ。
12	家族支援の方法 システム理論からのアプローチ	家族療法の中でシステム理論を用いたシステムズアプローチの概要、アセスメントの方法を学ぶ。
13	家族支援の方法 家族の発達段階と危機の理解	家族問題を理解するために必要な、家族の発達段階および各段階で遭遇する可能性の高い危機状況についての理解、それへの対処方法を学ぶ。
14	家族支援の方法 教育的アプローチ	家族の課題への対処能力がある程度認められる場.に、プログラム化された訓練としてそれらの能力を強化していく教育的プログラムについて概観する。
15	家族支援の方法 心理学的アプローチ	家族援助の心理的諸技法について概観し、援助方法による関わり方の差異、評価方法の特徴を学ぶ。

《テキスト》

系統看護学講座 基礎分野「家族論・家族関係論」医学書院 2011

《参考図書》

千田有紀「日本型近代家族 どこからきてどこに行くのか」 勁草書房 2011

《授業時間外学習》

報道などに常に関心を払い、家族に関わる問題が提起されている状況に必ず目を通しておくこと。また各自の地域の中で地域社会と家族の関わりあいが見られる行事などが存在するかどうか、またそれへの参加状況に注目しておくこと。授業はシラバスに準じて行われるので、教科書には目を通して出席すること。

《備考》

授業への積極的関与を歓迎する。質問は授業中でも歓迎する。理解できるまで質問すること。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	精神保健				
担当者氏名	南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

成長発達段階や各人の健康レベルに応じた心理状態を、その人だけでなく周りの生活を含めた幅広い視点から捉え、看護に必要な援助的人間関係について理解を深める。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」 吉松和哉他編
ヌーヴェルヒロカワ

《参考図書》

《授業の到達目標》

さまざまな視点から心の健康を理解し、健康の保持・増進についての確かな指示ができる。

《授業時間外学習》

今回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を整理して理解しておくこと。

《成績評価の方法》

筆記試験70% 平常評価30%(レポート、受講態度など)

《備考》

将来メンタルヘルスに関わらなくても、看護という特殊な専門職を志す人々には病者を全人的に看ていこうとする上で、是非とも修得して頂きたい学問であろう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：アルコールおよび薬物依存、虐待やDV、自殺の増加、PTSDなど。
2	社会とメンタルヘルス	様々な社会病理現象：離婚、モンスターペアレント、移住、宗教体験など。精神医学的問題と社会的要因。 精神
3	現在の精神保健	精神保健とは。心の健康とは。精神力動的な考え方。
4	現在の精神保健	脳の機能とその障害。
5	現在の精神保健	ストレス。リスクマネジメント。
6	ライフサイクルと精神保健	胎生期、乳幼児期、学童期、思春期・青年期。
7	ライフサイクルと精神保健	成人期、中年期、老年期。
8	生活の場と精神保健	家族、家庭の精神保健。学校における精神保健。
9	生活の場と精神保健	職場における精神保健。地域保健活動と精神保健。
10	心の健康と不健康	病むという体験。病気になることによるストレス。支える家族の心の健康。
11	心の健康と不健康	さまざまな状態における心の健康。看護師のメンタルヘルス。
12	リエゾン精神医学・精神看護	リエゾンとは。
13	集団力動論、地域精神保健活動	チームワークとリーダーシップ。地域精神保健活動の目標や今後の課題。
14	精神保健の歴史と倫理的問題	精神医療の歴史や関連事件。倫理基準とインフォームドコンセント。
15	総括	精神保健の総括

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論				
担当者氏名	水口 龍次				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

形態機能論は人間の体のつくりとしくみ、身体の中で起こっている現象を学ぶ学問です。人体の正常な構造と機能がもとになって病気の成り立ちが理解できるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われます。聞いたことのない難解な用語や概念が出てきますが、「人体のしくみ」にふれ「そうなのか」「なるほど」と実感し、人体の巧みさ、自分自身の体に関する身近な学問であるので興味をもって学習すること。

《授業の到達目標》

1. 人体・細胞の生命は栄養素を分解して得られたエネルギーによって維持されているが、そのための栄養素はどのように確保されているのか理解できる。
2. 消化器の解剖と機能、栄養の消化・吸収が理解できる。
3. 呼吸器の解剖と機能、血液の組成と機能、循環器の解剖と機能について理解できる
5. 体液の調節と尿の生成について理解できる

《成績評価の方法》

ペーパーテスト100%

《テキスト》

系統看護学講座、人体の構造と機能、解剖生理学：医学書院

《参考図書》

みるみる解剖生理 第3版 松村譲児 医学評論社
 好きになる解剖学 竹内修二
 「説いて覚える看護学生のための解剖生理学ドリル：安谷屋均

《授業時間外学習》

- ・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し理解しておくこと。
- ・教科書のゼミナル復習と課題をノートに整理すること。

《備考》

授業中は携帯電話の使用を禁ずる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総論：解剖生理学を学ぶための基礎知識	人体の素材としての細胞・組織：細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成、細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、組織
2	総論：解剖生理学を学ぶための基礎知識	構造と機能から見た人体：内部構造から見た人体の区分、人体内部の腔所と膜、人体の形状
3	栄養の消化と吸収 1	口・咽頭・食道の構造と機能
4	栄養の消化と吸収 1	腹部消化管の構造と機能：胃の構造、小腸の構造、大腸の構造
5	栄養の消化と吸収 2	腹部消化管の構造と機能：胃における消化、小腸における消化、栄養素の消化と吸収 大腸の機能
6	栄養の消化と吸収 2	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、
7	呼吸と循環 1	呼吸器の構造：上気道、下気道と肺、胸膜、縦隔、呼吸：内呼吸、外呼吸、呼吸器と呼吸運動
8	呼吸と循環 1	気道の機能、肺胞の機能、呼吸のメカニズム、呼吸筋、呼吸気量、ガス交換とガスの運搬
9	呼吸と血液	血液：血液の組成と機能、赤血球・白血球・血小板・血漿タンパク質と赤血球沈降速度 血液の凝固と線維素溶解、血液型
10	呼吸と循環 2	循環器系の構成：心臓の構造、心臓壁、心臓の血管と神経、心臓の拍出機能、心臓の興奮と伝達、心電図
11	呼吸と循環 2	末梢循環器系の構造：血管の構造、肺循環の血管、全身の動脈、全身の静脈、血液の循環の調節、：血圧、血液の循環、リンパとリンパ管
12	体液の調節と尿の生成 1	腎臓の構造と機能、腎臓の機能、糸球体の構造と機能、尿細管の構造と機能、
13	体液の調節と尿の生成 1	傍糸球体装置、クリアランスと糸球体濾過値
14	体液の調節と尿の生成 2	排尿路の構造、尿の貯蔵と排尿、体液の調節、脱水、酸塩基の平衡、アシドーシス、アルカローシス
15	まとめ	まとめと復習

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	形態機能論				
担当者氏名	水口 龍次				
授業方法	講義	単位・必修	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

形態機能論は人間の体のつくりかたとしくみ、体の中で起こっている現象を学ぶ学問です。人体の正常な構造と機能が基になって、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づいて診断と患者の治療・看護が行われます。聞いたことのない難解な用語や概念が出てきます。「人体のしくみ」に触れ「そうなのか」「なるほど」と実感し、人体の巧みさ。自分自身の身体に関する身近な学問であるので興味をもって学習すること。

《授業の到達目標》

1. 様々な植物機能が、生命を維持するためにどのように調節されているか理解できる。
2. 骨格と筋は全身にどのように配置され、どのように運動を行うか理解できる。
3. 細胞膜の興奮とはどのような現象であり、他の細胞にどのように伝えられるか。中枢神経に集まった情報がどのように処理され、末梢神経を通してどこに伝えられるか理解できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト100%

《テキスト》

系統看護学講座、人体の構造と機能、解剖生理学、医学書院
 みるみる解剖生理（看護国試シリーズ）：医学評論社、松村讓児

《参考図書》

「好きになる解剖学」 竹内修二
 「説いて覚える看護学生のための解剖生理学ドリル」安谷屋均

《授業時間外学習》

参考図書に紹介している図書を購入し、復習をすること。

《備考》

授業中の携帯の使用を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内臓機能の調節 1	自律神経による調節：自律神経の構造と機能、自律神経の特徴、
2	内臓機能の調節 1	交感神経と副交感神経、
3	内臓機能の調節 2	自律神経の神経伝達神経と受容体、カテコールアミン受容体、アセチルコリン受容体、内分泌系による調節
4	内臓機能の調節 2	全身の内分泌腺と内分泌機能、甲状腺と副甲状腺、膵臓、副腎、性腺、ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際
5	身体の支持と運動 1	人体の骨格、骨の形態と構造、骨の組織と組成、骨の連結
6	身体の支持と運動 1	骨格筋の構造、骨格筋の作用、体幹の骨格と筋：脊柱、胸郭、背部の筋、胸部の筋、腹部の筋
7	身体の支持と運動 2	上肢の骨格と筋：上肢帯の骨格、自由上肢の骨格、上肢帯の筋群、上腕の筋群、下肢帯の筋群、大腿の筋群、下肢・足の筋群、下肢の運動
8	身体の支持と運動 2	頭頸部の骨格と筋：頭部の筋、頸部の筋、筋の収縮：骨格筋の収縮機構
9	情報の受容と処理 1	神経系の構造と機能：神経細胞と支持細胞、ニューロンでの興奮の伝導、シナプスでの興奮の伝導、神経系の構造
10	情報の受容と処理 1	脊髄の構造と機能：脊髄の構造、脊髄の機能、脳の構造と機能：脳幹、小脳、間脳、大脳皮質
11	情報の受容と処理 2	脊髄神経と脳神経、：脳神経の構造と機能、脳の高次機能：脳波と睡眠、記憶、本能行動ト情動機能、内臓調節機能、中枢神経系の障害
12	情報の受容と処理 2	運動機能と下行伝導路：運動ニューロン、感覚機能と上行伝導路、眼の構造と視覚、耳の構造と聴力、平衡覚、味覚・嗅覚
13	外部環境からの防御	皮膚の構造と機能、生体の防御機構、生体防御の関連臓器
14	生殖と発生	男性性器、女性性器、受精と胎児発生
15	まとめ	試験に備えてのまとめと復習

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	生化学				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

生体は多くの化学物質により構成されている。各々の成分は必要に応じて生成され、不要になれば代謝、排泄されるなど、相互に調和をもってはたらいっている。こうした調節機能が破綻したとき、病気が引き起こされ、老化が進む。本授業では、生体成分の化学構造、種類、役割、はたらきとともに、生命活動における反応や調節機構などを学習し、病気の原因や治療法を理解するための生化学の基礎知識を習得する。

《授業の到達目標》

細胞構成成分や糖質、アミノ酸、タンパク質、脂質などの重要な生体成分を系統的に分類し、その働きなどが概説できる。
 酵素、ホルモン、免疫機構などはたらきを理解し、健康維持や疾病との関連性を概説できる。
 栄養学や薬理学などと関連付けて、看護実践への関わりを主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造	細胞の構成成分の種類、役割、はたらきなど
2	生体成分	構成成分の化学構造、代謝や異化・化など
3	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸の構造と分類、タンパク質の種類とはたらきなど
4	タンパク質の代謝	タンパク質の代謝、尿素回路、先天性代謝異常など
5	酵素の働き	酵素の役割・分類、反応のしかた、診断への応用など
6	糖質の性質	糖の定義・構造、種類・分類、役割など
7	糖質の代謝	解糖系とクエン酸回路、エネルギーの生成、血糖の調節など
8	脂質の性質	脂質の化学構造、種類・分類、役割など
9	脂質の代謝	脂肪酸の代謝、コレステロールの生成と代謝、脂質異常症など
10	核酸と遺伝	核酸の構造、遺伝のしくみ、遺伝性疾患、遺伝子操作など
11	血液と体液	血液・体液成分の種類とはたらきなど
12	ホルモンの種類	ホルモンの構造と分類、作用機序、受容体など
13	ホルモンのはたらき	ホルモンの種類・はたらき、内分泌臓器、内分泌疾患など
14	ビタミン	ビタミンの化学構造・種類・役割、欠損疾患など
15	免疫	免疫のしくみ、抗体のはたらき、免疫疾患など

《テキスト》

『わかりやすい生化学 - 疾病と代謝・栄養の理解のために』石黒伊三雄 監修（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

『系統看護学講座 生化学』三輪一智、中恵一著（医学書院）、『ナースング・グラフィカ 2 臨床生化学』三井和浩編（メディカ出版）、『シンプル生化学』林典夫 編（南江堂）、『イラストでまなぶ生化学』前場良太 著（医学書院）

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実にし、講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》

能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	栄養学（食品学を含む）				
担当者氏名	眞鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

より豊かな人生にとって健康は重要な要素であり、その健康を維持・増進あるいは逆に悪化させるのは栄養である。したがって、栄養を知ることが、健康あるいは疾患時のケアを行う上で必要不可欠である。そこで本講義では、栄養の基本から学習を進め、人のライフステージごとの栄養、さらに疾患時の栄養管理の基本について学び、看護における栄養の重要性への関心を高め、食事への感性や問題意識を育むことを目的とする。

《授業の到達目標》

(1) 栄養と栄養素の関係について説明できる。(2) 健康の維持・増進と栄養の関係について、基本的事項を説明できる。(3) 食事摂取基準や運動基準について、その意義を説明できる。(4) 種々の評価指標から対象者の栄養状態を推測できる。(5) 各ライフステージごとにその生理的特徴と栄養管理について、要点を簡潔に説明できる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果により成績評価を行います。（なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する）

《テキスト》

『コンパクト栄養学 改訂第3版』脊山洋右、廣野治子編

《参考図書》

『保健・医療・福祉のための栄養学』渡辺早苗、寺本房子、丸山千寿子、藤尾ミツ子編、医歯薬出版、2011

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。(2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

日常の食生活で栄養・食品の情報に触れて下さい。開始30分までを「遅刻」、30分以上は「欠席」、「遅刻」3回で「欠席」1回とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養とは何か	栄養とはどのような状態を指すのかという定義、さらには栄養を支える栄養素について簡単に説明できる。
2	日常生活と栄養	より豊かな人生に必要な健康の維持・増進と栄養の関係を日常生活の中から話題を取り上げて説明できる。
3	栄養素とその働き（1）	糖質・たんぱく質・脂質の種類と働きについて、基本となる知識を学び、生体内でのエネルギー源としての役割を理解する。
4	栄養素とその働き（2）	ビタミン・ミネラルの種類及び食物繊維とその働きの基本的事項を学び、これら栄養素が体内で果たす役割について理解する。
5	食品群と食事バランスガイド	食品群という概念と日常での活用法を学び、その展開として食事バランスガイドの考え方と活用法を理解する。
6	食事摂取基準と運動指針	「日本人の食事摂取基準」と「健康づくりのための運動指針」を健康の維持・増進にどのように活用することができるかを理解する。
7	ライフステージと栄養（1）	妊娠期の栄養の意義と特徴について母体と胎児の両面から学び、妊娠期の栄養の重要性について説明できる。
8	ライフステージと栄養（2）	授乳期及び乳児期の母子の栄養について基本事項を中心に学び、授乳婦の母体管理及び乳児の栄養管理の重要性を理解する。
9	ライフステージと栄養（3）	発育期の栄養が成人期以降の身体状況にどのような関わりを持ち、かつ影響を及ぼすかについて説明できる。
10	ライフステージと栄養（4）	成人期における栄養上の問題点とその栄養管理について学び、生活習慣病等と栄養の関わりについて理解する。
11	ライフステージと栄養（5）	高齢期の栄養素代謝の特徴と栄養管理の必要性を学び、高齢者の食事と調理のポイントについて理解する。
12	栄養補給と治療食	栄養状態の評価法、栄養補給のための治療食の種類と内容、さらに補給法の種類と特徴について学び、ベッドサイドでの活用をすすめる。
13	治療食の実際（1）	胃腸疾患、肝疾患、膵疾患等の消化器系疾患治療で利用される治療食の基本的事項を学び、各疾患と栄養素の関わりを理解する。
14	治療食の実際（2）	糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症等の代謝疾患治療で用いられる治療食の基本的事項を学び、これら疾患に栄養が深く関わっていることを理解する。
15	治療食の実際（3）	循環器疾患、腎疾患等で用いられる治療食の基本的事項を学び、将来の実習に活用できる。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護学概論				
担当者氏名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

看護の基本的概念(人間、健康、環境、看護)の理解を踏まえ、看護学の知識体系(理論)の概念をつかみ、専門職としての看護の役割と機能について理解する。看護サービスの利用者である人間(対象)について成長、発達、ライフサイクルの側面、生活主体として側面から考察し、ニードの充足と自立と、適応に焦点を当てた看護活動について理解する。生命倫理上の諸問題について考察する。

《授業の到達目標》

社会の中で健康問題を持って生活する人間について、全人的な存在であることを説明できる。人間の欲求行動を看護学的視点で理解し、生活支援としての看護の重要性について説明することができる。科学的思考に基づいた看護の重要性を具体的に述べるができる。生命・人間の尊厳や人権についての知識を修得し、看護と倫理的・法的问题について説明できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%、積極的・創造的な授業参加とポートフォリオを使ったノートテイキングの提出30%(5回目・10回目・15回目)に提出する)

《テキスト》

川村佐和子編ナースングラフィカ16看護学概論/メディカ出版 F.ナイチンゲール,薄井坦子訳:看護覚え書/現代社 V.ヘンダソン:看護の基本となるもの/日本看護協会出版会

《参考図書》

・Mメイヤロフ著:田村真・向野宣之訳:ケアの本質ー生きることの意味ーゆるみ出版2006
 ・日本看護協会:看護白書、日本看護協会出版会2011

《授業時間外学習》

・教科書の指定箇所を読み、専門用語の意味をノートに整理し、理解しておくこと。
 ・授業終了後、課題を出すので、次回提出すること。

《備考》

・配布資料は必ずファイルしておくこと。
 ・講義中の携帯電話、メールを禁止します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護って何だろう	看護という言葉の意味、ケアとキュアの考え方、ケア/ケアリングの概念
2	専門的看護の発展	近代看護の歴史的変遷、わが国の看護改革と看護の専門職化
3	専門的看護の役割	ヘルスケア提供システム、看護の場、看護の役割・責任、実践の科学としての看護、看護技術の科学的検証、エビデンスに基づく看護、
4	社会の変化と看護の役割拡大	わが国の保健・医療・福祉の状況、看護実践のための教育、専門職としての看護組織、日本における専門看護師、認定看護師他、
5	看護における法的責任	看護実践の職業的及び法的規則、医療事故における法的責任、看護実践に影響を及ぼす法律
6	看護の対象	統合体としての人間、人間の欲求と行動、人間の基本的ニーズ、マズローのニーズの階層、健康障害を持つ対象の理解、
7	看護の対象	ストレスと適応、ストレスコーピング、危機状態と介入、リラクゼーション
8	看護の対象	グループワークとプレゼンテーション
9	健康、病気とウェルネスの促進	健康、病気、ウェルネス(安寧)の意味、健康と病気、健康と病気に影響する要因、健康信念モデル、ヘルスプロモーション
10	看護活動	保健、医療、福祉の概念、保健・医療・福祉サービス提供の場のタイプ、保健医療福祉チーム
11	看護活動	ストレスと適応、ストレスコーピング、危機状態と介入、リラクゼーション
12	看護活動	看護過程
13	患者の権利をめぐる歴史の変遷	ニュールンベルグ綱領、ヘルシンキ宣言、リスボン宣言、日本における患者の権利、
14	看護における倫理と価値	看護における倫理の必要性、価値、看護倫理、道徳的ジレンマと倫理的課題、倫理的課題への対応、倫理原則、患者の権利
15	看護における倫理と価値	グループワーク:事例にみる倫理的意思決定の例

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護理論				
担当者氏名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

本授業は看護理論家が看護をどのようにみているかを知ること
で看護の質を向上させることがねらいです。看護理論をわかり
やすく学ぶための枠組みの沿って授業を進めます。例えば「看
護理論家は理論を書くとき何を材料にしたのだろうか」「看護
の中心的概念、人間・環境・健康・看護をどのようにとらえ
ているのか等を考えます。看護過程と理論との関係を学ぶこと
がねらいです。

《授業の到達目標》

1. 看護実践を支える看護理論の重要性が説明できる。
2. 実践・理論・研究の関係を説明できる。
3. 看護に用いる主要な看護理論を述べ、各看護理論家の理論
の特徴について説明できる。
4. 看護理論を看護過程に応用できる。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション20%レポー
ト提出10%、筆記試験70%

《テキスト》

資料配布する。

《参考図書》

佐藤栄子編著：中範囲理論入門、日総研
IJオーランド、稲田八重子訳：看護の探求、メジカルフレンド
社。パトリシアベナー、伊部俊子訳：ベナー看護論。シスター
カリスタ・ロイ、松井光子訳、ロイ適応看護論、トラベルビー
長谷川浩訳、

《授業時間外学習》

グループワークに積極的に参加すること。
参考図書に挙げている看護理論を読破すること。

《備考》

配布資料は必ずファイルしておくこと。
90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護理論の開発の歴史	重要用語の定義：理論、パラダイム、メタパラダイム、概念モデル、理論の分類（大理 論、中範囲理論、小理論）看護理論の開発の歴史について説明する。
2	各看護理論家について	各理論家についての5つの課題について説明する。その後6～7名のグループに分かれグ ループ学習
3	グループ学習と発表準備	発表（発表時間8分、質疑応答2分）にそなえてパワーポイント作成する。
4	発表会	A・B班合同での発表とする。司会、時計係、記録、資料印刷係の仕事を分担して行 う。10グループの発表
5	発表会	A・B班合同での発表とする。司会、時計係、記録、資料印刷係の仕事を分担して行 う。9グループの発表
6	各理論家の理論の特徴	ヘンダーソン、ナイチンゲール、ペプロウ、ロイ
7	各理論家の理論の特徴	オレム、オーランド、ウイーデンバック、パトリシアベナー
8	看護理論と看護過程の関 係 まとめ	看護理論と看護過程の関係について説明する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	ヘルスアセスメント				
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、星 智子、明石 智子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

「看護の対象となる人の健康状態を理解する」をねらいとして、「生活者としての人のとらえ方」「身体診査の技術」を修得することができる。

《テキスト》

小野田千枝子 フィジカルアセスメント 金原出版

《参考図書》

必要時その都度提示する。

《授業の到達目標》

- 1.ヘルスアセスメントの概念がわかる。
- 2.看護の対象の健康状態を把握するために必要な、アセスメント技術としての健康歴の聴取方法がわかる。
- 3.身体診査の基本技術の問診、視診、触診、打診、聴診を基礎的な知識のもとで実施ができる。

《授業時間外学習》

- 1.各単元に関連する形態機能論の事前学習を課す。
- 2.演習の復習をすること。
- 3.演習事後課題の提出を課す。

《成績評価の方法》

筆記試験60% 課題やレポート20% 演習態度20%

《備考》

実習室は病室と同じに考えて、服装など整えた上で清潔感あるようにして演習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ヘルスアセスメントの概念（講義）	1.ヘルスアセスメントの意義 2.ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント
2	ヘルスアセスメントの方法（講義）	1.健康歴の聴取の方法がわかる。 2.問診・インタビューの方法 3.発達課題について理解できる。
3	健康歴の聴取（演習）	1.系統的レビュー 2.精神的・社会的データ 3.全体像（情報の統。）
4	前頸部、目、耳のアセスメント（講義）	1.感覚器系のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。 2.感覚器系のフィジカルアセスメントの主観的情報と客観的情報がわかる。
5	感覚器系のアセスメント（演習）	フィジカルアセスメントの体験をする。1.頭部・顔面・頸部 2.視聴覚系(眼) 3.視聴覚系(耳) 4.鼻・口・咽頭
6	呼吸器のアセスメント(講義)	1.呼吸器のアセスメントに必要な解剖学的構造をイメージしながら、視診・触診・打診・聴診に必要な基礎的知識がわかり実践につなげることができる。
7	呼吸器のアセスメント(演習)	1.呼吸器のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。 2.呼吸器の視診・触診・打診・聴診を体験できる。
8	腹部のアセスメント(講義)	1.腹部のアセスメントに必要な解剖学的構造がわかる。 2.腹部の視診・触診・打診・聴診の基礎的知識がわかる。
9	腹部のアセスメント(演習)	腹部のアセスメントに必要な解剖学的構造をイメージしながら、視診・触診・打診・聴診ができる。
10	血管系のアセスメント(講義と演習)	1.心臓の機能と構造がわかる。 2.心臓・血管系の査定が実施できる。 3.大動脈弁、肺動脈弁、三尖弁領域の聴診が実施できる。
11	筋・骨格のアセスメント(講義)	1.筋・骨格系の形態機能の基礎知識が説明できる。 2.アセスメントの視点がわかる。
12	筋・骨格のアセスメント(演習)	1.筋・骨格構造をイメージしながら、全身の左右対称性、姿勢、歩行、骨格筋・関節の機能や可動性を査定できる。 2.アセスメント所見を記録できる。
13	神経系のアセスメント(講義)	1.脳・神経系の形態機能の基礎知識が説明できる。 2.アセスメントの視点がわかる。
14	神経系のアセスメント(演習)	1.脳・神経系の形態機能の基礎知識をイメージしながら、深部腱反射の査定が実施できる。 2.小脳機能の査定が実施できる。
15	事例演習	既習した身体診査の方法を活用して、事例に基づいて演習を実施し、アセスメントできる。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論（生活技術援助）				
担当者氏名	小林 廣美、森崎 由佳、星 智子、明石 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

看護の対象者に看護を提供するために必要な看護援助技術と健康的な日常生活を促進する援助技術についての基礎的知識・基本的技術および看護者としての態度について学ぶ。看護実践に必要な基本的看護技術、特に生活援助について学習していきます。

《テキスト》

系統的看護学基礎講座 基礎看護学2・3「基礎看護技術」
有田清子「基礎看護技術」藤崎郁

《参考図書》

必要時その都度提示する

《授業の到達目標》

1. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な知識がわかる。
2. 看護の対象者に安全・安楽をふまえた看護技術を提供するための基礎的な技術が実施できる。
3. 看護者としての倫理的態度を身につけることができる。

《授業時間外学習》

1. 授業計画にそって教科書を読み、提示図書による事前学習をする。
2. 授業終了後、必ず復習をして理解を深める。
3. 演習後は練習を繰り返し技術の習得に努める。

《成績評価の方法》

講義や演習への出席、グループにおける討議の参加の程度や、試験、レポートなどによって総合的に評価する。試験60%、実技テスト20%、レポート10%、演習への能動的態度10%

《備考》

実習室は病室と同じと考え、服装などを整えた上で清潔感あるようにして演習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境ポディメカニクス	環境の概念を理解することができる。ポディメカニクスの目的を理解することができる。
2	ベットメイキング（講義・演習）	クローズドベッド、オープンベッド技術の習得ができる。
3	バイタルサイン（講義）	バイタルサインのメカニズムから理解することができる。
4	バイタルサイン（講義・演習）	バイタルサインの測定方法を原理や根拠から理解することができる。体温調節する技術（温冷電法）
5	バイタルサイン（演習）	体温・脈拍・血圧・呼吸を正確に測定することができる。
6	安全を守る技術（講義・演習）	感染防止の基礎知識、手洗い、ガウンテクニック、スタンダードプリコーションの目的・方法を説明することができる。
7	安全を守る技術（講義・演習）	無菌操作についての原理・方法を理解することができる。
8	中間まとめ 技術チェック	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、その具体的な方法が実施できる。
9	身体の移動に関する援助技術（講義・演習）	体位変換・車椅子への移乗や移送の目的・方法を理解し実施することができる。睡眠のメカニズムを理解することができる。
10	栄養や食事に関する援助技術（講義・演習）	食事の意義がわかる。基本的な食事の援助方法を実施することができる。
11	身体の清潔と衣生活援助技術（講義）	身体を清潔に保つことの意義・目的を理解することができる。
12	身体の清潔と衣生活援助技術（講義・演習）	全身清拭・足浴の目的を理解して実施することができる。
13	身体の清潔と衣生活援助技術（講義・演習）	洗髪・口腔ケアの目的を理解して実施することができる。
14	排泄に関する援助技術（講義・演習）	尿器・便器を使用して、排泄援助をすることができる。
15	援助技術総まとめ 事例展開	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、事例に基づいて援助技術が統合できる。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習				
担当者氏名	道廣 睦子、小林 廣美、森崎 由佳、星 智子、明石 智子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

医療施設に入院している対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して、対象理解を深める。また、対象者の健康上のニーズにあった日常生活援助の方法を見学や実施を通して学ぶ。

《テキスト》

看護学概論・看護技術論 で指定されている図書

《参考図書》

川野雅資編集：実践に活かす看護コミュニケーション、Gakken

《授業の到達目標》

1. 看護の視点をもち対象者に接近することができる。2. 対象者の意思や権利を尊重した関わりを通して対象理解を深め対象者の看護上のニーズを理解し日常生活援助が実施できる。3. 看護活動が理解できる。

《授業時間外学習》

・事前のオリエンテーションを受けて、事前学習を充分行うこと。
 ・夏期休暇の課題を達成すること（リフレクション、看護理論家の要約と感想）

《成績評価の方法》

実習要綱の実習評価表に基づいて行う。実習終了後の発表、記録、出席、実習態度等総合的に評価する。評価表80%、グループ発表とレポート10%、個人記録10%

《備考》

事前に看護学概論・看護技術論 で学習した内容を復習し、自分が観る視点をもって、積極的にかつ効果的な実習を行うことを期待する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内容の詳細は実習要綱で提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門基礎科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	基礎ゼミ				
担当者氏名	道廣睦子、加藤知可子、若井和子、新田幸子、小林廣美、瀧本茂子、白神佐知子、小島賢子、久井志保、秦久美子、森崎由佳、高橋直美、大植崇、弘中陽子、星智子、柴田順子、未定、渋谷洋子、東久子、藤本優子、廣田真理、明石智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力				

《授業の概要》

看護学科における学士力を養うために、コミュニケーションスキル、クリティカルシンキング、スタディスキル、問題解決能力、ソーシャルスキル等の基本的学習技術を習得することを目的とする。

《テキスト》

講義の際、資料を配布する。

《参考図書》

講義の中で適宜、紹介する。

《授業の到達目標》

- 1) ノートテイキング、文献検索、レポートの書き方等の実際を活用して小論文を記述することができる。
- 2) コミュニケーションスキルを活かしたグループワークを実践し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことができる。

《授業時間外学習》

講義と演習の組み合わせになっている内容が多いため、時間外での学習時間を確保し、計画的な学習作業を進めていくこと。

《成績評価の方法》

- 1) 1・2週（各3%）、3～14週（各15%）、15週（4%）計100%とし、100点満点で採点する。

《備考》

講義と演習の組み合わせにより授業を進めていくため、欠席をすると学習内容習得に影響する。欠席しないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	ガイダンス、看護学科ポリシーについて、大学生活について
2	学習の方法	行動変容に関する理論、学習方法
3	ノートテイキング	ノートを取る意味・ノートの取り方・作り方、講義の受け方
4	ノートテイキング	ノートを取る意味・ノートの取り方・作り方、講義の受け方（演習）
5	文献検索	文献検索方法・文献カード作成方法
6	文献検索	兵庫大学図書館所蔵文献検索・その他の文献検索の実際（演習）
7	レポートの書き方	大学で求められるレポートの書き方
8	レポートの書き方	レポート作成（演習）
9	コミュニケーション	コミュニケーションとは・コミュニケーションスキル
10	コミュニケーション	グループ単位でのコミュニケーション（演習）
11	グループワークの方法	グループ単位でのコミュニケーション（演習）
12	グループワークの方法	グループワークとは・看護カンファレンスとは・グループワークの方法
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションとは・スライド作成の方法・プレゼンテーションの方法
14	プレゼンテーション	グループ単位でのプレゼンテーション準備（演習）
15	グループ発表、講評	グループ別プレゼンテーション・講評

《教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	砂子 滋美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。

《テキスト》

広岡義之編著 『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会 2008年

《参考図書》

小・中・高等学校学習指導要領（文部科学省）
解説教育六法（三省堂）
教職論（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房
現代教職論（土屋基規編著）学文社
教育基礎論・教職論（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう平日頃から心がけておく必要がある。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について解説する。進路選択に資する各種の機会の提供等
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解する。
3	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
4	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
5	進路指導の意義と課題	教員組織を理解し、キャリア教育の指導における教師力とは何かを理解する。
6	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは何かを吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の資質・能力の向上が常に望まれるが、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、特別活動、キャリア教育、開かれた学校づくり、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	教員免許更新制及び今期のの講義を振り返る。	10年ごとの教員免許更新制について理解する。講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ポルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《テキスト》

『ポルノー教育学入門』 広岡 義之著（風間書房）2012年

《参考図書》

『教育用語付教育法規』 広岡義之編著 ミネルヴァ書房 2012

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講すべきかを理解する。
2	教育の目的と目標 1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標 2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考察することができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてポルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《テキスト》

『教育の制度と歴史』 広岡義之編著
ミネルヴァ書房 2007.

《参考図書》

『教育用語付教育法規』 広岡義之編著
ミネルヴァ書房 2012.

《授業の到達目標》

わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには、教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより、なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《授業時間外学習》

教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》

講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%

《備考》

この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが開いたのか？ この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由・等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革 1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革 2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育相談(カウンセリングを含む)				
担当者氏名	原 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐり問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
 授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

「スクールカウンセラーがすすめる112冊の本」滝口俊子・田中慶江編 創元社1400円＋税 「特別支援教育のための100冊」特別支援プロジェクトチーム 創元社1800円

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとり読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	人の話しをきくということをめぐる
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライアント中心療法について
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習(ロールプレイ)
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	自分にとって役に立つ心理テスト
7	発達の臨床と教育相談	人の人生と発達課題に関して学ぶ
8	軽度発達障害に関して	学校現場で出会う子どもたちの発達障害について学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返し、今後活かすべきことは何かを考える

平成 24 (2012) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	看護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ		
			必修	選択				1年	2年	3年	4年				
専 門 基 礎 科 目	社会福祉論 人間関係論（カウンセリングを含む） 家族関係論 精神保健 環境保健学 保健医療福祉行政論 公衆衛生学（疫学含） 保健統計学 保健統計学	講義	2					2							
		講義	2					2					(森田 義宏)	128	
		講義	2					2							
		講義	2					2							
		講義	1							1					
		講義	2							2			(河野真)・久井・藤本	129	
		講義	2							2			(多田 章夫)	130	
		講義	2							2			(湯瀬 晶文)	131	
		講義	2							2			[平井 尊士]	132	
	構造と機能の 群(人体)	基礎生物学	講義	2				2							
		形態機能論	講義	2				2							
		形態機能論	講義	2				2							
		生化学	講義	2				2							
		栄養学（食品学を含む）	講義	2				2							
		薬理学	講義	2						2			[溝邊 雅一]	133	
		免疫・微生物学	講義	2						2			[西山 範正]	134	
	及び回復の促進 の群(疾病の成立)	臨床病理病態学（内科系）	講義	2						2				オムニバス	135
		臨床病理病態学（内科系）	講義	2						2				オムニバス	136
		臨床病理病態学（外科系）	講義	2						2			[横山 伸二]・[織戸 弘行]	137	
		臨床病理病態学（周産期・小児科系）	講義	2						2			[米谷 昌彦]・若井 和子	138	
	群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2				2							
		看護理論	講義	1					1						
		ヘルスアセスメント	演習	1					1						
		看護技術論（生活技術援助）	演習	2				4							
		看護技術論（診療技術援助）	演習	2						4				道廣・小林・森崎・星・明石	139
		看護技術論（看護過程）	演習	1						2				道廣・小林・森崎・星・明石	140
		基礎看護学実習	実習	1					3						
		基礎看護学実習	実習	2						6				道廣・小林・森崎・明石	141
看護教育学		講義	1								1				
看護倫理		講義	1								1				
看護管理学		講義	1								1				
群(成人・老年看護学)		成人看護学概論	講義	2						2				白神 佐知子	142
	成人看護援助論（生命危機状態にある人）	講義	2							2					
	成人看護援助論（常態の維持・増進が困難な人）	講義	2							2					
	成人看護学実習	実習	3								9				
	成人看護学実習	実習	3								9				
	老年看護学概論	講義	2						2				瀧本 茂子・大植 崇	143	
	老年看護援助論	演習	2							4					
	老年看護学実習	実習	2								6				
	老年看護学実習	実習	2								6				
	小児看護学(母性)	母性看護学概論	講義	2						2				若井 和子	144
母性看護援助論		演習	2							4					
母性看護学実習		実習	2								6				
小児看護学概論		講義	2						2				小島 賢子	145	
小児看護援助論		演習	2							4					
小児看護学実習		実習	2								6				

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成24年度（2012年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
専 門 実 践 科 目	精神看護学概論	講義	2					2				加藤 知可子・[南川 博康]	146
	精神看護援助論	講義	2						2			新田 幸子	147
	精神看護学実習	実習	2							6			
	在宅看護概論	講義	2						2			久井 志保	148
	在宅看護援助論	講義	2						2				
	在宅看護実習	実習	2								6	柴田 順子	149
	公衆衛生看護学概論	講義	2						2				
	健康教育論	講義	1							1		柴田 順子	149
	学校保健概論	講義	1						1				
	国際看護学	講義	1							1			
	災害看護学（災害保健を含む）	講義	1								1		
	専 門 教 育 科 目	基礎ゼミ	演習	2				2					
看護研究（基礎編）		講義	2							2			
看護研究（応用編）		演習	2								2		
リスクマネジメント論		講義	1							1			
看護の統合と実践実習		実習	2								6		
関 連 科 目	疫学	講義	2						2				
	公衆衛生看護学活動展開論	演習	2						4				
	健康相談活動の理論と実践	講義	2						2				
	産業保健論	講義	1						1				
	公衆衛生看護学実習	実習	1							3			
	公衆衛生看護学実習	実習	4								12		
	公衆衛生看護学特論	講義	1								1		
	学校保健活動論	講義	2						2				
	学校保健演習	演習	2							2			
	養護概説	講義	2						2				柴田 順子

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は養護教諭免許必修科目

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2				2						
	教育原理	講義	2				2						
	教育心理学	講義	2					2				(大平 曜子)	151
	教育制度論	講義	2				2						
	教育課程論（道徳、特別活動を含む）	講義	2					2				[新井野 久男]	152
	教育方法・技術論	講義	2					2				(河野 稔)	153
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2					2				[新井野 久男]	154
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2					2					
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習	5								5		
	教職実践演習（養護教諭）	演習	2								2		

は養護教諭免許必修科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	人間関係論（カウンセリング含む）				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力				

《授業の概要》

現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくれるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》

使用しない

《参考図書》

授業中随時紹介する

《授業の到達目標》

* 人間関係に関する専門用語について説明できる。* 自分を取り巻く人間関係について把握できる。* 自分の対人関係の在り方を理解できる。* 人間関係に起因する問題に向きあい、対処できるスキルを身につける

《授業時間外学習》

身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》

試験100%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト ヤマアラシのジレンマ 個室化・個人化 私事化
2	看護職をとりまく人間関係	感情サービス労働と人間関係 看護職に必要な人間関係とは
3	人間関係論の始まり 集団とリーダーシップ1	科学的的管理 ホーソン研究 照明実験 能率の論理・心情の論理 集団の分類 集団の機能 集団決定 向社会的 リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ2	オハイオ研究 リーダーシップ行動論 状況理論 成熟理論
5	対人関係と自己理解1	ジョーハリーの窓 自己概念 自己概念の形成 公的自己意識 私的自己意識
6	対人関係と自己理解2	自己評価と他者評価 客観的自己理解 パーソナリティ 価値観 パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解3	印象形成 対人魅力 ソシオメトリー 愛他的行動
8	対人関係の種類	共感性 恋愛類型 対人類型 愛着の内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション1	コミュニケーションプロセス 文脈 ノイズ ことばの意味論 外延 内包
10	カウンセリング1	アドバイス・ガイダンス・カウンセリング・セラピー ロジャースの人間観 自己概念と現実
11	カウンセリング2	カウンセリングの過程 ラポート 受容 積極的傾聴 共感的理解 沈黙 感情の反射問題への気づき 洞察
12	対人関係の分析1	交流分析 自我機能 自我防衛機制 構造分析 3つの心 エゴグラム
13	対人関係の分析2	交流分析 交流パターン 平行的（相補）交流 交叉的交流 仮面的交流 ゲーム分析
14	対人関係の分析3	交流分析 ストローク ストローク論 脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル	Lazarus & Folkmanモデル 対人ストレスイベント ストレスコーピング パーンアウト アクション ソーシャルスキル

科目名	保健医療福祉行政論				
担当者氏名	河野 真、久井 志保、藤本 優子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

保健福祉サービスの役割や基本的な制度枠組について解説するとともに、保健福祉制度の運営や政策過程に関する理解を深めることを目的とする。地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を学習する。看護師国家試験出題基準「社会保障制度と生活者の健康」と、保健師国家試験出題基準「保健医療福祉行政論」の受験対策も併せて行う。

《テキスト》

『保健医療福祉行政論（標準保健師講座別巻1）』医学書院、および授業中に配布するプリント。標準保健師講座1『地域看護学概論』編著/奥山則子他 医学書院

《参考図書》

国民衛生の動向 厚生統計協会 その他講義時に紹介する予定

《授業の到達目標》

社会保障の役割、理念、機能、制度の体系について理解できる。保健医療福祉行政の要点について知識を深めることができる。国・都道府県・市町村等、行政のしくみとその役割を理解できる。地域保健行政（公衆衛生看護）における保健師の役割とその責務を理解できる。

《授業時間外学習》

本教科は看護師・保健師国家試験に対応する科目であり、受験対策を意識した講義を実施する。限られた講義時間で、幅広い知識を身につけなければならないため、予習・復習が単位取得の必須の要件となる。講義受講に先立ち教科書は必ず熟読しておくこと。また授業中に配布するプリントを用いて講義内容を復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験85%、授業への参加とその成果15%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療福祉行政のめざすもの	保健医療福祉行政の目的について理解する
2	保健医療福祉制度の変遷	保健医療福祉制度の変遷について理解する
3	保健医療制度と医療資源	保健医療制度の概要と医療資源について理解することができる
4	公衆衛生看護活動に関する法規	公衆衛生看護活動と関連する法規について理解することができる
5	国・都道府県・市町村等、行政のしくみ	地方自治、行政のしくみの概要について理解することができる
6	地域保健行政と保健師活動	地域保健行政における保健師活動の位置づけについて理解することができる
7	保健医療福祉の計画と評価	保健医療福祉計画および評価の目的と実施について理解することができる
8	社会保障の理念・保健医療福祉活動の基本的方向	社会保障の定義、目的、範囲、体系等について学ぶ
9	社会保険制度1 社会保険の変遷・医療保険制度	医療費の動向、医療供給システムについて学ぶ
10	社会保険制度2 社会保険の変遷・医療保険制度	医療保険制度、医療制度改革について学ぶ
11	社会保険制度3 介護保険制度	介護保険の目的、仕組み、制度改正について学ぶ
12	社会保険制度4 年金制度その他の社会保険制度	年金保険制度と労働保険制度（労働者災害補償保険・雇用保険）について学ぶ
13	社会福祉諸法の理念と施策1	社会福祉の法制度、動向、実施体制、社会福祉制度形成史について学ぶ
14	社会福祉諸法の理念と施策2	社会福祉施策（子福祉、老人福祉、生活保護、児童福祉、障害者福祉）について学ぶ
15	保健医療福祉行政論の要点整理	保健師国家試験対策講座

《専門教育科目 専門基礎科目 群（健康支援と社会保障制度）》

科目名	公衆衛生学（疫学含）				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

公衆衛生学は人間集団を対象とし、国民の疾病の予防や、健康増進に役立てることを目的とする学問である。疫学、疾病の広義の予防、医療・福祉・社会保障、国・地方公共団体による保健行政、及びこれらの活動に関連する衛生統計や疫学手法等集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶ。

《テキスト》

「標準保健師講座 別巻2 疫学・保健統計学」 医学書院
 「シンプル衛生・公衆衛生学2011」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
 各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生の概念を理解する
- 2 基本的な保健統計指標について説明できる
- 3 疫学的な思考や手法を理解する
- 4 主要な生活習慣病の疫学や危険因子を説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握する
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解する
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努める

《成績評価の方法》

定期試験85%、小テスト15%の割合で評価する

遅刻は欠席扱いとする。

私語、途中退出等、他人の迷惑や授業の風紀を損なう行為を行った者は欠席もしくは減点とする

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生の概念・定義、歴史	公衆衛生学の概念、公衆衛生学がカバーする領域、公衆衛生の発展の歴史について理解する。
2	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について説明できる。
3	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について説明できる。
4	疫学の概念・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて説明できる。
5	疫学の方法・疫学の指標	各疫学的研究法（記述疫学、コホート調査、症例対照研究、介入研究等）の手法、特徴、利点欠点を説明でき、オッズ比や相対危険度を求めることができる。
6	感染症	感染症の感染経路、免疫、アウトブレイクの種類や疫学的調査、院内感染について説明できる。
7	感染症予防対策	感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法の変遷、感染症拡大防止対策として、新感染症及び学校安全衛生法に基づく感染者の隔離について説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	予防・健康増進・生活習慣病対策	疾病予防の段階（一次～三次予防）、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標（感度、特異度、カットオフ値）、健康づくりの変遷について説明できる。
10	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について説明できる。
11	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について説明できる。
12	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法について説明できる。
13	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法について説明できる。
14	主要疾患の疫学と予防対策（その他）	メタボリックシンドローム、小児疾患、精神疾患、歯科疾患等の発生状況やリスク要因について説明できる。
15	医療制度、保険の種類、医療施設	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、社会保障、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療保険給付制度について説明できる。

科目名	保健統計学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

統計学あるいは統計的視点は、非常に広範な領域で不可欠のものとなっており、当然看護・保健分野もその例外ではない。統計学は、大きく「記述統計学」と「推測統計学」の2つに分けることができる。この授業ではそれぞれのごく基礎の部分、とりわけ記述統計学の基礎に重点を置き、講義だけでなくコンピュータを用いた演習も併用する。なお、受講生の状態や他のクラスの進捗状況により、内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業は、保健分野におけるデータの基本的な分析で利用される初歩的な統計的手法や考え方について学ぶ。それにより、

(1) 記述統計学の基礎的な内容に基づき、データの特徴を要約統計量で記述できるようになる、(2) 推測統計学の基礎的な内容に基づき、標本データから母集団全体の簡単な特徴を推測できるようになる、ことを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポート(70%)および筆記試験(30%)を主として評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用、授業に不必要な作業など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

後日指定する。

《参考図書》

必要に応じて、適宜指示する。

注意事項 : 教学システムの不備のために、予期しない表示や内容のずれが生じています。そのためこのシラバスも正しく表示されるかどうか分かりませんので、シラバスに関する疑問については初回授業時に直接確認してください。

《授業時間外学習》

毎回のように入課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの内容を十分に理解し、課題を完成させていることを前提に行われる。万が一授業を欠席する場合は、次回授業までに授業内容を十分確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

ひとこと：統計もコンピュータもすぐに理解できなくても、粘り強くせめて卒業するまで使い続けてください。そうするうちに慣れも手伝って次第に使えるようになってくるはずですよ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と評価方法の決定(大切なので履修希望者は必ず出席のこと)統計学とは
2	表計算ソフトの基礎(1)	表計算ソフトの簡単な復習(1)
3	表計算ソフトの基礎(2)	表計算ソフトの簡単な復習(2)
4	統計データについて	統計データの種類と体系、統計データの見方
5	データの可視化(1)	データの分布の分析(度数分布表)
6	データの可視化(2)	データの分布の分析(ヒストグラム、集中や不均衡)
7	データの要約(1)	代表値とは代表値を用いて要約する
8	データの要約(2)	いくつかの代表値とその特性(統計データの種類と代表値)
9	データの要約(3)	いくつかの散布度とその特性
10	確率と分布	確率とは確率分布とは
11	正規分布(1)	正規分布の重要性と中心極限定理
12	正規分布(2)	正規分布を用いた推定
13	正規分布(3)	正規分布を用いた検定(2つの仮説と統計的検定)
14	2次元データ	データ間の関係を可視化と分析(2次元データの可視化)
15	まとめ	実際に用いられるいくつかの統計これまでの成果確認

科目名	保健統計学				
担当者氏名	平井 尊士				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

本授業はデータ解析で用いる基本的な手法を習得する統計習得コースであり、大きく2つの部分より構成する。授業全体を通して、授業計画に基づき、幅広く講義と演習の繰り返しを実施します。

保健医療福祉統計のための記述統計学入門
 保健医療福祉統計のための推測統計学入門
 についても可能な限り触れることとする
 授業計画の授業は順不同とする。

《授業の到達目標》

データ解析は、予測、評価、管理等の目的で広く利用されている。本授業では、保健医療福祉統計のためのデータ解析の場面で利用される基本的な統計的手法・考え方について学習するための統計である。学生は、各種標本データを解析・整理・要約するための記述統計学、その解析結果から母集団における状況を推測するための推測統計学等について、具体的に基について、基礎的内容を学習し、習得できることを目標とする。

《成績評価の方法》

評価方法：毎回、各授業後に課すレポートや課題
 評価の割合：毎回、各授業後に課すレポートや課題（100点）

《テキスト》

使用しません。

《参考図書》

適宜使用します。

《授業時間外学習》

毎回配布する資料は学内システム（新統合HUMANS）に電子ファイルとしておいておきます。毎回出す課題をするために必ず熟読して取り組むこと。

《備考》

表計算を用いた演習を行うので、その基本的な操作を必ずコンピュータ演習等もあわせて習得することを心がける。国家試験（保健師）等でも扱う範囲なので理解できるよう心がける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	保健医療福祉のための統計学とは何か	統計学とは？、統計分析のプロセスについて。
2	統計データについて	統計資料の種類と体系、統計の作り方、統計データの見方・考え方（1）
3	統計データについて	統計資料の種類と体系、統計の作り方、統計データの見方・考え方（2）
4	1次元のデータの分析と視覚化（演習1-1）	データの分布の分析。度数分布表によるデータのまとめ方
5	1次元のデータの分析と視覚化（演習1-2）	データの分布の分析。度数分布表によるデータのまとめ方、ヒストグラムの作成
6	1次元のデータの視覚化（演習2-1）	ローレンツ曲線（集中度や不平等の度合の分析）、棒・円・折れ線グラフによるデータのまとめ方
7	1次元のデータの視覚化（演習2-2）	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方、具体的には、代表値の計算とその性質、平均・中央値・最頻値の計算、代表値に視覚化、代表値の性質（強みと弱点、使い方）
8	1次元のデータの要約（演習3-1）	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方
9	1次元のデータの要約（演習3-2）	平均値と標準偏差によるデータのまとめ方、具体的には、代表値の計算とその性質、平均・中央値・最頻値の計算、代表値に視覚化、代表値の性質（強みと弱点、使い方）
10	1次元のデータの要約（演習4-1）	分散と標準偏差の計算
11	1次元のデータの要約（演習4-2）	様々な散らばり具合の尺度とその性質、分散と標準偏差の計算、標準偏差の性質、偏差値とは何か？
12	2次元のデータの分析	データ間の関係の分析
13	2次元のデータの視覚化（演習5-1）	散布図の作成（連続データ）
14	2次元のデータの視覚化（演習5-2）	散布図の作成（連続データ）、クロス集計表（分割表）の作成とグラフ化（質的データ）
15	まとめ	相関係数の計算とその性質、散布図・相関係数によるデータのまとめ方、回帰直線によるデータのまとめ方、推定と仮説検定

科目名	薬理学				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

多くの疾患の治療に対し薬物治療は中心的な役割りを担っている。臨床場での患者のケアや健康指導に際しては、医薬品の薬理学的知識は必要不可欠となる。本講義では、薬理作用、副作用、薬物動態などを総論的に理解したのち、感染症や免疫系・神経系・内臓系などの疾患に用いられる薬物について、作用のしくみ、特徴、注意すべき点などを各論的に学習し、看護の実践の場で必要とされる臨床薬理学的知識の習得する。

《授業の到達目標》

医薬品の適使用方法や剤形などと関連付けて薬物の体内動態や医薬品の有効性と安全性の考えなどが概説できる。
 各種疾患に用いられる薬物を系統的に種別できるとともに、主な薬物の名称と薬効機序などが概説できる。
 薬物の副作用、使用方法、使用上の注意などを理解し、患者への対応を主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、平常評価 30%（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）

《テキスト》

『薬理学 - 疾病のなりたちと回復の促進 2』大鹿 英世、吉岡 充弘著（医学書院）

《参考図書》

『薬理学』鈴木正彦著（医学芸術社）、『やさしい薬理のメカニズム - 薬のはたらきを知る』中原保裕著（学習研究社）、『クスリのしくみ事典』野口實、岡島重孝著（日本実業出版社）、『くすりの地図帳』伊賀立二、小瀧一、澤田康文 監修（講談社）

《授業時間外学習》

教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実にし、講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》

能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬物の作用と薬物治療	薬物治療の目的、薬物の作用・副作用のしくみ、薬物の投与経路など
2	薬物の体内動態と効果	薬物の体内動態、薬物耐性、薬物依存、薬効に対する影響因子など
3	有害作用と薬物の管理	薬物のもつ有益性と有害性、薬物管理の方法、新薬開発における薬効評価法など
4	感染症治療薬	感染症治療における基礎事項、抗菌薬各論、感染症治療の問題点など
5	抗がん薬	がん治療における問題点、抗がん薬の種類と作用のしくみなど
6	免疫治療薬	免疫反応のしくみ、免疫抑制薬、免疫増強薬、予防接種薬など
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬（1）	抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬など
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬（2）	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
9	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、弛緩薬、局所麻酔薬など
10	中枢神経に作用する薬（1）	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗精神病薬、抗うつ薬など
11	中枢神経に作用する薬（2）	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮痛薬など
12	物質代謝に作用する薬	ホルモンおよびホルモン拮抗薬、ビタミン剤など
13	心臓・血管に作用する薬（1）	抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など
14	心臓・血管に作用する薬（2）	利尿薬、脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物など
15	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬・去たん薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など

《専門教育科目 専門基礎科目 群（人体の構造と機能）》

科目名	免疫・微生物学				
担当者氏名	西山 範正				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

新型インフルエンザの大流行に始まり、ますます深刻化する薬剤耐性菌による院内感染症や、老人ホームでの食中毒集団発生など感染症にまつわる話題が多い。医療人として働いてゆくみなさんも、自分を守り、患者やその家族を守る為、多くの感染症に立ち向かってゆくためには、感染症の原因である微生物について理解することが大切です。本講座では感染症の成り立ちとその原因を知り、対応方法を理解することを目標とします。

《授業の到達目標》

微生物の種類とその性質について基本的な知識を説明できる。代表的な微生物とその感染症について理解し説明できる。「ヒト」の防御反応である免疫について説明できる。感染症の成り立ち、診断、治療、予防、現状について説明できる。病院で働く際に実際に出会う様々な感染症についても臨床実践シリーズとして取り上げる。微生物学の知識が現場でどのように役立つかを理解する。

《成績評価の方法》

期末試験60%（試験はテキストなどの持ち込み不可）、レポート・講義での質疑応答 各20%で評価します。また講義中の質疑応答もレポートの一部として加点・減点の対象とします。

《テキスト》

系統看護学講座・専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 [3]
南嶋洋一・吉田真一 著（医学書院 第11版）2009

《参考図書》

《授業時間外学習》

授業で配布するプリントはテキストをもとに、国家試験対策資料を合わせて作成しています。授業後テキストの該当箇所をよく読み、知識をより確かなものにしてください。

《備考》

微生物には多くの種類があり、すべてを覚えるのは無理があります。感染症の基本を理解し、予防・診断・治療に至る原則を会得することが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	微生物とは	微生物とは何か？、微生物の種類と特徴、細菌とリケチャ・クラミジア・マイコプラズマの違い、細菌と真菌、ウイルスの違い
2	細菌のしくみ	細菌の基本構造、細菌の形態、細菌の培養、
3	真菌・原虫の性質	真菌・原虫の性質他
4	ウイルスのしくみ	ウイルスの特徴、ウイルスの分類、腫瘍ウイルスのあらまし、ウイルス感染症の診断
5	感染の成り立ち	感染の成立、：感染源・感染経路、病原因子、生体防御因子、
6	免疫のしくみ	免疫の概念、生体を守るシステムとしての免疫、抗原と抗体の構造と機能
7	免疫のしくみ	免疫反応を担う細胞と臓器、リンパ球の抗原認識とT細胞反応、抗体産生反応、抗原抗体反応と補体、細胞性免疫、感染免疫、
8	感染の予防	滅菌と消毒、免疫による予防と治療、感染と感染防御
9	感染症の診断	潜伏期と感染経路、
10	感染症の現状と対策	感染症法と感染症、感染症法の経過、検査法の一部改正、
11	細菌感染症各論	感染症の分類、微生物と感染症、グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌、
12	細菌感染症各論 ウイルス感染症各論	発熱性疾患、呼吸器疾患、ウイルス性胃腸炎
13	ウイルス感染症各論	血液疾患、ウイルス性肝炎、ウイルス感染症の診断
14	真菌・原虫感染症各論	リケッチャとクラミジア、原虫
15	総括	重点項目の確認

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学（内科系）				
担当者氏名	オムニバス				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じているのか、またその異常が患者にとってどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解する。病態生理を学ぶことで、損なわれた機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り治療や援助を考える根拠を知ることができる。

《テキスト》

系統看護学講座：内分泌・代謝 成人看護学 6
 系統看護学講座：脳・神経 成人看護学 7
 系統看護学講座：アレルギー・膠原病 感染症 成人看護学 11

《参考図書》

脳神経疾患ビジュアルブック：学研
 腎・泌尿器疾患ビジュアルブック：学研
 糖尿病・代謝・栄養疾患ビジュアルブック：学研

《授業の到達目標》

1. 形態機能論出学んだ正常な体が異常をきたした状態について理解できる。2. このときに、どのような症状・所見が現れるのか、それはどのような仕組みで起こるのか理解できる。3. さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として習得できる。4. 患者へ援助を行う際の根拠とすることができる。

《授業時間外学習》

テキストの予習を行い、様々な疾患について理解しておくことノートテイキングを行い復習をしっかりとすること。

《成績評価の方法》

数回の筆記試験で成績評価を行う。

《備考》

1期の授業はオムニバス形式で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内科学総論(1)	
2	内科学総論(2)	
3	腎尿路疾患（透析含む）	総論：腎臓の構造と機能、腎臓の位置、ネフロン、腎臓の働き、腎臓病の症状
4	腎尿路疾患（透析含む）	各論：腎臓病の原因に対する治療、血圧と腎機能低下速度の関係
5	腎尿路疾患（透析含む）	末期腎不全の治療、血液透析、腹膜透析、腹膜透析のライフスタイル、腎移植、腎移植後の生着率、末期腎不全治療法の比較、
6	病理学総論1	正常と病気の状態、循環障害、変性、炎症、感染症
7	病理学総論2	腫瘍、先天異常と遺伝子異常、変形と圧迫による障害、老化と死
8	膠原病・リウマチ疾患1	自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、検査、治療
9	膠原病・リウマチ疾患2	自己免疫疾患とその機序、症状とその病態生理、検査、治療
10	内分泌疾患1	内分泌・代謝器官の構造と機能、内分泌・代謝のしくみとその異常、検査、疾患の理解
11	内分泌疾患2	内分泌疾患：視床下部・下垂体前葉疾患、視床下部、下垂体後葉疾患、甲状腺疾患
12	内分泌疾患3	代謝疾患：糖尿病、脂質異常症、肥満症とメタボリックシンドローム
13	脳・神経疾患1	脳神経系の構造と機能、脳・神経の働きとその異常（病態生理）
14	脳・神経疾患2	疾患の理解：脳血管障害、くも膜下出血、脳梗塞、脳内出血、一過性脳虚血発作
15	脳・神経疾患3	脳神経疾患の検査と治療

科目名	臨床病理病態学（内科系）				
担当者氏名	オムニバス				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

ある疾患をもった患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の身体にどのような異常が生じやすいのか、またその異常が患者にとってどのような苦痛や障害を引き起こしているのかを理解しなければならない。病態生理を学ぶことで、損なわれた機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうすればよいかを知り、治療や援助にどうつなげるか考える根拠を知ることができる。

《授業の到達目標》

1. 形態機能論で学んだ正常な身体が、異常をきたした状態について理解できる。
2. このとき、どのような症状・所見が現れるのか、それはどのような仕組みで起こるのか理気できる。
3. さらにどのように診断して治療を行うのかを知識として習得できる。
4. 患者へ看護援助を行う際の根拠とすることができる。

《成績評価の方法》

1. 単元毎に小テストを行い、定期試験時に総括テストがあります。

《テキスト》

系統看護学講座：成人看護学2 呼吸器：医学書院
 系統看護学講座：成人看護学3 循環器：医学書院
 系統看護学講座：成人看護学5 消化器：医学書院

《参考図書》

呼吸器疾患ビジュアルブック：学研
 循環器疾患ビジュアルブック：学研
 消化器疾患ビジュアルブック：学研

《授業時間外学習》

テキストの予習を行い、疾患の病態生理、症状、検査、治療を理解すること。復習をすること。指定されたテキストを授業中に持参すること。

《備考》

期・期朋オムニバス形式で授業を行う授業中の携帯電話の使用は禁止する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	呼吸器疾患	呼吸器の構造と機能、呼吸のしくみとその異常
2	呼吸器疾患	検査、診断と治療、処置、疾患の理解（気管支肺炎、間質性肺炎）
3	呼吸器疾患	疾患の理解（肺がん、自然気胸、
4	呼吸器疾患	疾患の理解（気管支拡張症、慢性閉塞性肺疾患（COPD））
5	呼吸器疾患	復習と試験
6	消化器疾患（食道・胃・腸）	消化器の構造と機能、消化・吸収のしくみとその異常（病態生理）検査・診断・治療
7	消化器疾患	疾患の理解（食道静脈瘤、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、腸閉塞、クローン病）
8	消化器疾患（肝臓・膵臓）	消化器の構造と機能、消化・吸収のしくみとその異常（病態生理）検査・診断・治療
9	消化器疾患	疾患の理解（肝炎、肝硬変、肝不全、肝がん、胆石症、膵炎）
10	消化器疾患	まとめと試験
11	循環器	循環器の構造と機能、循環にしくみとその異常、（病態生理）
12	循環器	循環器の検査・診断、治療 心電図
13	循環器	疾患の理解（虚血性心疾患：狭心症・心筋梗塞）
14	循環器	疾患の理解（不整脈、心不全・ショック）
15	循環器	まとめと復習

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学（外科系）				
担当者氏名	横山 伸二、織戸 弘行				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

患者の看護を適切に行うためには、看護援助の知識に加え、その患者の体にどのような異常が生じているのか、その異常が患者にどのような苦痛や障害を起しているのか理解しなければならない。臨床病理病態学を学ぶことで、損なわれた生理機能を回復したり、失われた機能を補填するにはどうしたらよいかを知り治療や援助にどうつなげるのか考える根拠を知ることができる。

《授業の到達目標》

1. 外科的治療を行う各疾患に必要な基礎知識、病態、検査、診断、治療について理解できる。
2. 整形外科疾患について、期間の機能上の特徴と、疾患によって生じる機能障害、運動障害について述べるができる。
3. リハビリテーションの基礎的知識について理解できる。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《テキスト》

系統看護学講座：臨床外科看護総論、医学書院
 系統看護学講座：臨床外科看護各論、医学書院
 整形外科疾患ビジュアルブック：学研

《参考図書》

病気が見える1 消化器 : メディックメディア
 病気が見える7 脳・神経 : メディックメディア
 病気が見える4 呼吸器 : メディックメディア

《授業時間外学習》

教科書と参考図書を中心に予習・復習を十分すること

《備考》

授業中の携帯電話の使用を禁ずる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	外科的治療を行う患者の病態の基礎	手術侵襲と生体反応、炎症、感染症、腫瘍、外傷とショック
2	外科的治療を支える分野	麻酔法、呼吸管理、体液・栄養管理 輸血管理
3	肺および胸部	肺がん、自然気胸：基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療
4	肺および胸部	乳がん：基礎知識、外科呼吸器領域の検査、診断、治療
5	消化器および腹部	胃がん：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
6	腸・腹膜疾患	虫垂炎、大腸がん、急性腹症：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
7	腸・腹膜疾患	イレウス、直腸肛門疾患：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
8	肝・肝外胆道系	肝がん、胆石：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
9	肝・肝外胆道系	膵臓がん：基礎知識、外科消化器領域の検査、診断、治療
10	まとめ	まとめと復習
11	運動器の構造と機能	症状と病態生理、診断、検査、治療、処置
12	疾患理解	骨折：基礎知識、検査、治療、診断
13	疾患理解	関節リウマチ、変形性膝関節症
14	疾患理解	脊椎疾患（脊柱側彎症、椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症）
15	リハビリテーション医学	定義、リハビリテーション医の役割、リハビリテーション看護師の専門性、チーム医療

《専門教育科目 専門基礎科目 群（疾病の成立及び回復の促進）》

科目名	臨床病理病態学（周産期・小児科系）				
担当者氏名	米谷 昌彦、若井 和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

妊娠・分娩・産褥各期の母体の生理的变化と胎児の発育状態を学び、正常からの逸脱（異常）やリスクについて考える。さらに、出生から成人に至るまでのさまざまな発達段階における主要な疾患の病態と治療やケアについて学び、周産期・小児看護の実践に必要な基礎的知識を習得することを目的とする。

《テキスト》

- 『系統看護学講座 専門分野 母性看護各論』医学書院
- 『系統看護学講座 専門分野II小児看護学2第12版』2011
- 『系統看護学講座専門分野 小児臨床看護各論』医学書院

《参考図書》

- ・看護のための最新医学講座 14 新生児・小児科疾患（第2版）2005中山書店

《授業の到達目標》

1. 正常な妊娠・分娩・産褥経過および胎児の発育状態について説明することができる。
2. ハイリスク妊娠、分娩時の異常、産褥の異常について学び、予防するための看護を考えることができる。
3. 小児の成長・発達について理解できる。
4. 主要な小児疾患の病態生理を理解し、それらの治療やケアについて説明できる。

《授業時間外学習》

各講義の前にその日の講義内容についてあらかじめ教科書を読んで予習しておくこと。講義の際には可能な限りプリント配布を行うが、講義中に説明できなかった部分については読んで復習しておくこと。

《成績評価の方法》

- ・筆記試験（周産期：50%）で評価する。
- ・各担当者が実学期末の筆記試験（小児科系）80%レポート課題などの提出物や小テスト 20%

《備考》

講義中にまたは予習、復習時に理解できないことがあれば、必ず質問して疑問を残さないようにしてください。配布資料の丸暗記ではなく、テキストを必ず読むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊娠の成立	生殖器系の形態機能、不妊治療と看護、妊娠の成立
2	胎児の発育と妊娠期における母体の生理	胎児の発育と胎盤・羊水の生理、母体の生理的变化
3	ハイリスク妊娠と検査および治療	ハイリスク妊娠とは、妊娠期の感染症、妊娠中の併症、多胎妊娠、子宮外妊娠、胎児胎盤機能検査、NST
4	分娩経過	分娩の3要素、分娩経過、分娩機転、胎児心形機能、分娩中胎児心拍モニタリング
5	分娩の異常と産科処置と手術	産道・娩出力の異常、胎児および胎児付属物の異常、分娩時損傷、分娩時異常出血、産科的処置、吸引分娩、帝王切開術、麻酔方法
6	産褥経過（正常・異常）	産褥期の身体的変化、産褥の異常（子宮復古不全、産褥熱、産褥血栓症、精神障害）
7	まとめ	妊娠・分娩・産褥経過の要点整理、まとめ（小テスト）
8	新生児の生理と疾患	新生児の出生後の生理的適応とその障害について学ぶ。
9	先天異常とそのケア	主な染色体異常症とその他の先天異常症についての概略を学ぶ。
10	免疫疾患・アレルギー疾患	気管支喘息、食物アレルギーなどの小児によく見られるアレルギー疾患と免疫疾患について学ぶ。
11	感染症	小児感染症の特徴と代表的疾患について症状・治療・予防について学ぶ。
12	呼吸器・循環器疾患	小児期によく見られる呼吸器疾患と心疾患、川崎病について学ぶ。
13	血液・腎・泌尿器疾患	貧血、出血性疾患、ネフローゼ症候群や腎炎など腎疾患について学ぶ。
14	神経筋疾患・発達障害	てんかんをはじめとするけいれん性疾患、性麻痺、筋ジストロフィーなどの神経筋疾患、小児に特有の発達障害などについて学ぶ。
15	小児の事故・救急疾患	小児の事故・救急疾患について、それらの特徴や対応の仕方について学ぶ。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論（診療技術援助）				
担当者氏名	道廣 睦子、小林 廣美、森崎 由佳、星 智子、明石 智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

健康上の問題により生じる治療や検査を受ける対象を理解し、診療の補助業務における知識・技術を身につけ、安全かつ正確に与薬および検査が提供できる能力を身につける。特に、対象者の身体侵襲を伴う技術について、その適応と意義・目的、原理・原則、安全・安楽への配慮などについて基本的な知識と技術を修得する。さらに、臨床判断を行うとともに看護を展開するための技術について修得する。

《授業の到達目標》

1. 検査・治療における看護技術について、目的、原理・原則、安全・安楽・自立、個性への配慮など基本的な知識を説明できる。2. 検査・治療における看護技術の基本的な技術を修得できる。3. 看護技術についてエビデンスを考慮しクリティカルに思考できる。

《成績評価の方法》

定期試験（60%） 実技試験（20%） 演習での学習態度・意欲（10%） レポート課題（10%）

《テキスト》

系統看護学講座専門分野 基礎看護技術：医学書院 茂野香おる 系統看護学講座専門分野 基礎看護技術：医学書院 藤崎 郁

《参考図書》

写真でわかる実習で使える看護技術：インターメディカ 吉田みつ子 考える基礎看護技術 看護技術の実際：ニューヴェルヒロカワ 坪井良子 なぜ？わかる看護技術LESSON：学研 大岡良枝 基礎看護技術：メディカ出版 志自岐康子 他、講義の中で提示

《授業時間外学習》

(1) 事前にテキストの講義内容部分を予習しておくこと (2) 予習時には、既習学習の形態機能論や臨床病理病態学、薬理学 など講義に必要な知識を復習しておくこと (3) 講義・演習・その後の課題レポートと学習を統合できるよう、復習を必ず行うこと

《備考》

実習室は病室と同じと考え、服装など整えた上で清潔感があるようにして入室してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	与薬の技術（講義）	与薬の基礎知識 看護師の役割 与薬の実際（経口与薬・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬）
2	与薬の技術（講義）	注射の基礎知識（目的・方法・種類・物品）筋肉内注射 皮下注射（目的・特徴・安全に実施するための方法）
3	与薬の技術（演習）	筋肉内注射・皮下注射の実施
4	与薬の技術（講義）	静脈内注射（法的解釈と看護師の役割 種類・目的・特徴・注射部位・安全に実施するための方法） 輸血
5	与薬の技術（演習）	静脈内注射の実施
6	検査時の技術（講義）	看護師の役割 検体検査の基礎知識と援助の実際 生体検査の基礎知識と援助の実際 侵襲的処置の介助技術
7	検査時の技術（講義・演習）	採血の目的・適応 採血の種類 静脈血採血の安全な注射部位 安全な採血の方法 採血の実施
8	学習のまとめ（技術の確認）	学習内容の確認
9	排泄援助技術（講義）	導尿、浣腸
10	排泄援助技術（演習）	導尿、浣腸
11	呼吸・循環を整える技術 食事援助技術（講義）	ネブライザ-、吸引、酸素吸入、経管栄養
12	呼吸・循環を整える技術 食事援助技術（演習）	ネブライザ-、吸引、酸素吸入、経管栄養
13	創傷管理技術（講義・演習）	創傷管理の基礎知識 包帯法 褥創予防の技術
14	指導技術（講義とグループ学習）	患者教育とは何か 指導の前にふむべき4つの段階、学習者（学習意欲のアセスメント・学習能力のアセスメント）指導計画と実施、指導の評価、
15	指導技術（演習）	課題発表（グループ毎で実施）

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	看護技術論（看護過程）				
担当者氏名	道廣 睦子、小林 廣美、森崎 由佳、星 智子、明石 智子				
授業方法	演習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

看護過程は、看護者があらゆる看護現象を対象として看護を提供する際に用いる科学的思考過程です。この思考過程により、看護者は、ケアの受けてのニーズおよび問題を的確に把握し看護計画を立てて、効率的かつ効果的に看護を提供し評価することができます。看護過程は意志決定の基礎となり、看護師が行う重要な行為がすべて含まれますのでしっかり学習しましょう。

《テキスト》

資料配布

《参考図書》

・江本愛子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断

《授業の到達目標》

1. 看護過程の役割と意義を述べることができる。
2. 看護過程の5段階を説明できる。
3. 看護診断のステップを述べることができる。
4. 看護過程におけるクリティカルな思考法を理解できる。
5. 看護診断の優先順位をつける方法が理解できる。
6. 問題指向型看護記録の方法を理解できる。

《授業時間外学習》

・事例による看護過程の展開をするので、事前に渡された事例について、予習をし理解しておくこと。
 ・グループワークで課題を検討し、記録に残し、発表しますので、しっかり学習すること。
 ・基礎看護学実習の方法論ですので、しっかり理解し展開できるように学習して下さい。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加20%、レポートの提出10%
筆記試験70%

《備考》

配布資料は必ずファイルしておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護過程	看護過程の定義、看護の守備範囲、2つの看護過程、事例の紹介（肺がん）グループ紹介、学習の方法の説明
2	看護過程の講義・演習	事例紹介（肺がん）、肺がんの病態生理・症状・検査・治療・看護の復習 講義：アセスメントとは（情報収集・Sデータ・Oデータ）
3	看護過程の講義・演習	グループワーク：肺がんの患者事例を用いて情報収集・アセスメント
4	看護過程の講義・演習	課題発表：グループワークで肺がん患者の情報収集とアセスメントした結果を発表 講義：情報の総合と看護診断
5	看護過程の講義・演習	グループワーク：情報の総合と看護診断、優先順位
6	看護過程の講義・演習	課題発表：グループワークした情報の総合と看護診断 優先順位とその根拠 講義：アウトカム設定（目標）と計画（OP.TP.EP）の立案
7	看護過程の講義・演習	グループワーク：グループワークしたアウトカム設定（目標）と計画（OP.TP.EP）の立案
8	看護過程の講義・演習	課題発表：アウトカム設定（目標）と計画（OP.TP.EP）の立案 講義：看護ケア実施（看護記録の書き方SOAP, フォーカスチャータリング）評価
9	看護過程の講義・演習	事例紹介（心不全）心筋梗塞の病態生理・症状・検査・治療・看護の復習
10	看護過程の講義・演習	グループワーク：患者事例を用いて情報収集・アセスメント
11	看護過程の講義・演習	課題発表：グループワークで心不全患者の情報収集とアセスメントした結果を発表
12	看護過程の講義・演習	グループワーク：情報の総合と看護診断、優先順位
13	看護過程の講義・演習	課題発表：グループワークした情報の総合と看護診断 優先順位とその根拠
14	看護過程の講義・演習	グループワーク：グループワークしたアウトカム設定（目標）と計画（OP.TP.EP）の立案
15	看護過程の講義・演習	課題発表：アウトカム設定（目標）と計画（OP.TP.EP）の立案

《専門教育科目 専門基礎科目 群（基礎看護学）》

科目名	基礎看護学実習				
担当者氏名	道廣 睦子、小林 廣美、森崎 由佳、明石 智子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力				

《授業の概要》

基礎看護学実習を踏まえ、看護の対象である患者の全体像を捉え、その人に応じた基本的な日常生活援助ができる。また、看護過程の展開を通じて対象者に応じた援助の関係を形成し、科学的かつ論理的な問題解決能力を養う。

《テキスト》

既習科目で使用したテキスト・参考文献および配布資料

《参考図書》

看護のための病態ハンドブック：医学芸術社 山田 幸宏
 疾患別看護過程の展開：学研 山口 瑞穂子 看護に役立つ検査値の読み方・考え方：総合医学社 西崎統 他随時紹介

《授業の到達目標》

- 1.対象者とのかかわりを通じて、人間関係の成立・発展を図る。
- 2.対象者に応じた看護過程（問題解決過程）を展開する。
- 3.看護学生として倫理的に行動する。
- 4.自己の看護実践を言語化し評価することができる。

《授業時間外学習》

- 1.事前に、看護過程の展開について復習し理解しておくこと
- 2.事前に、日常生活援助の実施が安全に行えるよう看護技術の復習を行い実技の練習も行っておくこと
- 3.実習中には、既習の学習内容を使用し、問題解決に向けた看護の展開が行えるよう記録すること

《成績評価の方法》

実習目標達成度（80%） 学習態度（10%） レポート（10%）基礎看護学実習 評価表を用いて評価する。

《備考》

患者様に直接接することができる機会です。予防接種を行うなど体調管理をしておいてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		内容の詳細は実習要項で提示する
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	成人看護学概論				
担当者氏名	白神 佐知子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

成人期は人生で最も長く、心身の機能の成熟期でまた社会的役割の大きい時期である。成人期にある人々は生産活動に従事する中で社会的責任や様々なストレスを抱えつつ生活を送っている。こうした成人期にある人の健康と、健康障害の特徴、健康障害を起こす誘因を理解し、健康上の問題の予防と回復に向けての看護援助を考えていく。また、成人を対象とした保健医療の動向と対策、保健活動を理解する。

《テキスト》

- ・系統看護学講座 成人看護学概論，小松弘子，医学書院，2010
- ・国民衛生の動向2012/2013,厚生労働統計協会

《参考図書》

- ・成人看護学概論，大西和子・岡部聡子編，ヌーヴェルヒロカワ，2011

《授業の到達目標》

- (1)成人期にある対象のライフサイクルの特徴が理解できる。
- (2)労働者、生活者としての成人を理解することができる。
- (3)成人期にある人の健康と特異な健康問題の特徴が理解できる。
- (4)健康保持・増進・疾病の予防にむけた援助内容が理解できる。
- (5)成人看護に有用な概念を理解する。

《授業時間外学習》

自己学習ノートを作成し、参考書等を用いて单元ごとに復習をすること。また次回の授業範囲の教科書を読んで予習をしておくこと。

《成績評価の方法》

(1) (2) (3) (4)については筆記試験とレポート(提出遅れは減点する)で評価する。(5)についてはレポートとグループワーク参加度で評価する。
 評価割合は筆記試験60%，レポート20%，グループワーク20%で、100点満点で60点以上を合格とする。

《備考》

成人看護学の基礎となる授業であり、まず成人である自分を理解することが重要です。成人期の健康問題に関心を持ち、自主的、積極的に学んでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス、成人期にある人の特徴と理解	成人であること、ライフサイクルにおける成長、発達からみた成人を理解する。また身体機能の特徴と看護が説明できる。
2	成人期にある人の特徴と理解	労働者、生活者としての成人を理解し、現代の労働や生活状況が説明できる。また成人の生活を理解する視点や方法を理解する。
3	成人に特有な健康問題の特徴	成人である大人の生活状況から健康問題を考える。また健康問題の現状や課題を学習するために、成人期における保健の動向を説明できる
4	保健、医療、福祉システム	成人期の人々の生活を支え、健康を守るための対策の概要、連携が説明できる。
5	健康行動、看護アプローチの基本	大人の学習の特徴を理解し、健康行動を促進するための看護アプローチが説明できる。
6	生活行動からみた健康問題1	就業、労働形態の変化がもたらす職業に関する健康問題を取り上げ、発生状況やその課題を理解する。
7	生活行動からみた健康問題2	生活習慣に関する健康問題を取り上げ、発生状況や課題を理解する。
8	生活行動からみた健康問題3	身体問題やストレスに関する健康問題を取り上げ、発生状況や課題を理解する。
9	健康レベルに応じた看護1	急性期状態、慢性期状態にある人の特徴と看護、危機的状況への対処を促す看護、説明できる。
10	健康レベルに応じた看護2	障害を持つ人とりハビリテーション、終末期にある人の特徴と看護が説明できる。
11	成人看護に有用な概念	成人看護に有用な理論、概念の理解と実践の関連が説明できる。
12	成人看護に有用な概念	理論についてのグループワーク
13	成人看護に有用な概念	理論についてのグループワーク
14	成人看護に有用な概念	理論についての発表
15	看護における倫理	看護倫理、医療における倫理的問題をとりあげ、倫理的アプローチを考える。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学概論				
担当者氏名	瀧本 茂子、大植 崇				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

老年期にある患者について理解を深め、高齢社会へ適応し対応できる基礎的能力を培うことができる。老年期にある患者の加齢変化とQOLなどを考慮した看護展開ができるための基礎的知識を得て、老年看護の専門性を理解できるようにする。また、老年看護における倫理的責務について考えることができる。

《テキスト》

「老年看護学 概論と看護の実践」ヌーベルヒロカワ
 「老年看護技術」ヌーベルヒロカワ
 「国民衛生の動向」厚生統計協会

《参考図書》

「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
 「系統看護学講座 老年看護 病態疾病論」医学書院
 「厚生労働白書」厚生労働省

《授業の到達目標》

老年看護の概念、加齢現象、高齢者のQOL、老年看護の専門性について理解できる。老年看護における看護職者の倫理的責務について考えることができる。高齢社会における現状と課題が理解できる。高齢者に対する保健・福祉・医療について理解できる。

《授業時間外学習》

課題をグループワークにて纏める

《成績評価の方法》

グループワークでの参加度や内容20%
 課題提出20%
 小テストと筆記試験60%

《備考》

身近な高齢者と会話したことをレポートに纏める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学序説	老年看護の概念、高齢者のQOL、尊厳、人権擁護
2	高齢者の理解	加齢変化（身体的・生理的・心理・スピリチュアル的・社会的・発達段階の側面）
3	高齢者の理解	加齢変化（身体的・生理的・心理・スピリチュアル的・社会的・発達段階の側面）
4	高齢者模擬体験A	高齢者疑似体験A（BCのグループは高齢者の歴史を年表に纏める）
5	高齢者模擬体験B	高齢者疑似体験B（ACのグループは高齢者の歴史を年表に纏める） （5月連休中に高齢者と会話した体験話をレポートに纏める）
6	高齢者模擬体験C	高齢者疑似体験C（ABのグループは高齢者の歴史を年表に纏める） （5月連休中に高齢者と会話した体験話をレポートに纏める）
7	高齢者の歴史	高齢者の歴史について発表
8	高齢者看護に用いられる理論	コンプライアンスとアドヒアランス・自尊感情
9	高齢者看護に用いられる理論	自己効力感、エンパワーメント、ストレングスモデル
10	高齢者看護に用いられる理論	危機と適応、役割理論
11	高齢社会への対応	人口の高齢化現象と課題
12	高齢社会への対応	高齢者保健・福祉政策
13	高齢社会への対応	生きがい、健康、社会参加、性
14	高齢社会への対応	高齢者の虐待、身体拘束、家族支援
15	老年看護の実践	転倒・転落への看護

《専門教育科目 専門基礎科目 群（母性・小児看護学）》

科目名	母性看護学概論				
担当者氏名	若井 和子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

女性のライフステージにおける社会的・身体的・心理的特性を学ぶことにより、母性看護の必要性と意義について考える。さらに女性のライフステージにおいて、必要な看護を実践できるための基礎的知識を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

1. 女性のライフステージおよび新生児の生理的变化について学び、対象の各期における必要な看護を説明することができる。
2. 女性がおかれている社会的状況、生活・家族に関する事象を多角的に考察することができる。

《成績評価の方法》

レポート（20%）、定期試験（80%）で評価する。

《テキスト》

- ・『ナーシンググラフィカ30 母性看護実践の基本』 メディカ出版
- ・『系統看護学講座専門分野 母性看護学概論』医学書院

《参考図書》

- ・『新体系看護学32 母性看護学概論・母性保健』新道幸恵他メヂカルフレンド
- ・『女性のライフサイクルとナーシング』ヌーヴェルヒロカワ
- ・『ウイメンズヘルスナーシング概論』ヌーヴェルヒロカワ
- ・『国民衛生の動向』

《授業時間外学習》

- ・受講後、必ずテキストを読んで復習すること。
- ・国家試験問題集を活用して自己の学習成果を確認するとともに、誤って回答した箇所についてテキストを開いて調べ、理解を深めること。

《備考》

配布資料の丸暗記ではなく、テキストを必ず読む。範囲が広いので、国家試験問題集を活用してポイントを押さえノートに整理していくことが確実な理解につながる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	母性看護の概念	母性看護の概念について学び、母性看護で用いられる理論について説明することができる。
2	女性の健康とヘルスプロモーション	女性の健康を決定する要因を知り、女性のライフステージにおけるヘルスプロモーションの意義を踏まえた具体的活動を考えることができる。
3	女性の健康とリプロダクティブヘルス/ライツ	女性を取り巻く社会環境、人口動態、母子保健を学び、リプロダクティブヘルス/ライツについて説明することができる。
4	母性看護における倫理的問題	母性看護職者の法的責任と倫理について学び、自己の倫理観を深めると共に、対象の意思決定をサポートするための倫理的看護活動を考えることができる。
5	母性看護職者の法的責任	母性看護における事故事例から学び、安全対策の必要性を説明することができる。
6	女性の健康と遺伝 男性生殖器	ヒトの発生、性周期、ライフサイクル別の遺伝の現状について学び、リプロダクティブヘルス/ライツに基づいた母性看護の役割を学ぶことができる。
7	女性の健康とセクシュアリティ	性の価値観、あり方の多様性を理解し、対象の性の健康リスクに対するアセスメントおよび問題解決のための具体的な支援を学ぶことができる。
8	妊娠期にある女性の健康と課題	妊娠初期～中期の妊娠経過を学び、妊婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
9	妊娠期にある女性の健康と課題	妊娠中期～後期の妊娠経過、起こりやすい異常について学び、妊婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
10	分娩期にある女性の健康と課題	分娩第 期の経過、起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
11	分娩期にある女性の健康と課題	分娩第 ～ 期の経過、起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
12	産褥期にある女性の健康と課題	産褥期の進行性変化・退行性変化、起こりやすい異常について学び、産婦の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
13	新生児の健康と課題	新生児の生理的变化、起こりやすい異常について学び、新生児の健康状態をアセスメントするための必要な情報の根拠と看護を説明することができる。
14	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児	妊婦・産婦・産褥・新生児のハイリスクについて学び、異常を予防するための看護および異常が起こった場合の看護を説明することができる。
15	虐待、DVを受けた子どもと女性の健康課題	子どもへの虐待、DVの現状と社会の取り組みを知り、予防の必要性について考えることができる。

科目名	小児看護学概論				
担当者氏名	小島 賢子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力				

《授業の概要》

小児と小児を取り巻く社会を理解し、子どもの健康や成長発達を支える小児看護の特質を考える。子どもの権利を尊重する考え方、小児看護の歴史と変遷、小児看護と法律・施策、小児看護で用いられる理論、子どもの成長・発達を学ぶ。

《テキスト》

小児看護学 1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院

《参考図書》

小児看護学概論 南江堂
小児の発達と看護 ナーシング・グラフィカ

《授業の到達目標》

1 小児看護の対象を理解し、小児看護の目標と役割について説明することができる。2 子どもの権利を尊重する考え方を知り、自己の考えを述べるができる。3 小児看護の歴史と変遷について述べるができる。4 小児と家族に関する法律、施策について述べるができる。5 小児看護で用いられる理論について考えることができる。6 子どもの成長発達について説明することができる。

《授業時間外学習》

授業計画で示された内容について、予習しておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、レポート提出や発表内容30%で評価する。

《備考》

子どもに対して、自分なりのイメージを持つ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	子どもとは	子どもとは何かを考える。児童労働の状況を通して子どもと家族、社会の関係を学ぶ。
2	子どもと家族	家族の機能と現在の特徴について具体的に理解する。
3	子どもの権利と小児看護における倫理	子どもの権利条約と小児看護との関連を具体事例を基に考える。
4	小児看護で用いる理論	ボウルビーの愛着理論・エリクソン自我発達理論・ピアジェ認知発達理論を学ぶ。
5	小児の成長・発達	小児の成長・発達の原則、影響因子と評価方法を理解する。
6	小児の栄養	小児の栄養について、食行動の発達を基に理解する。
7	乳児期の小児の成長・発達と看護 1	各時期の成長・発達を具体的に理解し、時期に応じた看護を学ぶ。 乳児期：形態的特徴、身体生理の特徴を学ぶ。
8	乳児期の小児の成長・発達と看護 2	乳児期：反射と発達の変化、発達課題を通して看護を理解する。
9	幼児期の小児の成長・発達の看護 1	幼児期：形態的特徴、身体生理の特徴、運動機能、知的機能、コミュニケーション機能、情緒・社会的機能を学ぶ。
10	幼児期の小児の成長・発達の看護 2	幼児期：基本的生活習慣の獲得過程、発達課題を学ぶ。
11	幼児期の小児の成長・発達の看護 3	幼児期：遊びを通して看護を理解する。
12	学童期の小児の成長・発達と看護	学童期：形態的特徴、身体生理の特徴、諸機能、社会的機能や発達課題を通して看護を理解する。
13	思春期の小児の成長・発達と看護	思春期：発達課題、問題、課題を通して看護を学ぶ。
14	小児と家族を取り巻く社会	小児と家族への社会制度と施策について、その歴史と変遷について学ぶ。
15	小児看護の今後の課題	現在の子どもと家族がおかれている状況をふまえながら、小児看護の変遷とともに今後の課題を考える。

《専門教育科目 専門基礎科目 群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	精神看護学概論				
担当者氏名	加藤 知可子、南川 博康				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力				

《授業の概要》

精神看護学の対象は、精神を病む人のみならず、生を受けて間もない新生児から死の訪れを間近にした人まで、成長発達過程のあらゆる段階の人を含んでいる。社会生活における精神の健康と危機的状況およびそれらに影響を与える様々な要因を幅広い視野をもって理解し、健康な精神発達への援助を思考するために必要な知識や概念を理解することを目的とする。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ニューヴェルヒロカワ）
 「精神看護学 精神臨床看護学」第5版 川野雅資 編（ニューヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学ノート」第2版 武井麻子 著（医学書院）
 「精神科医療看護の歩」宮内充著（医学書院）

《授業の到達目標》

心の健康を保持・増進するために必要な基礎知識を説明できる。精神看護学や精神医療に関連する基本的な概念を説明できる。精神看護学の役割について説明できる。精神障がい者の人権に関連する法律について説明できる。心の障がいを持つ対象者への看護に関する基本的な概念について説明できる。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。
- (2) 復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は、分で資料や図書を用いて調べたり、質問する。

《成績評価の方法》

特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより、授業計画や成績評価法には変更を加えることがある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、減点の上、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床における心の健康と不健康	臨床における心の健康と不健康について、基本的な概念を説明できる。
2	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する基本的な概念を説明できる。
3	精神保健・精神看護学の定義	精神保健・精神看護学の定義について基本的な概念を説明できる。
4	患者・家族のこころ	精神障がいを持つ患者・家族の背景について説明できる。
5	精神神経医学各論1 統合失調症	統合失調症に関する基本的な概念を説明できる。
6	精神神経医学各論2 感情障害	感情障害に関する基本的な概念を説明できる。
7	ライフサイクルと精神保健 危機的状況	ライフサイクルと精神保健について、危機的状況の視点から説明できる。
8	看護師のメンタルヘルス	看護師のメンタルヘルスに関する基本的な概念を説明できる。
9	精神障がい者に関する法と関連事件	精神障がいに関する法の変遷について説明できる。
10	精神神経医学各論3 神経症性障害	神経症性障害に関する基本的な概念を説明できる。
11	精神神経医学各論4 癲癇 器質性障害	癲癇や器質性障害に関する基本的な概念を説明できる。
12	精神神経医学各論5 物質障害	物質障害、パーソナリティ障害等に関する基本的な概念を説明できる。
13	精神神経医学各論6 リエゾン精神医学	リエゾン精神医学に関する基本的な概念を説明できる。
14	ストレスと危機	ストレスと危機に関する基本的な概念を説明できる。
15	精神保健医療の歴史	精神保健医療の歴史について、基本的な知見を説明できる。

科目名	在宅看護概論				
担当者氏名	新田 幸子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

講義では、何故今、在宅看護なのか。在宅看護の動向についてや在宅で社会保障制度がどのように使われているか、それに関連する法律や社会資源の活用についてなどわかりやすく伝えていきます。そして、在宅で療養する人々や病気や障害を持ちながら社会で暮らす人とその家族・生活環境を理解してほしいです。質の高い療養生活を安定して継続できるように支援するために必要な看護の基礎的知識・技術・態度を考えていきます。

《授業の到達目標》

- ・在宅看護の目的と基本理念について説明できる
- ・在宅看護の対象（療養者とその家族）が理解できる
- ・医療・看護の決定権は療養者・家族にあることが説明できる
- ・医療機関からの退院調整と訪問看護との連携が説明できる
- ・在宅看護に関連するケアシステムが説明できる
- ・訪問看護の役割を看護活動を通して説明できる
- ・社会資源の活用状況と効果をアセスメントできる

《成績評価の方法》

定期試験による評価（100%）

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2012

《参考図書》

在宅看護論「地域療養を支えるケア」ナースング・グラフィカ
メディカ出版 2013
「国民衛生の動向」

《授業時間外学習》

在宅看護は、広く地域に暮らす生活者を対象に、あらゆる健康レベルへの看護を提供します。居住地域の地域の特徴と保健医療福祉活動とサービス（在宅支援、介護保険）の内容、訪問看護に関する法規や訪問看護師の役割と訪問看護の内容を調べておくこと。在宅看護は、家族が身近でかつ重要な部分を占めます。あなたにとっての家族とはなにかを考えておくこと。

《備考》

身近にいる高齢者はどのように生活をされているのだろうか。また、どのような社会資源があるのだろうかなど興味を持って下さい。テレビや新聞からもたくさんの情報が得られます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅看護とは	何故、在宅看護が注目されて来たのか？
2	在宅看護の対象者	疾患から・障害からみた対象者 訪問看護制度の経緯からみた対象者
3	在宅看護における看護師の倫理 対象の権利保障	看護師の職業倫理を基に、事例を取り上げ「家族介護者が発した言葉」、「訪問看護師の本音の言葉」から考える。在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源
4	在宅療養者とその家族	システム理論を用いた家族のとらえ方
5	在宅療養者とその家族	事例を用いて家族をシステムを理解する
6	在宅看護の制度	社会保障制度が在宅でどのように使われているか。憲法第25条の条文を柱に具体的に説明。国民皆保険、社会保険、医療保険制度と介護保険制度
7	介護保険制度とは	介護保険制度での訪問看護制度 介護サービスの利用
8	第1章～第3章のまとめ	講義の重要ポイントを振り返る。併せて過去の国家試験問題を解答し出題内容を理解する
9	在宅看護過程の展開方法	在宅看護過程の特徴
10	在宅看護過程の展開方法	医療機関からの退院調整と訪問看護との連携について在宅ケアにおけるケアマネジメント、他職種との連携方法
11	在宅看護過程の展開方法	要介護状態にある高齢者の事例から、365日24時間安心して生活していくためのマネジメントの過程を理解する
12	在宅看護における安全性の確保	感染防止 医療事故防止
13	在宅看護における安全性の確保	災害時の在宅看護（災害時の対応 訪問看護師の防災教育・訓練（被災時の対応・家族への安全対策指導）
14	総合リハビリセンター・多機能型事業所見学	障害者支援施設自立生活訓練センター、福祉用具展示ホール、障がい者就労支援施設多機能型の概要を見学し、社会復帰に必要な一貫したサービスを理解する
15	総合リハビリセンター・多機能型事業所見学	障害者支援施設自立生活訓練センター、福祉用具展示ホール、障がい者就労支援施設多機能型の概要を見学し、社会復帰に必要な一貫したサービスを理解する

《専門教育科目 専門基礎科目 群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	公衆衛生看護学概論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

公衆衛生看護の基本について理解し、保健師としての基本的な視座を身につける。

《テキスト》

地域看護学・j p改訂第2版(インターメディカ)

《参考図書》

標準保健師講座1「地域看護学概論」
保健師業務要覧 日本看護協会出版会

《授業の到達目標》

公衆衛生看護学の理念について理解できる。
地域看護が行われる場と活動内容の概要が理解できる。

《授業時間外学習》

課題レポートにより学習を深める。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、小テスト（20%）、課題（20%）で総合評価する。

ただし、他の学生の受講妨害をするような態度と認められる場合は減点する。

《備考》

保健師国家試験受験資格の必修科目です。保健師とは何かについて一緒に学びましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆衛生看護とは何か	公衆衛生看護の理念・目的・機能について理解する。また公衆衛生看護と保健師活動の関連について理解する。
2	公衆衛生・公衆衛生看護の歴史	時代変遷と保健師活動の歴史について理解する。
3	保健師活動の基盤となるもの	保健師活動の基盤となるものには、どのようなものがあるのかについて理解する。
4	公衆衛生におけるヘルスプロモーション	公衆衛生看護の活動を支えるヘルスプロモーションの概念について理解する。
5	公衆衛生看護活動の場と活動	行政、産業、学校、在宅にの場における公衆衛生看護活動の特性について理解する。
6	ヘルスケアシステム	地域保健システムについて理解する。また生活・生活者の視点とは何かについて理解する。
7	地域の人々と健康（対象としての個人）	個人の健康について、発達段階・性・生活・健康信念・保健行動の視点から理解する。
8	地域の人々と健康（対象としての家族）	家族の構造、家族看護理論などについて理解する。
9	地域の人々と健康（対象としての集団・組織）	集団・組織の特性について理解し、ケア技術としてのグループダイナミクスについて理解する。
10	地域の人々と健康（対象としての社会）	地域社会、文化と健康との関係について理解する。
11	国際保健活動、災害保健活動	国際保健活動に関するシステム、活動の特徴について理解する。災害時の保健活動について理解する。
12	公衆衛生看護学管理、地域診断・地区診断	公衆衛生看護学管理、地域診断・地区診断、地域保健計画の基本的な概念について理解する。
13	保健指導とは	保健指導の種類とその活用について理解する。
14	公衆衛生看護活動の展開	プリシード・プロシードモデル、ヘルスピリーブモデル、ステージ理論などの理論・モデルについて理解する。
15	公衆衛生看護研究	公衆衛生看護研究の基盤について理解する。

科目名	学校保健概論				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力				

《授業の概要》

地域看護領域の一分野である学校分野では、教育を受ける権利を保証するため心身ともに健康な国民の育成することにより人格の完成を目指している。そのため対象である園児、児童、生徒、学生及び教職員の健康の保持増進を図るための健康管理の必要性を理解するためには、既習の看護学を体系的に概観する。そして、子どもの発達課題に応じた健康の保持増進支援に必要な職種、法規、関係機関とそれらの連携について学ぶ。

《授業の到達目標》

学校保健の理念が理解できる。
 学校保健の目的・役割・機能が理解できる。
 学校保健の対象である園児、児童生徒、学生及び教職員の発達段階に応じた健康管理の支援について、既習科目を踏まえて考えることができる。
 学校保健の目的を達成するために養護教諭、他の教職員、関係職種、関係機関の役割と関連する法規について説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート課題等の提出物30%
- (2) 定期試験70%（テキスト、資料等は持ち込み不可）

《テキスト》

『地域看護学』、jp改訂第2版、インターメディカ
 必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

『国民衛生の動向』 厚生統計協会、2011 『学校保健マニユアル』江藤隆・岡田加奈子編2010 『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011

《授業時間外学習》

- (1) 対象者を理解するために既習科目で学んだ発達課題を理解しておくこと。
- (2) 講義終了時に「学校保健におけるこれからの課題」についてレポートを提出してもらいますので、関連図書をそれまでに読んでおいてください。

《備考》

地域看護学概論で対象範囲について理解を深めるよう心がけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健の理念と目的	学校保健の理念を、法的根拠の基づき理解し、学校保健の目的が説明できる。
2	学校保健の歴史と学校保健の制度とシステム	学校保健の歴史的から現在に至る学校保健の制度やシステムの変遷を学ぶことにより、学校保健に関係する人々の仕事や関連する法律が理解できる。
3	学校保健の現状	学校保健対象者の発達段階、疫学統計、学校環境等から対象者の健康管理の重要性が理解できる。
4	学校保健における健康課題	学校における健康管理から対象者の健康課題が理解でき、それぞれのニーズに応じた支援が理解できる。
5	学校保健での保健室の機能と養護教諭の職務	学校保健での健康管理の拠点である保健室の機能と健康管理の中心的役割を担う養護教諭の職務について理解する。
6	学校環境管理と学校安全の取り組み	学校保健安全法への改正の要点である、子どもを取り巻く環境の安全性について学ぶ。
7	学校保健における特別支援学校の役割	学校教育法改正により、新たな校種となった特別支援学校について学ぶ。
8	学校保健に必要な地域連携と社会資源	学校保健では地域の連携が重要であり、社会資源の活用は子ども健康管理の視点で必要であることを学ぶ。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門基礎科目 群（養護教諭関連）》

科目名	養護概説				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

園児・児童・生徒・学生の心身の健康の保持増進させるために、求められる養護教諭の専門性と役割及び職務について学習する。学校保健活動には学校内外の連携が重要であることから、学校保健関係教職員の職務を理解する。その学びから、養護教諭の職務の専門性と資質の向上と園児・児童・生徒・学生の多様な問題に対して即応できるようにするために研究的視野を培うことを目的とする。

《授業の到達目標》

園児・児童・生徒・学生の心身の健康の保持増進の必要性について理解できる。学校保健における養護教諭の専門性と役割及び職務について説明できる。学校での健康管理と安全管理での養護教諭の具体的活動が説明できる。学校保健における多様な問題に対応できる研究的視野を持つ。

《成績評価の方法》

- (1) レポート課題等の提出物40%
- (2) 定期試験60%（テキスト、資料等は持ち込み不可）

《テキスト》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010/『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編、第一法規、2011

《参考図書》

『国民衛生の動向』厚生統計協会、2011『学校保健マニユアル』江藤隆・岡田加奈子編2010『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011『新版養護教諭職務の手引』植田誠治他監、東山書房、2011

《授業時間外学習》

- (1) 養護教諭の職務を理解するために既習科目を復習、学習してください。
- (2) 講義終了時に「養護教諭に必要な知識・技術・態度」についてレポートを提出してもらいますので、関連図書をそれぞれに読んでおいてください（最終授業の1週後）。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養護の概念と教育行政	学校教育での養護教諭の位置付けと学校保健分野での対象者の成長発達段階が理解できる。
2	養護教諭の職務と専門性	学校保健の養護教諭の職務の内容とその専門性が説明できる。
3	保健室経営と機能	学校保健活動の拠点である保健室経営とその特性、機能が理解できる。
4	養護教諭の実践活動過程	学校保健分野における養護活動の健康管理に必要なプロセスとその実践記録の重要性が理解できる。
5	養護実践のための技術・方法1：健康相談他	学校保健での健康管理のための健康相談のプロセスが理解できる。
6	養護実践のための技術・方法2：健康診断他	学校保健での健康管理で重要な健康診断のプロセスが理解できる。
7	養護実践のための技術・方法3：保健教育	学校保健での保健教育として必要な指導案が立案できる（最終に提出）。
8	養護実践のための技術・方法4：安全・環境	学校保健における安全の考え方、環境のあり方そして、そのために必要な関係者との連携、組織の必要性について理解できる。
9	健康課題に応じた養護活動1：内科的課題	学校保健分野における内科的訴えを持つ対象者への養護教諭の職責と役割が理解できる。
10	健康課題に応じた養護活動2：外科的課題	学校保健分野における外科的訴えを持つ対象者への養護教諭の職責と役割が理解できる。
11	健康課題に応じた養護活動3：精神的課題	学校保健分野における精神的訴えを持つ対象者への養護教諭の職責と役割が理解できる。
12	校種の特性に応じた養護活動の展開1：一般校	校種（幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学）の特性に応じた養護活動が理解できる。
13	校種の特性に応じた養護活動の展開2：一般校	学校の規模、地域の特性に応じた養護活動の違いが理解できる。
14	特別支援学校での養護活動の展開	特別支援学校の特性に応じた養護活動が理解できる。
15	養護教諭と研究	学校保健分野における多様な問題に対応するために研究的視野が所要であることが理解できる。

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。

自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。

教育効果の検証（評価）ができる。

教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30%）、定期試験（70%）

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示した課題については、参考文献等に目を通し、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論(道徳・特別活動を含む)				
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程全般についての知識や学習指導要領に沿ってどのように教育内容を展開していくかを学ぶ。学習指導要領がどのように歴史の変遷を経て改訂されたかも学ぶ。各校種別の教育課程の内容や編成の手順、実際にどのように実施されているかについて学ぶ。また、特別活動、道徳教育の目標や意義について講義する。実際に学校現場での教育課程の具体的実施事例について提示する。

《授業の到達目標》

教育課程全般についての知識と幼小中高における教育課程の内容を理解し、教員として教育課程を編成、評価、改善していくための基礎を培うことを目標とする。また、教育課程を実施していく上での具体的事項を実際の事例をもとに研究するなかで、学校現場の実情を理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)、レポート(40%)、その他(提出物、出席状況、授業への取り組む姿勢等)(20%)を基本的に総合的に評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養育課程について(1)	教育課程の目的、方針、評価等や教育課程の意義と今日的課題について学ぶ。
2	教育課程について(2)	教育課程に関する法律、学校教育の目的、目標について理解する。
3	教育課程の歴史の変遷	学習指導要領改訂の歴史並びに改訂の経緯や基本方針について理解する。
4	我が国の教育施策と教育課程	教育施策の具体例の提示から教育行政について知る。
5	教育課程編成の手順	教育課程編成の具体的手順について学び、指導計画の事例の研究をする。
6	小学校教育課程の編成と実施	小学校(幼稚園含む)教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
7	中学校教育課程の編成と実施	中学校(高等学校含む)教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
8	総合的な時間の取り扱い	趣旨、ねらい、計画、具体的な学習活動について学び、学習活動展開上の配慮事項を理解する。
9	道徳教育について	道徳教育の意義、目標と内容について学ぶ。
10	特別活動について	特別活動の意義、目標と内容について学ぶ。
11	教育課程実施上の配慮事項	小学校配慮事項(12項目)、中学校配慮事項(14項目)について理解する。
12	教育課程実施上の具体例(1)	生徒指導の充実(いじめ問題の対応を事例研究する)
13	教育課程実施上の具体例(2)	生徒指導の充実(不登校の現状と課題を理解し、不登校生への対応について事例研究する)
14	教育課程実施上の具体例(3)	気になる児童生徒への対応について学校現場の実情を学ぶ。
15	新学習指導要領のポイント	学習指導要領の改訂の動向やポイントなどについて理解する。

《テキスト》

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 H20.8 文科省 東洋館出版
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 H20.9 文科省 ぎょうせい

《参考図書》

自作した教材や教育課程に関する資料を提供する。
「授業ノート」をこちらで用意する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを提出する。これを提出することで出席を確認する。また、この「授業のまとめ」が試験やレポートの資料になるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す意志と意欲が、授業のなかで感じられる学生であること。受講態度については大学生として常識を持って臨むものとする。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。授業設計の体系的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
 授業設計の体系的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
 独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にも体系的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
 小テストの結果（30%：3回実施予定）
 ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
 その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
 復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明 / 教材をイメージする / キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	体系的な教材設計・開発の手順 / キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイデア交換 / 教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト（第3、4章） / 学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類 / 教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成 / 教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト（第5～7章） / 教材企画書の提出 / 課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト（第8、9章） / 形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施 / 教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順 / 教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材 / まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材 / 教材作成報告書の提出 / 学習の振り返り

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論・考え方や実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%),レポート(40%),その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《参考図書》

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを提出する。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するもではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 23 (2011) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	看護 教諭 一種	学年配当(数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年	2年	3年	4年			
専 門 基 礎 科 目	社会福祉論 群(健康支援と 社会保障制度)	社会福祉論	講義	2				2						
		家族関係論	講義	2					2					
		精神保健	講義	2					2					
		環境衛生学	講義	2							2		(多田 章夫)・久井 志保	158
		保健福祉行政論	講義	2						2				
		公衆衛生学(疫学含)	講義	2						2				
		保健統計学	講義	2						2				
	構造と機能の 群(人体の 機能)	基礎生物学	講義	2				2						
		形態機能論	講義	4				4						
		生化学	講義	2				2						
		栄養学(食品学を含む)	講義	2				2						
		薬理学	講義	2					2					
		免疫・微生物学	講義	2				2						
	及び回復の促進 群(疾病の成立)	臨床病理病態学 A(内科系)	講義	2						2				
		臨床病理病態学 B(内科系)	講義	2						2				
		臨床病理病態学 (外科系)	講義	2						2				
		臨床病理病態学 (周産期・小児科系)	講義	2						2				
	専 門 教 育 科 目	看護学概論 群(基礎看護学)	看護学概論	講義	2				2					
			看護理論	講義	1				1					
			ヘルスアセスメント	講演	1				2					
看護技術論(生活技術援助)			講演	2					4					
看護技術論(診療技術援助)			講演	2					4					
基礎看護学実習			実習	1				3						
基礎看護学実習			実習	2					6					
看護教育学			講義	1						1			道廣 睦子	159
看護管理学			講義	1						1			小林 廣美	160
成人看護学 群(成人・老年看護学)		成人看護学概論	講義	2					2					
		成人看護援助論(生命危機状態にある人)	演習	2						4			白神・弘中・廣田	161
		成人看護援助論(常態の維持・増進が困難な人)	演習	2						4			未定・高橋・廣田	162
		成人看護学実習	実習	3							9		白神・高橋・未定・弘中・廣田	163
		成人看護学実習	実習	3							9		白神・高橋・未定・弘中・廣田	164
	老年看護学概論	講義	2					2						
	老年看護援助論	演習	2						4			瀧本 茂子・大植 崇	165	
	老年看護学実習	実習	2							6		瀧本 茂子・大植 崇	166	
	老年看護学実習	実習	2							6		瀧本 茂子・大植 崇	167	
小児看護学 群(母性・小児看護学)	母性看護学概論	講義	2						2					
	母性看護援助論	講演	2							4		秦 久美子・若井 和子	168	
	母性看護学実習	実習	2							6		若井 和子・秦 久美子	169	
	小児看護学概論	講義	2					2						
	小児看護援助論	講演	2						4					
	小児看護学実習	実習	2							6		小島 賢子・渋谷 洋子	170	

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成23年度（2011年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ			
			必修	選択				1年	2年	3年	4年					
専 門 教 育 科 目	専 門 実 践 科 目 (群 ・ 精 神 ・ 在 宅 ・ 地 域 看 護 学)	精神看護学概論	講義	2					2							
		精神看護援助論	講義	2						2				加藤 知可子	171	
		精神看護学実習	実習	2							6			加藤 知可子	172	
		在宅看護概論	講義	2						2						
		在宅看護援助論	講義	2							2			新田 幸子・東 久子	173	
		在宅看護実習	実習	2								6				
		地域看護学概論	講義	2						2						
		地域看護活動論	演習	2							4				久井 志保・藤本 優子	174
		産業保健論	講義	1							1				久井 志保	175
		学校保健概論	講義	1						1						
		国際看護学	講義	1									1			
		災害看護学	講義	1									1			
		地域看護学実習	実習	3									9			
		統 合 科 目	統 合 と 実 践 (群 ・ 看 護 の 統 合 と 実 践)	看護研究（基礎編）	演習	2					2				*1	176
				看護研究（応用編）	演習	2							2			
リスクマネジメント論	講義				1					1				[山田 鈴子]	177	
看護の統合と実践実習	実習			2							6			*2	178	
関 連 科 目	群 (関 連)	学校保健活動論	講義	2					2					柴田 順子	179	
		学校保健演習	演習	2						2				柴田 順子	180	
		養護概説	講義	2						2						
		健康相談活動の理論と実践	講義	2							2					
基 礎 科 目	群 (基 礎)	基礎ゼミ	演習	2				2								

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は養護教諭免許必修科目

*1 道廣・大植・加藤・若井・新田・小林・瀧本・白神・小島・久井・秦・森崎・高橋・弘中・柴田・星・未定・渋谷・東・藤本・廣田・明石

*2 道廣・加藤・若井・新田・小林・瀧本・白神・小島・久井・秦・森崎・高橋・大植・弘中・星・未定・渋谷・東・藤本・廣田・明石

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当(数字は週当たり授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年	2年	3年	4年		
教 職 に 関 す る 科 目	教職概論	講義	2					2					
	教育原理	講義	2					2					
	教育心理学	講義	2						2				
	教育制度論	講義	2					2					
	教育課程論（道徳、特別活動を含む）	講義	2						2				
	教育方法・技術論	講義	2						2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義	2						2				
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義	2					2					
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習	5								5		
	教職実践演習（養護教諭）	演習	2								2		

は養護教諭免許必修科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

科目名	環境衛生学				
担当者氏名	多田 章夫、久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

大気汚染や水質汚濁などの身近な生活環境の汚染問題や我が国において深刻な健康影響をもたらした公害問題などから健康を阻害しない環境のあり方を考える。また、地球規模での環境問題や生態系の中での人の健康についての認識を深める。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2013」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）

《授業の到達目標》

- 1 環境の概念を理解する
- 2 生活環境の汚染問題について説明できる
- 3 地球環境問題を理解する

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握する
- 2 毎回授業後、ノートを整理し重要なポイントを理解する
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努める
- 4 課題レポートを計画的に実施して期限までに提出する。

《成績評価の方法》

- 1 多田担当分：小テスト100%
- 久井担当分：課題レポート（30%）期限までに提出しない場合は減点する。テスト（70%）

《備考》

講義中は、他人の迷惑にならないよう最低限のマナーを守る産業保健論は「公衆衛生看護学」「健康教育」等の科目と関連が深いため、履修しておくことが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	環境の概念、環境の把握とその評価	生態系、非確率的影響と確率的影響、環境の評価、環境基準と許容濃度について説明できる。
2	物理的環境要因、化学的環境要因	温熱の4要素（気温、湿度、気流、輻射熱）、温熱・放射線・騒音等物理的因子による健康影響、化学物質の量・反応関係、毒性試験について説明できる。
3	生物的環境要因	ウイルスや細菌等病原微生物による健康影響、最近の国内における感染症について説明できる。
4	空気・水の衛生と大気汚染	大気汚染を引き起こす成分とその健康被害、上水道・下水道・環境中の水質基準と水質汚染について説明できる。
5	廃棄物、食食品衛生、住居の衛生	廃棄物処理とリサイクル、食中毒、食品安全性確保のための政策（ポジティブリスク、HACCP、食品安全委員会等）、シックハウス症候群について説明できる。
6	公害と環境問題	日本で過去に発生した代表的な公害（水俣病等）、現在、地球規模で問題となっている環境問題（地球温暖化等）についてそれぞれ、原因や健康問題を説明できる。
7	環境管理	モニタリングとサーベイランスの相違、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションについて説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	快適職場環境	快適職場環境づくりに関する法規について理解する
10	環境測定	環境測定（音、照明、粉じん、水質、化学物質等）の実際と評価について理解する。
11	環境による健康影響と保健	禁煙対策の実際や課題について理解する。
12	環境による健康影響と保健	熱中症、難聴について機序や健康管理について理解する。
13	環境に関する健康課題	小テスト、課題に関する文献等を検索し現状について整理する。
14	環境に関する健康課題	課題について考察しレポートを作成する。
15	環境に関する健康課題	レポートの結果を発表し各自の学習を深める。

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	看護教育学				
担当者氏名	道廣 睦子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ◎ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力 				

《授業の概要》

看護教育学とは看護学各領域の教育に共通して存在する普遍的な要素を教育学的視座から研究する学問です。看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援し、それを通して質の高い看護の提供を目指すものです。看護教育制度の歴史的変遷と現在の看護教育制度の現状と課題、学生・身がどのような発達課題を持ち、教育実践や研究から生まれた看護教育学の基盤となる概念を学び、自分自身について考える機会とする。

《授業の到達目標》

①看護職者の教育の成り立ちを体系的に把握し、今後の看護教育の方向性を述べるができる。②看護専門教育の教授＝学習過程を具体的に述べるができる。③看護学教育における臨地実習の位置づけを説明できる。④看護学教育の向上が、看護の質保証に関連していることを説明することができると共に、看護が果たす社会的責任及び社会的貢献について述べるができる。

《成績評価の方法》

積極的・創造的な授業参加及びプレゼンテーション20%、レポートの提出20%、筆記試験60%

《テキスト》

資料配布

《参考図書》

グレッグ美鈴編集：看護教育学、南江堂
藤岡完治編修：看護教育の方法
その他の参考文献は、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

基礎看護学実習Ⅱの体験、特に「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」について前もってまとめて置くこと。（40文字×40行、2枚程度）

《備考》

各時の教育体験・実習体験をフィードバックしながら参加して下さい。
90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護教育学とは何か	関連する用語の理解、看護教育、看護学教育、看護教育学の違い、看護教育学における教育・研究、エビデンスに基づく看護学教育
2	専門職としての看護	専門職とは何か、専門職の特質・基準、専門職の特徴から見た日本の看護、スペシャリスト、ジェネラリスト、実践の学問としての看護学
3	看護教育制度	看護教育制度の歴史的変遷、看護制度の原点とその成立過程、保健師助産師看護師法の成立今日の課題とこれからの看護教育制度
4	看護学教育の基礎	アイデンティティ、クリティカルシンキング、リフレクション、キャリアマネジメント
5	カリキュラム	カリキュラム、カリキュラム開発の意味、カリキュラムデザイン、科目の構成、科目間の関連付け、教授＝学習過程、学習過程の進め方と学習の支援
6	学習理論と学習方法	学びの本質、学習理論、主体的関わり、共同学習、PBL学習
7	臨地実習における教育と学習	グループ学習：基礎看護学実習Ⅱの体験、特に「学生が臨地実習で直面する問題をどう乗り越え、学びに変えていけるか」
8	プレゼンテーション	発表
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 IV群（基礎看護学）》

科目名	看護管理学				
担当者氏名	小林 廣美				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ◎ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護管理は、看護システムをつくり患者に質の高いサービスを提供するしくみや、他部門との協働・連携や、看護を見えるものとして評価されるようにすること等が基礎となっている。保健医療システムの中での看護管理の位置づけ、看護管理関係法規、看護管理の基礎知識、看護管理の実際と看護の責務等について理解することができる。

《テキスト》

看護管理 看護の統合と実践① 医学書院

《参考図書》

看護業務基準集 日本看護協会出版会 私たちの拠りどころ保健師助産師看護師法 日本看護協会出版会

《授業の到達目標》

1. 看護管理とは何か、なぜ学ぶのか、サービスとしての医療について理解できる。2. リーダシップとマネジメントについて理解できる。3. 看護管理と倫理について理解できる。4. 看護の質の保証について理解できる。5. 他部門との協働・連携の必要性について理解できる。6. 専門職としての展望について理解を深めることができる。

《授業時間外学習》

1. 授業計画にそって教科書を読み予習をする。
2. 授業終了後は必ず復習をして理解を深める。

《成績評価の方法》

受講態度、課題達成、筆記試験で行う。

《備考》

看護管理の授業内容が、看護の統合と実践実習につながるように学びを深める。
90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護管理とは何か	1. 看護管理とは何か定義がわかる。 2. マネジメントプロセスが説明できる。 3. 看護におけるマネジメントが説明できる。
2	看護ケアのマネジメント	1. 看護職が協働するための看護ケア提供システムが説明できる。 2. 他職種がわかる。 3. 情報の管理がわかる。 4. 研究の成果の活用がわかる。
3	看護管理のマネジメント	1. ケアのマネジメントがわかる。 2. ケアのマネジメントにおける看護職の機能や役割がわかる。
4	看護サービスのマネジメント	1. 看護サービスのマネジメントの対象がわかる。 2. 組織目標のマネジメントがわかる。 3. 協働のためのマネジメントがわかる。
5	看護サービスのマネジメント	1. 勤務体制について理解できる。 2. 看護職の安全について理解できる。 3. 質の高い看護を提供するための方法について理解できる。
6	看護を取り巻く諸制度	1. 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保促進の法律について理解することができる。
7	マネジメントに必要な知識と技術	1. 組織の原則が理解できる。 2. マネジメントの対象と機能が理解できる。 3. リーダシップとマネジメントについて理解できる。
8	専門職としての展望	専門職の展望について理解を深めることができる。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護援助論（生命危機状態にある人）				
担当者氏名	白神 佐知子、弘中 陽子、廣田 真理				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

急性期は急激な健康状態の変化が起こり、身体的侵襲や心理的動揺が大きい時期である。急性期にある成人期の患者、家族の特徴と課題を中心に、看護の役割を学ぶ。また生命の危機的状況にある患者を理解するための理論を学んでいく。さらに周手術期各期の患者の身体的、心理的、社会的影響や外科看護の特徴について理解し、回復過程への援助を考えていく。

《授業の到達目標》

- (1)急性状態にある患者、家族の特徴と看護が説明できる。
- (2)外科患者とその看護の特徴が説明できる。
- (3)周手術期各期の特徴と必要な援助内容が説明できる。
- (4)主要な手術を受ける患者の看護が理解できる。
- (5)外科的治療を受ける患者の看護過程の展開ができる。

《成績評価の方法》

(1)(2)(3)(4)については試験とレポート提出(提出遅れについては、減点する)(5)についてはレポート提出(提出遅れについては、減点する)とする。評価の割合は試験70%、レポート課題30%とし、100点満点で60点以上を合格とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	急性期看護の特徴 外科患者の病態の基礎	急性期の概念と特徴を理解し、急性状態にある患者と家族の看護の特徴、看護に必要な理論、手術を受ける患者の身体侵襲や生体反応などの病態について学ぶ。
2	周手術期看護の概論 手術期の看護：手術前	外科的治療を受ける患者、家族への看護師の役割、周手術期における安全、感染予防、麻酔法の理解、手術を受ける患者の身体準備、指導、心理的援助内容が説明できる。
3	手術期の看護：手術中 手術期の看護：手術直後	手術室の環境管理や麻酔導入時の看護、手術室における直接助、間接助について、麻酔、手術の影響による循環、呼吸状態のアセスメント、疼痛管理が説明できる。
4	手術期の看護：手術後	手術の侵襲や作用に影響された生体の維持のために行なわれる、体液・栄養管理、輸血療法を学ぶ。術後の回復促進ため、術後合併症の予防への看護が説明できる。
5	手術時看護：手術後演習	外科看護で用いる基本技術について学ぶ。自動輸液ポンプ、シリンジポンプ、ドレーンの管理、創傷処置等
6	集中治療における、化学・放射線療法時の看護	生命の危機的状況にある患者の特徴、集中治療室の環境、集中治療室における看護師の役割が説明できる。術前、術後の補助療法時の管理、ケア、緩和ケアが説明できる。
7	救急時看護と実際	急激に健康破綻をきたした患者の緊急性と原因のアセスメントができ、救急看護の役割が説明できる。また、救命救急に必要な心肺蘇生法の実践が理解でき実践できる。
8	生殖器機能の障害のある患者の看護	子宮全摘術、乳房切除術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
9	循環器、呼吸器機能の障害のある患者の看護	肺切除術、バイパス手術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
10	消化器・排泄機能の障害のある患者の看護	胃全摘、低位前方切除術を受ける患者の周手術期看護の展開を学び、援助方法を理解する。
11	事例による看護過程の展開	胃がん、乳がん、心筋梗塞のある患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
12	事例による看護過程の展開	胃がん、乳がん、心筋梗塞のある患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
13	事例による看護過程の展開	胃がん、乳がん、心筋梗塞のある患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
14	事例による看護過程の展開	胃がん、乳がん、心筋梗塞のある患者の事例をもとに、看護過程のプロセスを学習する。
15	事例による看護過程の展開	発表会とまとめ

《テキスト》

- (1)系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論、矢永勝彦他著、医学書院 2011、
- (2)成人看護学 2,3,5,7(改訂版),9,医学書院

《参考図書》

- (1)『周手術期看護論』雄西智恵美・秋元典子編、ヒロカワ、2010、
- (2)看護観察のキーポイントシリーズ 急性期・周手術期、富田幾枝著、中央法規、2011

《授業時間外学習》

- ・ 毎回授業の復習をし、小テストに備えておくこと
- ・ 次回の授業範囲を予習し、専門用語や疑問点など、調べてノートに整理しておくこと
- ・ 看護過程の演習では、次回の授業までに指定範囲は自己学習してこること

《備考》

成人看護援助論 の学習は、急性期実習に直接反映される内容です。予習、復習に心がけ、知識を深めていくことを望みます。

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護援助論（常態の維持・増進が困難な人）				
担当者氏名	未定、高橋 直美、廣田 真理				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 3-8 終末期にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

慢性的な健康問題をもつ人々を理解するための基礎的な概念や理論を学習し、対象がセルフケア能力を高め、病気と折り合いをつけながら、その人らしい生活が営めるような看護援助の考え方と方法を学ぶ。

《テキスト》

成人看護学 慢性期看護論 ニューヴェルヒロカワ
成人看護学 緩和・ターミナル看護論 ニューヴェルヒロカワ

《参考図書》

適宜紹介する

《授業の到達目標》

1. 慢性的な健康障害をもつ人・家族の身体的、心理的、社会的特徴を説明できる。
2. 慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護援助を具体的に述べるができる。
3. 様々な問題を有する慢性的な健康障害をもつ人・家族への看護を立案できる。

《授業時間外学習》

成人看護学では、解剖学、生理学、病態学、治療学、看護援助論等の知識が必須です。これらの知識は既習していることを前提に授業は進みます。自己学習がととも重要です。

《成績評価の方法》

総合的に評価します。
出席10%、授業への参加20%、課題レポート20%、試験50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	慢性期看護の考え方	ガイダンス、慢性期とは、慢性疾患・治療の特徴、生活習慣病の予防とヘルスプロモーション、慢性的な健康問題をもつ人の治療・療養環境
2	慢性的な健康問題をもつ人の特徴と理解	慢性的な健康問題をもつ人の体験(心理・社会的特徴)、病みの軌跡、慢性的な健康問題がライフサイクルに及ぼす影響
3	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	慢性的な健康問題をもつ人のQOL、慢性的な健康問題をもつ人を支援するための基盤となる理論・諸概念、慢性的な健康問題とともに生きる生活の支援
4	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	セルフケア能力を高めるための教育的支援と看護援助、慢性的な健康問題を持つ人の家族への支援、慢性的な健康問題をもつ人を支える社会資源の活用
5	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	症状マネジメント(IASM)：各症状の機序とあらわれ方、各症状をマネジメントするための看護援助
6	慢性的な健康問題をもつ人への看護援助	症状マネジメント(IASM)：各症状の機序とあらわれ方、各症状をマネジメントするための看護援助
7	ケーススタディ	事例を提示する：演習
8	ケーススタディ	事例を提示する：演習
9	ケーススタディ	事例を提示する：演習
10	ケーススタディ	事例を提示する：演習
11	慢性的な健康問題をもつ人への看護：がん看護	がんとともに生きている人・家族の理解と体験
12	慢性的な健康問題をもつ人への看護：がん看護	がんの主な治療と疼痛コントロール
13	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	ターミナルケア・緩和ケアとは、ターミナル期にある人の特徴と理解：トータルペイン、身体的特徴
14	終末期にある人・家族、遺族への看護援助	死と死にゆくプロセス、家族・遺族への看護援助
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護学実習				
担当者氏名	白神 佐知子、高橋 直美、未定、弘中 陽子、廣田 真理				
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

詳細は成人看護学実習 実習要項参照のこと

《テキスト》

別途

《参考図書》

成人看護援助論 の授業資料
 自己学習資料
 実習内容、実習進度に応じて別途指示

《授業の到達目標》

健康生活の突然の破綻や信州的な治療を体験する成人の対象者・家族の心理・社会的側面を理解し、その状況や変化に応じて援助ができる基本的な知識・技術・態度を養う。

《授業時間外学習》

急性期看護に関連する予習
 看護技術の習得
 疾患の理解

《成績評価の方法》

成人看護学実習 実習要項の評価表（100% 9 に基づいて評価する）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
2	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
3	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
4	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
5	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
6	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
7	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
8	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
9	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
10	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
11	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
12	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
13	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
14	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
15	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	成人看護学実習				
担当者氏名	白神 佐知子、高橋 直美、未定、弘中 陽子、廣田 真理				
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力				

《授業の概要》

詳細は成人看護学実習 実習要項を参照

《テキスト》

別途

《参考図書》

実習内容、実習進度に応じて別途指示

《授業の到達目標》

慢性的な健康問題を持つ成人に対する看護を実践するための基本的な知識・技術・態度を養う

《授業時間外学習》

慢性疾患の理解
成人看護援助の技術
看護理論

《成績評価の方法》

成人看護学実習 実習要項の評価表（100％）に基づいて評価する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
2	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
3	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
4	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
5	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
6	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
7	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
8	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
9	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
10	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
11	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
12	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
13	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
14	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照
15	実習	実習要項（成人看護学実習）を参照

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護援助論				
担当者氏名	瀧本 茂子、大植 崇				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 人間や健康を総合的に捉える能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程について教授する。加齢に伴う身体的・精神的に起こりうる様々な加齢現象について教授し、そのことが生活機能に及ぼす影響、またそれらに必要な援助方法について教授する。

《授業の到達目標》

老年期特有の健康障害について病態・症状・検査・治療過程とともに援助方法を理解できる。
疾患及び加齢変化によって起こる症状が生活機能に及ぼす影響について理解でき、必要な援助方法について考えることができる。

《成績評価の方法》

演習・グループワークでの参加態度やその内容20%
課題提出20%
小テストと筆記試験60%

《テキスト》

「老年看護学 概論と看護の実践」ヌーベルヒロカワ「老年看護技術」ヌーベルヒロカワ「看護過程に沿った対症看護」学研
「生活機能からみた老年看護過程」医学書院

《参考図書》

「系統看護学講座 老年看護学」医学書院
「系統看護学講座 老年看護病態疾病論」医学書院
「看護診断ハンドブック」医学書院
「疾患別/看護ケアのための病態関連図」医学芸術社、
「マンガ教材 B P S D 別認知症ケア」日総研

《授業時間外学習》

課題DVD視聴（口腔ケア）とその内容提出
おむつの体験とその内容提出
演習事前学習と事後評価レポート提出
課題をグループワークにて纏める

《備考》

通常、1週2コマの授業形態（一部変更）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	呼吸機能の変調および閉塞性肺疾患・感染症患者の看護
2	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	循環機能の変調および心不全・脳梗塞患者の看護
3	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	運動機能の変調および骨折の看護、活動・リラクゼーションに関わる看護 骨密度、体組成測定、筋力保持エクササイズに関わる看護
4	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	感覚機能の変調および白内障・難聴・老人性掻痒症患者の看護
5	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	うつ症状・せん妄患者の看護 認知症患者の看護
6	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	認知症患者の看護 褥瘡に対する看護（認定NS）
7	特徴的な症状・疾患を持つ高齢者への看護	リウマチ患者の看護（専門NS）
8	地域高齢者との参加型授業（5/30+1コマ）	健康支援教室の準備
9	6/2：1コマ	健康支援教室
10	看護過程の展開	事例による看護過程の展開：脳梗塞患者の看護 排泄の演習について
11	看護過程の展開 演習：排泄	2グループに分かれて行う。A：看護過程の展開 B：演習：排泄の援助（陰部洗浄・おむつ交換）
12	看護過程の展開 演習：排泄	A：演習：排泄の援助（陰部洗浄・おむつ交換） B：看護過程の展開
13	6/27：1コマ 7/18：1コマ	6/27：誤嚥性肺炎患者の看護：口腔ケア 7/18：看護過程発表、まとめ
14	看護過程の展開 演習：口腔ケア	A：看護過程の展開 B：演習：口腔ケア
15	看護過程の展開 演習：口腔ケア	A：演習：口腔ケア B：看護過程の展開

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学実習				
担当者氏名	瀧本 茂子、大植 崇				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

病院で療養生活を送る老年期にある対象とその家族を総合的に理解し、疾患や機能障害を持つ対象の生活に影響を及ぼす健康上の問題についてアセスメントを行い、対象の生活機能を維持し、拡大していくことを支援するために必要な専門知識・技術・態度を習得する。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる

《参考図書》

適宜提示する

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項（老年看護学実習）参照

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。事例による看護過程演習課題を出します。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 の評価表（100％）に準じて評価する。

《備考》

実習前は事前調査（経験事例・自己の学習課題等）を提出してもらいます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	老年看護学実習	詳細内容や方法等は老年看護学実習要項を参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（成人・老年看護学）》

科目名	老年看護学実習				
担当者氏名	瀧本 茂子、大植 崇				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 2-3 自己分析・自己理解ができ、人間を理解する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

介護老人保健施設又は特別養護老人ホームで生活する高齢者とその家族の健康および健康問題を理解し、その人がより健康的な生活を送ることができるような支援について考えることができる。また、高齢者を取り巻く家庭・病院・様々な介護サービスの中で継続的な支援体制について理解できる。

《テキスト》

老年看護学概論・老年看護援助論で用いたテキストに準ずる

《参考図書》

適宜提示する

《授業の到達目標》

詳細は老年看護学実習要項（老年看護学実習）参照

《授業時間外学習》

老年看護学概論・老年看護援助論での学習内容の復習、学習課題に沿った実習前準備を行う。事例による看護過程演習課題を出します。

《成績評価の方法》

老年看護学実習 の評価表（100％）に準じて評価する。

《備考》

実習前は事前調査（経験事例・自己の学習課題等）を提出してもらいます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		詳細内容や方法等は老年看護学実習要項を参照
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	母性看護援助論				
担当者氏名	秦 久美子、若井 和子				
授業方法	講・演	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

女性のライフステージにおける社会的・身体的・心理的变化について理解でき、アセスメントを行い、適切な援助が出来る能力を養う。周産期における母子に必要な看護援助の原理・原則を理解し、安全に実施するための基礎的技術の習得を目的とする。

《授業の到達目標》

- 1 妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントができる。
- 2 妊婦・産婦・褥婦・新生児および家族を対象とした事例の看護過程を展開することができる。
- 3 妊婦・産婦・褥婦・新生児に必要な看護援助を科学的根拠に基づき、安全に実施できる。

《成績評価の方法》

・定期試験（50％）実技試験（30％）小テスト・レポート；提出遅れは評価しない（20％）として100点満点で60点以上を合格とする。

《テキスト》

- ・ナーシンググラフィカ30母性看護実践の基本 メディカ出版
- ・ナーシンググラフィカ31母性看護技術 メディカ出版
- ・母性看護学各論 医学書院

《参考図書》

- ・『ウエルネスからみた母性看護過程』佐世正勝他 医学書院
- ・『写真でわかる母性看護技術』平澤美恵子他 インターメディア
- ・『新体系看護学33 妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護』新道幸恵他 メヂカルフレンド
- ・母性看護学 大平光子他 南江堂

《授業時間外学習》

- (1) 教科書を読み予習を行なって、講義に臨むこと。
- (2) 講義後は、教科書を読んで復習を行い理解を深めること。
- (3) 授業終了部分から国家試験問題に取り組むこと。
- (4) 沐浴の実技試験は、学内練習、DVD教材を活用し、反復練習して臨むこと。

《備考》

- ・授業中の携帯電話の操作・使用は禁止。
- ・演習は白衣着用で行う、講義開始時間を厳守すること。
- ・15分以上の遅れは遅刻とし、3回遅刻で1回の欠席扱い。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	妊婦のヘルスアセスメント（講義）	妊娠期の身体的・社会的・心理的特性を理解し、妊婦と胎児のヘルスアセスメントを問診・視診・外診・計測診・触診・内診・臨床検査等から抽出し、アセスメントできる。
2	妊婦の観察に必要な看護技術（演習）	妊婦ジャケット着用による妊婦体験・妊婦健康診査（レオポルド触診法・子宮底長・腹囲測定・胎児心音聴取・浮腫の観察）内診時の介助を実施できる。
3	産婦のヘルスアセスメント（講義）	分娩の3要素・経過を理解し、産婦と胎児のアセスメントを行うことができ、分娩～期に応じた産婦・家族の看護を理解し説明できる。
4	産婦の観察に必要な看護技術（演習）	デモストによる産婦の受け入れと分娩介助の見学・胎児心音聴取部位の変化・補助動作・呼吸法・外陰部洗浄・分娩機転・胎盤附属物の観察が理解できる。
5	褥婦のヘルスアセスメント（講義）	産褥期の進行性変化と退行性変化・心理・社会的変化を理解しアセスメントができ、褥婦・家族への看護を理解し説明できる。
6	褥婦の観察に必要な看護技術（演習）	悪露交換・利尿後消毒・外陰部の観察・子宮底の観察・乳房の観察・乳房マッサージ・搾乳・授乳方法・哺乳瓶・乳首の取り扱いができる。
7	新生児のヘルスアセスメント（講義）	新生児の生理・健康状態の観察項目を理解でき、母子相互作用を含めてアセスメントでき、新生児・家族に必要な看護を説明できる。
8	新生児の観察に必要な技術（演習）	新生児の人形を用いて観察・アセスメント・沐浴・抱き方・保育器の取り扱い・光線療法中の看護を実施できる。
9	妊婦・産婦・褥婦・新生児のアセスメント	妊婦・産婦・褥婦・新生児の事例を通してアセスメントを行い、学習した知識を基に、事例の状況を踏まえて看護援助を考えることができる。
10	保健指導（講義・演習）	集団指導・個別指導の意義を学び、対象に適した指導計画立案、教材作成、指導原稿がグループワークにより作成できる。
11	母性看護過程の展開	事前に用意した事例の情報収集・アセスメント・関連図・課題・問題点・計画立案・実施・評価を記録することができ、さらに妊娠～産褥期までを通して要約できる。
12	保健指導（発表）	グループワークの成果をロールプレイングにより発表し、助言し合うことで基本的な保健指導技術を学び、評価までの過程を理解できる。
13	実技試験 1	新生児の観察・アセスメントを行い、安全に沐浴を実施することができる。沐浴実施後、修正部分が理解できる。
14	実技試験 2	新生児の観察・アセスメントを行い、安全に沐浴を実施することができる。沐浴実施後、修正部分が理解できる。
15	学習のまとめ	妊婦・産婦・褥婦・新生児のヘルスアセスメントの要点と、周産期の死の体験について理解できる。母性看護学実習要項・実習記録について説明を受け、理解できる。

《専門教育科目 専門実践科目 群（母性・小児看護学）》

科目名	母性看護学実習				
担当者氏名	若井 和子、秦 久美子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

妊娠・分娩・産褥各期の経過と新生児の特徴を理解し、実習を通して対象の健康回復への看護および、より健康な生活に向けて家族を含めた援助を実践するための基礎的能力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

妊娠・分娩・産褥各期の経過および新生児の生理的特徴や変化を理解することができる。対象の健康状態に応じた看護・保健指導を考えることができる。対象を取り巻く育児環境を理解し、支援の必要性を学ぶことができる。周産期の看護を通して倫理上の諸問題を考えることができる。周産期医療チームとしての看護の役割を学ぶことができる。

《成績評価の方法》

母性看護学実習の評価表に基づいて評価する（100%）。

《テキスト》

『ナースンググラフィカ30 母性看護実践の基本』メヂカ出版
 『ナースンググラフィカ31 母性看護技術』メヂカ出版 『系統看護学講座専門分野 母性看護学概論』医学書院

《参考図書》

『新看護観察のキホーントリズ 母性・母性』中央法規 『写真でわかる母性看護技術』平澤美恵子他 インターメディ 『ウエルネスからみた母性看護過程』佐世正勝他 医学書院 『母性看護学2 産褥・新生児』今津ひとみ他 医歯薬出版

《授業時間外学習》

産褥期の退行性変化，進行性変化については，テキストと実際の比較を必ず行うこと。講義で学んだことを実際と結び付けてアセスメントすることが理解を深めることにつながる。講義終了後に取り組んだ国家試験問題を，実習中に取り組みこと。

《備考》

母性看護学実習要項を熟読して実習に臨むこと。入学後、麻疹・風疹・水痘・ムンプスワクチン要接種の指導を受けたにもかかわらず未接種の場合は、実習できない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地における看護実践	対象を理解するために必要な情報を抽出・ウエルネスの視点でアセスメントし、看護（保健指導）計画を立案することができる。看護計画に沿って実践・評価できる。
2	臨地における看護実践	2人目の対象を受持ち，1週目に準じた看護の実践を行うことができる。
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（母性・小児看護学）》

科目名	小児看護学実習				
担当者氏名	小島 賢子、渋谷 洋子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-6 急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力				

《授業の概要》

小児看護学実習は、小児各期の特徴を理解し、健康のレベルや成長・発達段階に応じた看護を実践することを目的とする。小児看護学概論と小児看護援助論で学んだ知識を統合して活用し、小児と家族がもっている力が最大限発揮できるよう看護するための基礎的能力を習得するための実習である。小児病棟と幼稚園で実習を行う。

《テキスト》

小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院
 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
 小児看護技術 南江堂

《参考図書》

既習学習で活用した図書

《授業の到達目標》

小児病棟の実習では、小児各期の成長・発達の特徴や生活と、健康障害を関連してとらえ、個々の特性に応じた援助の必要性を判断する。小児の健康障害を理解し、適切な援助を行うことなどを目標とする。幼稚園の実習では、子どもの各期の成長・発達を理解する。子どもとの望ましい関わり方を学び、実践することなどを目標とする。詳細は実習要項で確認する。

《授業時間外学習》

既習学習の復習、実習に関する事前学習、事前の技術の確認や演習が必須となる。

《成績評価の方法》

小児看護学実習要項に記載している、評価表をもとに、学生と教員の面談によって評価する。

《備考》

子どものもっているパワーを感じ、出会えることを楽しんでください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		小児看護学実習要項で詳細を説明します。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	精神看護援助論				
担当者氏名	加藤 知可子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 3-7 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力				

《授業の概要》

全体の授業計画に示す通りである。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）「精神看護学 精神臨床看護学」第5版川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学 学生一患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）「オレムのセルフケアモデル事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）「プロセスレコードを通して学ぶ 臨地実習ケーススタディ」吉田哲（看護の科学社）

《授業の到達目標》

患者－看護師関係の形成に必要なコミュニケーションを説明できる。自己を洞察する方法を説明できる。精神の健康に障がいや問題を持つ人の援助方法について、その理論と具体的な援助を説明できる。事例を基に、ノードに沿った看護計画の展開方法を説明できる。

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回の講義内容について、テキストを読んでおく。(2)復習の方法：講義内容を再確認し、不明な点は自分で資料や図書を用いて調べたり、質問する。精神看護援助論に関する図書・資料を読み、学問的な視野を広げる。

《成績評価の方法》

特別な理由がない場合の大幅な遅刻は、出席として扱わない。定期試験70%、平常評価30%（小テスト、レポート、出席状況、受講態度）により総合的に判断する。

《備考》

受講者の興味関心、受講者数、講義の進行状況などにより、授業計画や成績評価法には変更を加えることがある。授業中の進行や周囲の迷惑となる行為は、減点の上、退席を求める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	患者－看護師関係	患者－看護師関係の発展過程を説明できる。
2	自己への振り返りプロセスレコード	自己への振り返りの方法について（プロセスレコード等）説明できる。
3	コミュニケーション技術	コミュニケーションの技術について、説明できる。
4	精神疾患の理解	精神疾患について説明できる。
5	精神障がいの回復過程	精神障がいの回復過程を説明できる。
6	日常生活援助	精神を病む人への日常生活援助を具体的に説明できる。
7	行動制限と看護	行動制限について、法と人権の擁護、看護の視点から何が必要なかを説明できる。保護室使用時の看護についての基本や注意事項、法との関連を説明できる。
8	薬物療法を受ける人への看護	検査を受ける人及び薬物治療を受ける人への看護について何が必要かを具体的に説明できる。
9	SSTと心理教育	SSTと心理教育について基本的な概念と役割、応用について説明できる。
10	看護過程を展開するための理論	看護過程を展開するための理論の基本的な概念を説明できる。
11	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
12	事例展開：看護過程による事例展開	事例を基に看護過程の展開を行う。
13	家族支援	精神障がい者の家族支援について、家族のQOLを保持・増進できる具体的な援助を説明できる。
14	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源	患者と家族を取り巻く地域精神医療資源やその活用について説明できる。
15	総括・小テスト	これまでの学習内容を再確認し、精神看護学に関する援助方法を具体的に説明できる。

《専門教育科目 専門実践科目 群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	精神看護学実習				
担当者氏名	加藤 知可子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力				

《授業の概要》

詳細は精神看護学実習要項を参照する。

《テキスト》

「精神看護学 精神保健学」第5版 吉松和哉他 編（ヌーヴェルヒロカワ）
 「精神看護学 精神臨床看護学」第5版川野雅資 編（ヌーヴェルヒロカワ）

《参考図書》

「精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開」田中美恵子（医歯薬出版株式会社）
 「オレムのセルフケアモデル 事例を用いた看護過程の展開第2版」宇佐美しおり（ヌーヴェルヒロカワ）

《授業の到達目標》

精神障がい者とその家族を理解し、日常生活の自立に向けて、精神障がい者の個別性に応じた看護を実践できる基礎的な能力を身につける。心を病む人々を支える看護活動および関連する社会資源の活用、チーム連携について学ぶ。

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：精神看護学実習に関する図書・資料を読み、事前学習しておく。(2) 復習の方法：提出が必要な課題・記録物を作成し、指導を受け、修正・追加をしていく。

《成績評価の方法》

精神看護学実習の評価表に基づいて評価を行なう。

《備考》

(1) 臨地実習要綱や精神看護学実習要項をよく読んでおく。(2) 事前学習・演習をしっかり行って実習に臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		内容の詳細は精神看護学実習要項で提示する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	在宅看護援助論				
担当者氏名	新田 幸子、東 久子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-2 看護の対象となる人々と援助関係を形成する能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力				

《授業の概要》

在宅看護概論の学習内容を想起し、療養者とその家族に必要な知識・技術・マナーについて学習します。治療最優先の療養から生活上の工夫を優先しQOLの高い日常生活が送れるよう総合的に学習します。看護を実践するために科学的根拠に基づいた基礎的能力を身につけます。さまざまな事例を通して生活支援の方法と技術、在宅で医療管理を必要とする人とその看護を関連づけながら在宅看護の実際を理解することができます。

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2012

《参考図書》

在宅看護論「地域療養を支えるケア」櫻井尚子 渡部月子 臺有桂 ナーシング・グラフィカ21 2013

《授業の到達目標》

病棟看護師と訪問看護師の密な連携活動（退院調整を含む）を知り、一貫した継続ケアの必要性が説明できる。病院の病床と在宅という「場」の違いを理解し、看護技術の応用による援助の方法を工夫することができる。独居療養者やターミナル期を迎えている療養者、老々介護の問題など事例を通して、訪問看護の実際を理解することができる。

《授業時間外学習》

難病をもつ生活者や、介護をしている生活者などの手記を読んで、理解を深めること。自身や友人の祖父や祖母の姿をイメージし生活の場で介護に必要な用品は何かを考えておくこと。また、訪問看護師は何を援助しているかなど興味・関心をよせ看護に対する考えを深めておくこと。

《成績評価の方法》

定期試験（70%）課題等の提出（提出遅れについては、減点する）生活の場で必要な介護用品の作成(30%)

《備考》

在宅看護は療養場面をイメージしにくいDVDや事例の写真をあげて視覚的に在宅療養やケアをイメージできるように授業内容の工夫しています。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	在宅で求められる技術の応用 環境・清潔・衣	在宅看護概論で学んだ学習内容を想起する。基礎看護技術から在宅看護技術へと発展できる内容とし、在宅の「生活援助技術の基本」すなわち基礎にはないその独自性を学ぶ
2	在宅介護用品の紹介	課題提出：看護学生の手作り介護用品の紹介 家庭内にあるもので自助具や介護用品を作成
3	食生活・嚥下に関する在宅看護技術	在宅における食事摂取能力のアセスメントと援助の技術を学ぶ。脳血管疾患などで摂食・嚥下困難な療養者の経管栄養・胃瘻・在宅中心静脈栄養法などを理解する
4	排泄に関する在宅看護技術	在宅における排泄状態のアセスメントと援助の技術を学ぶ。療養者、介護者双方の心理面に配慮し、排泄に関する考え方を尊重し排泄に対する援助方法を理解する
5	移動・移乗に関する在宅看護技術	在宅における日常生活動作（ADL）のアセスメントと移動援助の技術を学ぶ。療養者をイメージしながら移動時に障害となるものの安全確保、補助用具などを理解する
6	呼吸機能に関する在宅看護技術	在宅における呼吸のアセスメントと援助技術を学ぶ。呼吸理学療法では、排たん法、スクイージング、人工呼吸法と在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法などを理解する
7	認知機能のアセスメント法と援助技術	認知症とは... アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症 レビー小体病 ピック病 パーキンソン病 自然な衰えによる「物忘れ」と病的な認知症の違いなど理解する
8	在宅における終末期看護	在宅における終末期看護と関連して、訪問看護師による家族への「みとり教育」の重要性や遺族訪問について理解する
9	独居の療養者の事例展開	独居で高齢という状況下にあっても365日24時間、安心して住み慣れたわが家で過ごしたい療養者の希望をかなえるための社会資源の活用と看看連携について理解する
10	終末期（がん）の療養者の事例展開	病棟・訪問看護師との看看連携の重要性 医療保険と介護保険 疼痛管理における訪問看護師の役割（薬剤の処方医師の指示であるため医師との連携は重要）について学ぶ
11	経管栄養 中心静脈栄養法	経管栄養とは... 経管栄養の合併症、中心静脈栄養法を事例をあげてイメージしながら家族指導や在宅で起こりやすいトラブルなどを理解する
12	在宅における褥瘡ケア 尿道留置カテーテル	褥瘡管理の基礎を復讐する。視覚教材に示す褥瘡ケアを通して、在宅では、家族や介護者への支援と医療・福祉サービスとの連携の必要性を理解する
13	人工肛門・人工膀胱	在宅看護技術と関連して、医療依存度の高いストーマの療養者の観察、日常生活の工夫について理解する。実際のストーマを用いて装着を理解する
14	在宅酸素療法 慢性閉塞性肺疾患	医療依存度の高い慢性閉塞性肺疾患療養者の定義、既存知識の復讐。慢性閉塞性肺疾患在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法を通して、退院後の社会資源を理解する
15	在宅人工呼吸法	慢性閉塞性肺疾患に関連した、在宅酸素療法、非侵襲的陽圧換気療法を通して、日常生活の工夫や24時間ケアする家族の介護負担の軽減などについて理解する

《専門教育科目 専門実践科目 群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	地域看護活動論				
担当者氏名	久井 志保、藤本 優子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

地域で生活する個人、家族、集団全てを対象とし、地域の特性やあらゆる健康状態に応じた健康の保持・増進や疾病発生及び悪化を予防するための基礎的な看護活動の方法と実際を学ぶ。地域看護における保健師の役割とその責務を学習する。

《テキスト》

標準保健師講座 2 「地域看護学技術」
標準保健師講座 3 「地域看護活動論」

《参考図書》

国民衛生の動向（厚生統計協会）
その他、教員が講義中に指示する。

《授業の到達目標》

地域保健活動の対象の特性を理解する。
地域保健で用いられる活動方法や技術について理解する。

《授業時間外学習》

個人やグループで実施する課題を期限内に実施して提出する。

《成績評価の方法》

筆記試験（70%）
出席態度等（15%）
小テスト・レポート等提出物（15%）
で総合評価する。

《備考》

演習の進捗等により、日程の変更が生ずることがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域看護活動の概要	地域における保健師活動の概要について理解する。 保健指導の概念と方法について理解する。
2	母子保健	母子保健の動向、母子保健活動について理解する。
3	母子保健（健康診査）	健康診査の目的を理解し、母子健康診査の実践に必要な技術について理解する。
4	成人保健 / 健康診査（特定保健指導）	成人保健の動向、及び健康課題と保健指導について理解する。 健康診断の目的を理解し、特定保健指導の実践に必要な技術について理解する。
5	健康増進活動、歯科保健、介護予防活動	健康増進活動、歯科保健、介護予防活動の実際について理解する。
6	地域健康管理、	地域健康管理の実際について、危機管理・感染症対策・災害保健・地域精神保健の実際から理解する。
7	地域診断・地区診断	地域診断の目的、方法について、モデルを通して理解する。
8	地域診断・地区診断演習	地域診断の演習を通して方法を理解する。
9	地域診断・地区診断演習	地域診断の演習を通して方法を理解する。
10	家庭訪問	家庭訪問による援助方法について理解する。
11	家庭訪問演習	演習を通して家庭訪問計画の作成、実施上の留意事項について理解する。 * 服装は指示に従う
12	地域保健活動の実際（行政における保健師活動）	場による保健師の活動の多様性について理解する。 自治体で行われる保健師活動の実際について理解する。（ゲストスピーカー予定）
13	家庭訪問の演習	健康教育の目的、方法について理解する。
14	健康教育の演習	健康教育の演習を通して健康教育案を作成する。
15	健康教育の演習・まとめ	健康教育の発表を行い、プレゼンテーションの実際を学ぶ。 全体のまとめ

科目名	産業保健論				
担当者氏名	久井 志保				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 ◎ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力			

《授業の概要》

労働と健康が密接にかかわっていること、事業場で行われている安全衛生管理体制について理解する。働く人の健康に関する現状やそれらに対して産業保健専門職がどのように産業保健活動を実施しているかを理解する。

《テキスト》

河野啓子著『産業保健・産業看護論』日本看護協会出版会. 2008

《参考図書》

労働衛生のしおり（中央労働災害防止協会）
産業保健マニュアル改訂5版（南山堂）

《授業の到達目標》

- 1 労働に関する現状と課題について考えることができる
- 2 事業場で行われている安全衛生管理体制について理解する
- 3 働く人の健康課題に対して、産業保健専門職が連携して産業保健活動を実施していることを理解する
- 4 将来、自分自身が労働者となった時に知っておくべき最低限の法規について理解する

《授業時間外学習》

事前に示された課題レポートを計画的に実施して期限までに提出すること。

《成績評価の方法》

課題レポート（30%）期限までに提出しない場合は減点する
テスト（70%）

《備考》

8週の授業計画です。
(90分×7.5回分の授業時間となります。)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	産業保健の目的	産業保健の目的や歴史について理解する
2	産業保健の対象者の理解	産業保健の対象者の特徴について理解する
3	労働衛生の5分野	労働安全衛生管理体制、作業管理、作業環境管理について理解する
4	産業保健活動の実際	産業保健における健康管理システムについて理解する
5	産業保健の現状	女性労働者の健康管理について理解する
6	産業保健の現状	過重労働対策について理解する
7	産業保健の現状	産業保健における健康相談、保健指導、健康教育の特徴について理解する
8	産業保健の課題	ワーク・ライフ・バランスについて理解する
9	予備日	予備日
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究（基礎編）				
担当者氏名	道廣睦子、大植崇、加藤知可子、若井和子、新田幸子、小林廣美、瀧本茂子、白神佐知子、小島賢子、久井志保、秦久美子、森崎由佳、高橋直美、弘中陽子、柴田順子、星智子、未定、渋谷洋子、東久子、藤本優子、廣田真理、明石智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護者には、研究や実践を通して専門的知識・技術の創造と開発につとめ、看護学の発展に寄与する責務がある。常に探求的視点を持って看護を思考することが重要である。過去の看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問・未解明な部分に対して、個人またはグループで研究課題を設定し、担当教員から指導・助言を受けながら研究を行うための基本的知識と方法論を修得する。

《授業の到達目標》

看護学の研究とは何か、その目的や理論との関係、看護実践への応用について理解できる。
 研究目的の明確化とそのために不可欠な文献検索・文献検討について理解できる。
 看護研究における倫理的配慮(研究対象者の権利擁護)について理解できる。
 研究計画書が作成できる。

《成績評価の方法》

筆記試験（60%）、提出物（20%）、講義に対する積極的な態度（20%）で評価をする。

《テキスト》

黒田裕子：「黒田裕子の 看護研究 step by step」 第4版 医学書院

《参考図書》

南 裕子：「看護における研究」日本看護協会出版会
 対馬 栄輝：「SPSSで学ぶ医療系データ解析 分析内容の理解と手順解説、バランスのとれた医療統計入門」東京図書
 Polit D.F&Hungler B.P.：Principles and Methods 近藤潤子監訳：「看護研究第2版 - 原理と方法」医学書院

《授業時間外学習》

基礎ゼミで習得した、「文献検索」の講義を復習し、自らのテーマを見つけるため図書館等を利用し、学術論文等を読むこと。学生の主体性（問題意識、関心、やる気、持ち味）を尊重するので、研究のプロセスを丁寧に学習すること。基礎看護学実習の経験や各援助論を学習し、自らの研究テーマを見つけること。

《備考》

研究計画書を提出後、研究を引き続いて実施すること。看護研究の履修届けは4年生 期に提出する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究の概要と倫理	オリエンテーション 看護における研究の必要性と意義 研究における倫理的配慮について
2	看護研究の概観	研究の構成要素とプロセス、研究課題と概念枠組み、研究データの収集、研究データの分析
3	文献検討 理論と概念	文献検討・文献のクリティーク 理論と概念分析
4	研究方法 研究デザイン	実験研究・事例研究・実態調査など
5	研究方法 データ収集	質問紙調査法・観察法・面接法など
6	研究方法 データ分析	質的データ分析：KJ法・グラウンデッドセオリーなど
7	研究方法 データ分析	量的データ分析：代表値・t検定・2検定・1要因分散分析など
8	研究方法 データ分析	量的データ分析：2要因分散分析・相関分析・回帰分析など
9	研究計画書の作成について	研究疑問から研究課題を明確にし、研究計画書作成までのプロセス
10	研究論文のまとめ方について	研究結果をまとめて、論文執筆までのプロセス
11	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
12	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
13	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
14	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導
15	研究計画書作成	各領域にグループ分けをして、研究計画書の指導

《専門教育科目 統合科目 VIII群（看護の統合と実践）》

科目名	リスクマネジメント論				
担当者氏名	山田 鈴子				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 ○ 1-2 実施する看護について説明し同意を得る能力 ○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 				

《授業の概要》

過去の報道された事故事例分析や、グループワーク、ゲームによる疑似体験から医療事故のメカニズム・ヒューマンエラー（人の信頼性）・安全文化とは何かを考えてみる。そして、わが国の取組み経緯、K病院の事故防止対策などを参考に医療安全とセーフティマネジメントの考え方を学習する。

《授業の到達目標》

医療事故防止の基本理念を説明できる。
安全で良質な医療を提供するための看護師の責任や必要な態度、知識、技術が説明できる。
危険予知訓練の方法を理解し、その準備や訓練を実施することができる。

《成績評価の方法》

筆記試験（100%）

《テキスト》

『医療安全とリスクマネジメント』 嶋森良子・和子編集, 2008. 10. 1ニューベルヒロカワ発行
その他

《参考図書》

- ・別冊『看護教育』「安全管理」の授業看護事故防止を中心に, 看護教育編集室編集, 医学書院
- ・看護管理基本資料集
- ・看護管理学習テキスト第3巻 看護マネジメント論

《授業時間外学習》

次回の授業までに指示した内容の予習
グループワークの目的が時間内に達成できなかった場合は、放課後グループメンバーで話し合い、次回までに目標を達成しておく。

《備考》

- ・授業内容は医療の質、患者の生命にかかわる重要な内容であることを理解し、ふさわしい受講態度や私語は慎む。
- ・K病院の医療安全管理者の講義がある（5～8週目）
- ・90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	医療事故とは	ヒューマンエラー「To err is human」を体験、理解する
2	医療事故は何故おこる	医療事故のメカニズムと人間工学的対策、過去の事故事例から、防止対策の重要性を知る
3	医療事故を防止するには1	発生した事故の分析方法、SHELモデル
4	医療事故を防止するには2 医療事故の判例	事故の分析、看護業務と医療事故の関係 医療事故と看護の法的責任、
5	K病院の医療安全とリスク マネジメントの実際	コミュニケーションについて（グループワーク） ケース・スタディ～起こりやすい医療事故とその対策～
6	K病院の医療安全とリスク マネジメントの実際	ケース・スタディ～起こりやすい医療事故とその対策～ 事故防止の実際例を通して
7	グループワーク	リスクセンストレーニング
8	テスト60分 学習のまとめ	授業の振り返り 用語の確認、事故防止のための知識、技術、態度
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護の統合と実践実習				
担当者氏名	道廣睦子、加藤知可子、若井和子、新田幸子、小林廣美、瀧本茂子、白神佐知子、小島賢子、久井志保、秦久美子、森崎由佳、高橋直美、大植崇、弘中陽子、星智子、未定、渋谷洋子、東久子、藤本優子、廣田真理、明石智子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 3-4 看護援助技術を適切に実施する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

保健医療専門職のチームの一員としての責任を自覚し、倫理観に基づく総合的かつ継続的な看護実践能力を養うことができる。

《テキスト》

既習科目で使用した全てのテキストと参考書 看護管理 看護の統合と実践

《参考図書》

必要時その都度提示する。

《授業の到達目標》

1. 複数の患者を受け持ち、必要なケアを提供する実践能力を養うことができる。
2. 看護チームにおける役割遂行、フォローシップのあり方について学ぶことができる。
3. 患者の生活を支えるために継続的に提供される看護を学ぶことができる。
4. 他職種との連携・協働を通して保健医療専門職チームの統合的ケア提供のあり方と看護職の役割について学ぶことができる。
5. マネージメント活動や管理者の役割を理解できる。

《授業時間外学習》

1. 事前に看護管理(看護の統合と実践実習)の講義内容を復習しておくこと。
2. 実習中には既習の学習内容を活用し、複数の患者の問題解決にむけて看護展開ができるようにする。
3. 看護実践能力を養うための予習・復習をしっかりとすること。

《成績評価の方法》

実習指導要項の実習評価に基づいて評価する。 1. 目標達成度 70点 2. 実習態度 10点 3. 最終レポート 20点

《備考》

実習目的・目標を十分把握して実習に臨むこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	内容の詳細は実習指導要項に提示する。	
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 関連科目 群（関連）》

科目名	学校保健活動論				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

地域看護学及関連する既習科目をもとに学校保健対象者の理解を深め、学校保健の果たす役割を理解し専門職としての実践能力を習得することを目的とする。そのために、学校保健分野で必要な情報収集・処理能力・情報発信能力、看護能力、カウンセリング能力、教育力・指導力、企画力・実行力、連携能力・調整能力、研究能力を学ぶ。

《授業の到達目標》

学校保健分野の対象者の特性が理解できる。
 学校保健分野での対象者のニーズに対応ができる。
 学校保健における養護教諭の専門性を述べることができる。
 学校保健分野で必要な情報収集・処理能力・情報発信能力、看護能力、カウンセリング能力、教育力・指導力、企画力・実行力、連携能力・調整能力、研究能力を習得できる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート課題、演習等の提出物50%
- (2) 定期試50% (テキスト、資料等は持ち込み不可)

《テキスト》

『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監, 東山書房, 2011 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編, 第一法規, 2011 『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』

《参考図書》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編, 東山書房, 2011 『国民衛生の動向』厚生統計協会, 2011 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編, 2010 『養護概説』杉浦守邦監, 東山書房, 2011 『学校救急処置マニュアル』杉浦守邦, 東山書房, 1998

《授業時間外学習》

学校保健に近接する領域の復習と領域実習では看護技術の向上に努めてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健計画の必要性	学校の理念、教育目標を踏まえ、当該年度の学校保健目標を基に年間計画を立案することは、教育基本法による「心身ともに健康な国民」の育成のためことが理解できる。
2	学校保健関係職員及び関係者の任務の理解	学校保健運営に必要な関係者の役割を理解することは、学校保健活動を円滑に行うために重要であることが理解できる。
3	1. 養護教諭の職務・学校保健計画立案・準備	学校保健計画立案のためには学内外の必要な情報を収集と処理そして企画・実行の威力及び連携能力・調整能力が必要であることが理解できる。
4	2. 養護教諭の職務(1)健康診断の立案	学校保健で健康管理の視点で「人」「物」「金」を統合的にも活用し、適切で迅速な健康診断の実践が、教育カリキュラムとの関連から重要であることが理解できる。
5	(2)健康診断の実施	学校教職員の全面的協力により実施するため、適材適所の人配配置により、適切なフローチャートでスムーズな運営ができることが理解できる。
6	(3)健康診断の事後指導	健康管理の上で健康診断後の適切な事後指導を行うことは、対象者の健康の保持増進を図るためことが、教育の場を保証する学校の役割であることが理解できる。
7	3. 養護教諭の職務・保健室経営	保健室経営とは、対象者の健康の保持増進を図ることを目的として養護教諭の専門性を十分に生かしながら、保健室の機能を計画的に推進することであることが理解できる。
8	4. 養護教諭の職務・健康相談	学校保健の保健管理のうち対人管理の中の心身の管理に位置付けられており、学校の教育目標を受け学校保健計画のもとに具体的対応に対応できる知識・技術・態度を学ぶ。
9	5. 養護教諭の職務・健康教育	学校保健計画に基づき、年間、月間、日々の健康教育を行う。実践活動として「保健だより」の必要性を学び、情報発信能力を習得する。
10	6. 養護教諭の職務・保健教育の背景	年間授業計画においてカリキュラムの中で保健教育の中で「保健」の科目で授業案が作成するために必要な学習指導要領を学ぶ。
11	・保健教育の授業案の作成	テキストから実際の「保健」の授業案をを引用し、保健教育作成の視点について学ぶ。
12	7. 養護教諭の職務・応急処置	既習の看護学講義、実習から学んだ技術を、学校における応急処置のための看護能力を説明できる。
13	8. 養護教諭の職務・特別教育活動	特別教育活動として薬物・飲酒・喫煙・性感染症の現代的健康課題も背景とそ対応に必要な知識を学ぶ。
14	障害や慢性疾患を持ち対象者の健康管理	障害の程度、慢性疾患に対するアセスメント能力を有し、既習看護学の履修を踏まえ適切に対応できる能力の習得する。
15	学校保健活動と社会資源	地域にある学校であることを念頭に、地域者樹、関係機関および関係者との連携の必要性が理解できる。

《専門教育科目 関連科目 群（関連）》

科目名	学校保健演習				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-2 健康レベルを成長発達に応じて査定する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力				

《授業の概要》

既習の看護学や養護に関する専門科目を基に、学校保健を推進するための知識技術態度を習得する。学校保健安全法による学校保健計画、健康診断、健康相談、保健指導、事後措置、地域の関係機関との連携などの具体的活動について養護教諭の専門的技術に関する技術を演習のより習得する。その他に、応急処置、学校環境衛生管理のための簡易検査も実習する。

《授業の到達目標》

学校保健分野の対象者の特性が説明できる。
 学校保健分野での対象者のニーズに対応ができる。
 学校保健における養護教諭の専門性を述べるができる。
 学校保健分野で必要な知識・技術・態度が実践できる。

《テキスト》

『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編,第一法規,2011
 『教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応』
 『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監,東山書房,2011

《参考図書》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編,東山書房,2011
 『国民衛生の動向』厚生統計協会,2011
 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編,2010
 『新版養護教諭執務の手引』植田誠治他監,東山書房,2011
 『学校における応急処置マニュアル』出雲市学校保健会編,2008

《授業時間外学習》

演習が主体ですので、知識・技術・態度を学校保健関連既習の科目履修結果から学びを深めてください。

《成績評価の方法》

レポート課題20%、演習等の提出物20%、授業案作成20%、保健だより作成20%、プレゼンテーション20%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	学校保健に必要な専門技術	情報集の重要性を学ぶため保健調査と健康観察の視点を実際の用紙を用いて演習する。
2	学校保健計画作成	テキストからの学校保健計画を引用し、学校保健活動論の学びを踏まえ学校保健計画を作成する。
3	健康診断実施に必要な計画案作成：健診項目	養護教諭の主な職務であることを踏まえ、対象によって異なる健診項目の確認を行い、学内外人的活用と学内の施設を活用しての具体的健康診断計画を作成する。
4	健康診断の事後指導の必要な事後措置：身体	対象者の健康の保持増進の目的のためは健康診断後の事後指導の重要性であることから、事後指導が必要な対象者に身体面での適切な保健指導の知識・技術を習得する。
5	健康診断の事後指導の必要な事後措置：精神	対象者の健康の保持増進の目的のためは健康診断後の事後指導の重要性であることから、事後指導が必要な対象者に精神面での適切な保健指導の知識・技術を習得する。
6	健康診断の事後指導の必要な事後措置：健康教育	対象者の健康の保持増進の目的のためは健康診断後の事後指導の重要性であることから、事後指導の必要な対象者に健康教育を実施する必要性が理解できる。
7	健康診断の事後指導の必要な事後措置：健康教育	前述の技術の一つとして「歯の健康」の保健だよりを作成する。
8	学校保健に必要な専門技術	内科的訴えのある事例から、適切な応急処置の技術を演習により習得する。
9	学校保健に必要な専門技術	内科的訴えのある事例から、適切な応急処置の技術を演習により習得する。
10	学校保健に必要な専門技術	精神的訴えのある事例から、適切なメンタルサポートの技術を演習により習得する。
11	学校保健に必要な専門技術	1. 養護実習では保健学習として「保健」の授業を担当するため、小学校、中学校、高等学校の3グループで「男女の体の違い」に関する指導案を作成する。
12	学校保健に必要な専門技術	2. 養護実習では保健学習として「保健」の授業を担当するため、小学校、中学校、高等学校の3グループで「男女の体の違い」に関する指導案を作成する。
13	学校保健に必要な専門技術	3. 養護実習では保健学習として「保健」の授業を担当するため、小学校、中学校、高等学校の3グループで「男女の体の違い」に関する指導案を発表する。
14	特別支援学校に必要な専門技術	学校保健の見地から特別支援学校に必要な養護教諭の専門性についてグループ討議により深める。
15	学校環境安全管理の実践	学校保健の安全保持の見地から校内巡視を行い、併せて照度検査、空気検査、騒音検査、水質検査を適宜行い環境安全について理解を深める。

平成 22 (2010) 年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年	2年	3年	4年			
専 門 基 礎 科 目	社会 群 （健康 支援と 保障制 度）	社会福祉論	講義	2				2						
		家族関係論	講義	2					2					
		精神保健	講義	2					2					
		環境衛生学	講義	2							2			
		保健福祉行政論	講義	2							2			
		公衆衛生学（疫学含）	講義	2							2			
		保健統計学	講義	2						2				
	構造 群 （人体 の機能）	基礎生物学	講義	2				2						
		形態機能論	講義	4				4						
		生化学	講義	2				2						
		栄養学（食品学を含む）	講義	2				2						
		薬理学	講義	2					2					
		免疫・微生物学	講義	2				2						
	成 立 群 （疾 病の 促進 及び 回復）	臨床病理病態学（内科系）	講義	4						4				
		臨床病理病態学（外科系）	講義	2						2				
		臨床病理病態学（周産期・小児科系）	講義	2						2				
	専 門 教 育 科 目	群 （基 礎 看 護 学）	看護学概論	講義	2				2					
			看護理論	講義	1					1				
			ヘルスアセスメント	講演	1					2				
			看護技術論（生活技術援助）	講演	2						4			
			看護技術論（診療技術援助）	講演	2							4		
基礎看護学実習			実習	1					3					
基礎看護学実習			実習	2							6			
看護教育学			講義	1								1		
看護管理学		講義	1								1			
群 （成 人・ 老 年 看 護 学）		成人看護学概論	講義	2						2				
		成人看護援助論（生命危機状態にある人）	演習	2							4			
		成人看護援助論（常態の維持・増進が困難な人）	演習	2							4			
		成人看護学実習	実習	3								9		
		成人看護学実習	実習	3								9		
	老年看護学概論	講義	2						2					
	老年看護援助論	演習	2							4				
	老年看護学実習	実習	2								6			
老年看護学実習	実習	2								6				
小 児 群 （母 性・ 小 児 看 護 学）	母性看護学概論	講義	2						2					
	母性看護援助論	講演	2							4				
	母性看護学実習	実習	2								6			
	小児看護学概論	講義	2					2						
	小児看護援助論	講演	2						4					
小児看護学実習	実習	2								6				

カリキュラム年次配当表

看護学科 平成22年度（2010年度）入学者対象

（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ				
			必修	選択				1年	2年	3年	4年						
専門 教育 科目	専門実践科目 群（精神・在宅・地域看護学）	精神看護学概論	講義	2						2							
		精神看護援助論	講義	2							2						
		精神看護学実習	実習	2								6					
		在宅看護概論	講義	2							2						
		在宅看護援助論	講義	2								2					
		在宅看護実習	実習	2									6	新田 幸子・東 久子	184		
		地域看護学概論	講義	2								2					
		地域看護活動論	演習	2									4				
		産業保健論	講義	1									1				
		学校保健概論	講義	1								1					
		国際看護学	講義	1										1	新田 幸子	185	
		災害看護学	講義	1											1	弘中 陽子	186
		地域看護学実習	実習	3											9	久井 志保・藤本 優子	187
		総合科目	統合と実践の 群（看護の 実践）	看護研究（基礎編）	演習	2							2				
看護研究（応用編）	演習			2									2	*1	188～189		
リスクマネジメント論	講義				1								1				
看護の統合と実践実習	実習			2									6				
関連科目	群（関連）	学校保健活動論	講義		2							2					
		学校保健演習	演習		2								2				
		養護概説	講義		2							2					
		健康相談活動の理論と実践	講義		2								2	（大平 曜子）	190		
基礎科目	群（基礎）	基礎ゼミ	演習	2									2				

は看護師国家試験受験資格必修科目、 は保健師国家試験受験資格必修科目、 は養護教諭免許必修科目

*1 道廣・加藤・若井・新田・小林・瀧本・白神・小島・久井・秦・森崎・高橋・大植・弘中・柴田・星・未定・渋谷・東・藤本・廣田・明石

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		看護師	保健師	養護 教諭 一種	学年配当 (数字は週当り授業時間)				平成25年度の 担当者	ページ	
			必修	選択				1年	2年	3年	4年			
教職に 関する 科目	教職概論	講義		2				2						
	教育原理	講義		2				2						
	教育心理学	講義		2					2					
	教育制度論	講義		2					2					
	教育課程論（道徳・特別活動を含む）	講義		2						2				
	教育方法・技術論	講義		2						2				
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2						2				
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2					2					
	養護実習（事前事後指導を含む）	実習		5								5	柴田 順子	191～192
	教職実践演習（養護教諭）	演習		2								2	柴田 順子	193

は養護教諭免許必修科目

教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

科目名	在宅看護実習				
担当者氏名	新田 幸子、東 久子				
授業方法	実習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力 2-1 看護の対象となる人々とコミュニケーションを展開できる能力 3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-3 個人と家族の生活を査定する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

健康課題または障がいがあって地域で生活する療養者とその家族を理解し、対象の特性に応じた訪問看護および居宅介護支援の実践を学び、看護の果たす役割を認識し、行動できる能力を養う。在宅ケア全般を支える仕組みや機能、保健・医療・福祉における連携およびチームケア体制について総合的に理解する。在宅看護の意義と役割を理解し、在宅看護の場と在宅看護に必要な基本的な知識・技術・態度を学ぶ。

《授業の到達目標》

疾病や障がいをもちながら在宅で生活する療養者とその家族の日常生活を理解し、基本的な援助方法の実際を理解する。在宅における要介護者とその家族を支援するための介護保険法や地域サービスの仕組みを理解する。身体障がいをもつ利用者が医療的リハビリ終了後、社会復帰に向けてどのような目的で自立訓練と向き合っているかを知り看護の果たす役割を理解する。

《成績評価の方法》

実習要項に示す在宅看護実習評価表により行う。実習の実践状況、実習態度、実習記録類、出席状況、自己評価等総合的に行う。

《テキスト》

「在宅看護論」河原加代子、医学書院、2012

《参考図書》

在宅看護論「地域療養を支えるケア」ナース・グラフィカメディカ出版 2013
 「国民衛生の動向」

《授業時間外学習》

身近にいる高齢者はどのように生活をされているのだろうか。どのような社会資源があるのだろうかなどテレビや新聞からたくさん情報が得ておくこと。また、自身や友人の祖父や祖母の姿から生活の場で介護に必要な用品は何かを考えておくこと。さらに、訪問看護師は何を援助しているかなど学習を深めておくこと。

《備考》

- 1.看護学臨地実習要項や在宅看護実習要項をよく読んでおく。
- 2.事前学習・演習をしっかりと行って実習に臨む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地における看護実践実習	在宅看護実習要項に内容の詳細を提示する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	国際看護学				
担当者氏名	新田 幸子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

保健医療分野における国際協力の仕組みと看護における国際分野について理解する。
 諸外国の社会・経済、教育や文化などに起因する健康問題とそれに対する看護活動の実際を学ぶ。

《テキスト》

教材は授業で配布する

《参考図書》

「知って考えて実践する国際看護」医学書院 2011

《授業の到達目標》

海外の医療・看護に触れ海外に対する自己の視野を広げ海外協力について考えることが出来る。
 異文化知ると共に、医療・看護活動の実際を知る。

《授業時間外学習》

最近起きている国際的なニュースを新聞やTVの報道に興味・関心をもって聴くこと。また、国際的に看護活動を実践している看護職者の現状をインターネット等で調べておくこと。

《成績評価の方法》

授業の出席 10%
 課題レポート提出 50%(前半)
 40%(後半)期限までに提出する

《備考》

国際看護は特別な科目ではなく、日常的に考えていくことが必要。看護の対象となる人は「人間」であり「日本人」ではない。世界の中の日本で看護をしていることを自覚する。
 90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	フィリピン・スービックでの医療看護支援活動	フィリピン・スービックで活動中の助産師（富田江里子氏）から、地域住民との生活体験を通して、数々の妊産婦診察や助産、貧乏の人々の暮らし、医療の問題を学ぶ
2	フィリピン・スービックでの医療看護支援活動	海外青年協力隊（JICA）でのモルジブでの体験 無料診療所（助産所バルナバ・マタニティークリニック）での医療看護支援活動の実際
3	フィリピン・スービックでの医療看護支援活動	ベトナムとインドネシアの事例をもとにグループワーク
4	フィリピン・スービックでの医療看護支援活動	ベトナムとインドネシアの事例をもとにグループワーク後、発表
5	看護の国際協力	文化の違い 異文化看護 国際看護学の定義 開発途上国の定義 世界の健康問題の現状 先進国と開発途上国の格差 疾病負担からみた優先課題 新しい課題
6	異文化理解	日本から見たタイ・インドネシア・中国の基本的な生活習慣の違い
7	国際看護に必要な視点	グループワークを通し、他国の背景にある国民性や価値観や風習、基本的な生活習慣など数多くの相違を意見交換する。
8	国際看護に必要な視点	グループワークでまとめたものを発表することでクラス全体で異文化看護を理解する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

科目名	災害看護学				
担当者氏名	弘中 陽子				
授業方法	講義	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 ◎ 4-2 安全なケア環境を提供する能力 ○ 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力 ○ 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 ○ 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

「災害直後から支援できる看護の基礎的能力を養う」ことをねらいに2009年度から看護基礎教育に災害看護が導入された。この授業では、災害サイクルの各段階を概観し、災害時の特徴的健康課題や看護ニーズ、看護職の役割について理解する。また、国内外における災害看護活動の実際について学ぶ。

《テキスト》

看護の統合と実践②災害看護学 辺見弘、小井戸雄一、山西文子：メヂカルフレンド社、2013

《参考図書》

災害看護一心得ておきたい基本的な知識：南山堂、2007
 災害看護学・国際看護学：医学書院、2010
 ナース発東日本大震災レポート：日本看護協会出版会、2011
 グローバル災害看護マニュアル：真興交易医書出版部 2007

《授業の到達目標》

1. 災害の定義と健康障害について説明できる。
2. 災害医療・災害看護の定義について説明できる。
3. 災害看護の基礎知識について説明できる。
4. 災害サイクルにおける支援活動について類別できる。
5. 国内外の災害看護活動について説明できる。
6. NBC災害時の医療活動と看護について説明できる。
7. 災害時の基礎技術について演習を通し実行できる。

《授業時間外学習》

- ・授業までに赤十字救急法（基礎講習）もしくは、消防 普通救命講習を受講しておくことが望ましい。
- ・課題レポートについては、開講後に説明する。

《成績評価の方法》

「定期試験」：筆記試験 60%
 「平常点」：授業と演習の参加度・グループワーク・発表 20%
 「その他」：課題レポートの内容 20%

《備考》

- ・防災袋の作成（学校に備えておくもの及び自宅に備えておくもの：授業初日と最終日に現物を持参してください。）
- ・90分×7.5回分の授業時間となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス 災害看護の概要	災害と災害医療、災害の種類と特徴、災害医療と災害看護 自己防災：自己の備えについて（防災袋の確認）
2	災害医療の基本	指揮命令系統・連絡調整の確立、安全確保、情報伝達、CSCATTT
3	急性期の災害医療・災害看護活動	災害サイクル、災害サイクルからみた災害医療と看護、災害時の要援護者、トリアージ、がれきの下の医療、傷病者搬送
4	亜急性期以降の災害医療・災害看護、特殊災害	亜急性期以降の環境整備について、災害関連死とこころのケアについて、NBC災害について
5	国内外の災害医療・災害看護活動の実際	避難所・仮設住宅でのボランティア活動の実際、国際緊急援助隊の活動の実際、NPOの海外医療支援の実際
6	病院の初動体制	机上シミュレーション：グループワーク・発表
7	避難所レイアウトと公衆衛生活動	避難所レイアウトについて、避難所での公衆衛生活動：グループワーク・発表
8	災害時の基礎技術、まとめ	応用救急法(演習)，自己防災の振り返り、まとめ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 専門実践科目 群（精神・在宅・地域看護学）》

科目名	地域看護学実習				
担当者氏名	久井 志保、藤本 優子				
授業方法	実習	単位・必選	3・必修	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

地域保健活動の実際を理解し、地域における保健師の活動と保健・医療・福祉との協働活動、及び地域住民に対する健康支援のあり方について実践を通して理解する。
 さらに人々とのかかわりを通して人間とし成長し、生活を基盤とした地域看護活動の視座を培うことを目的とする。
 詳細は実習要項に示す。

《テキスト》

標準保健師講座 1 「地域看護学概論」
 標準保健師講座 2 「地域看護学技術」
 標準保健師講座 3 「地域看護活動論」

《参考図書》

国民衛生の動向（厚生統計協会）
 その他、教員が実習で指示するもの

《授業の到達目標》

- 1 地域の健康課題の明確化と計画・立案の必要性について理解できる。
- 2 地域の健康増進能力を高める個人・家族・集団・組織への継続的支援と協働・組織活動について理解できる。
- 3 地域の健康危機管理について知識としてわかる。
- 4 地域の健康水準を高める社会資源開発・システム化・施策化について知識としてわかる。

《授業時間外学習》

指定された課題（個人学習、グループ学習）を期限までに実施する。

《成績評価の方法》

実習態度（30%）
 実習要項に示す記録（50%）
 実習要項に示すレポート（20%）
 期限までに提出しない場合、減点する

《備考》

主体的に、意欲的に実習に取り組む。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	地域看護学実習	詳細は地域看護学実習要項参照
2	地域看護学実習	
3	地域看護学実習	
4	地域看護学実習	
5	地域看護学実習	
6	地域看護学実習	
7	地域看護学実習	
8	地域看護学実習	
9	地域看護学実習	
10	地域看護学実習	
11	地域看護学実習	
12	地域看護学実習	
13	地域看護学実習	
14	地域看護学実習	
15	地域看護学実習	

《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究（応用編）				
担当者氏名	道廣睦子、加藤知可子、若井和子、新田幸子、小林廣美、瀧本茂子、白神佐知子、小島賢子、久井志保、秦久美子、森崎由佳、高橋直美、大植崇、弘中陽子、芝田順子、星智子、未定、渋谷洋子、東久子、藤本優子、廣田真理、明石智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導を受けながら研究を行う。看護研究に続いて、問題解決学習の集大成として、1年間かけて研究を行い、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学びつつ、看護観を育み豊かな人間性を培う。その結果をまとめて論文を作成し発表する。

《授業の到達目標》

1 看護における研究の意義・必要性が理解できる。2 看護研究を通して、論理的・科学的思考を修得することができる。3 看護研究を通して、看護上の問題解決能力を養うとともに、看護実践の根拠を考えることができる。4 看護研究における倫理的配慮の重要性を修得することができる。5 看護研究を論文としてまとめ発表することができる。

《成績評価の方法》

研究や論文作成への積極的な取り組み等を総合的に評価する。

《テキスト》

看護研究 で使用した書籍及び資料、ノートなど。その他適宜指示する。

《参考図書》

看護における研究：南裕子編集 日本看護協会出版会看護研究：近藤潤子監修 医学書院看護研究 step by step 学研

《授業時間外学習》

看護研究 に関する図書・資料を読み、予習・復習を行うこと

《備考》

自ら選択した研究課題に積極的に取り組む態度が期待される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究 授業のオリエンテーション	研究 の進め方の説明、確認
2	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
3	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
4	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
5	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
6	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
7	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
8	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
9	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
10	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
11	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
12	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
13	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
14	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
15	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。

《専門教育科目 統合科目 群（看護の統合と実践）》

科目名	看護研究（応用編）				
担当者氏名	道廣睦子、加藤知可子、若井和子、新田幸子、小林廣美、瀧本茂子、白神佐知子、小島賢子、久井志保、秦久美子、森崎由佳、高橋直美、大植崇、弘中陽子、芝田順子、星智子、未定、渋谷洋子、東久子、藤本優子、廣田真理、明石智子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	4年・通年(期)
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 5-1 社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力 5-2 生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力 5-3 看護専門職として価値と専門性を発展させる能力				

《授業の概要》

看護の学習を通じて、看護の現象・事象における疑問や未解決部分に対して研究課題を設定し、担当教員の指導を受けながら研究を行う。看護研究に続いて、問題解決学習の集大成として、1年間かけて研究を行い、科学的な思考や論理的表現方法を学ぶ。その過程を通して、倫理的配慮の重要性、研究フィールドを得るための方法を学びつつ、看護観を育み豊かな人間性を培う。その結果をまとめて論文を作成し発表する。

《授業の到達目標》

1. 看護における研究の意義・必要性が理解できる。2. 看護研究を通して、論理的・科学的思考を修得することができる。3. 看護研究を通して、看護上の問題解決能力を養うとともに、看護実践の根拠を考えることができる。4. 看護研究における倫理的配慮の重要性を修得することができる。5. 看護研究を論文としてまとめ発表することができる。

《成績評価の方法》

論文は評価基準に基づいて内容を評価する。領域ごとに発表会を実施する。発表の評価基準に沿って評価する。

《テキスト》

看護研究 で使用した書籍及び資料、ノートなど。その他適宜指示する。

《参考図書》

看護における研究：南裕子編集 日本看護協会出版会看護研究：近藤潤子監修 医学書院看護研究 step by step 学研

《授業時間外学習》

看護研究 に関する図書・資料を読み、予習・復習を行うこと

《備考》

自ら選択した研究課題に積極的に取り組む態度が期待される。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	看護研究 授業のオリエンテーション	研究 の進め方の説明、確認
2	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
3	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
4	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
5	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
6	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
7	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
8	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
9	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
10	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
11	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
12	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
13	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
14	研究	決定した研究担当指導教員と調整、相談しながら研究をすすめる。
15	研究発表	各領域で運営する。

《専門教育科目 関連科目 群（関連）》

科目名	健康相談活動の理論と実践				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-1 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力 3-5 健康の保持増進と疾病を予防する能力 4-1 保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善するための基礎となる能力 4-2 安全なケア環境を提供する能力 4-3 保健医療福祉における協働と連携をする能力				

《授業の概要》

学校教育における健康相談活動の概念や特質を踏まえて、子どものヘルスニーズに対処できる力量形成を目指す。また、人間観や健康観、対人関係など健康相談活動の基礎的理論を学び実践力をつける。養護教諭の仕事における健康相談の位置づけを理解するとともに、関係機関との有機的連携について学習する。授業では、健康相談の目標と方法、問題の捉え方、記録とプライバシー保護など、基礎から実際までを学びます。

《授業の到達目標》

健康相談活動の概念や役割について説明できる。
 健康相談活動の基礎的理論について理解し、説明できる。
 子どものヘルスニーズを理解し相談活動の進め方がわかる。
 健康相談活動の実際を体験的に理解する。ロールプレイングができる。
 相談活動における連携を理解し、その中での自らの役割を説明できる。

《成績評価の方法》

毎授業終了時記入の学習内容の記録についての評価 10%、課題の実践と提出 30%（実践参加せずに課題提出だけの場合、減点）、定期試験 60%とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。健康相談活動の養護教諭位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	養護教諭と健康相談	養護教諭のもつ健康感や人間観との関わり
3	法規と健康相談	学校保健安全法を中心に、健康相談の位置づけを理解する。
4	健康相談活動の概念	定義、目的と意義、
5	健康相談活動の対象	子どものヘルスニーズの理解、問題理解
6	健康相談活動に必要な力量	養護教諭の力量形成と資質
7	近接領域の相談と健康相談活動の違い	相談とは、臨床心理学とは、教育相談や生活指導、などとの関係
8	健康相談活動の実際（1）	進め方の実際、保健室の機能、
9	健康相談活動の実際（2）	事例の学習、健康相談活動のプロセス保健室登校・特別支援教育と養護教諭のかかわり
10	健康相談活動の実際（3）	ロールプレイの実際
11	健康相談活動の実際（4）	グループ学習（演習）
12	記録と保管	記録の方法、書式、保管と活用
13	幼児・児童・生徒への健康相談活動	支援方法の違いと実際
14	力量形成と研究	養護教諭にとって、健康相談に関する研究の意味と方法を理解する
15	授業のまとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《テキスト》

テキストは使用しない。
 必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『養護教諭の行う健康相談活動』大谷・森田編著、東山書房
 『養護教諭の健康相談ハンドブック』森田著、東山書房
 『健康相談活動の理論と実際』三木・森田編著、ぎょうせい
 その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

関係図書にはできるだけ目を通す。課題レポートについては、文献にあたった上で作成する。授業で配布したプリントには、必ず目を通しておく。

《備考》

養護教諭をめざす者は、目的意識を持ち、主体的に授業に臨んで欲しい。演習の形態も含めるが、主体的に参加することが望まれる。また、演習には必ずレポート課題の提出を求める。

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	実習	単位・必修	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では学校における養護教諭の実践活動から、教育者としての養護教諭の役割と職務の特質について学び、学校保健の意義を理解する。事前指導では、養護実習のための知識・技術を再確認するための機関である。事後指導は、実習の成果をまとめ発表することで他の学校での実習の学びを共有し、また、評価の視点を学ぶ。

《授業の到達目標》

事前指導では実習での心構えや実習に必要な準備事項について学習する。
 実習中は学習した知識・技術を学校保健活動の中で体験することで、養護教諭の職務の専門性が理解できる。
 一般校と特別支援学校での実習成果として養護教諭の役割が説明できる。
 事後指導では実習成果の発表により学生間で共有できる。

《成績評価の方法》

事前学習資料の提出10%、実習成果発表会20%
 実習での記録、保健だより、健康教育案、保健学習指導案、プレゼンテーション等の結果から70%

《テキスト》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編、東山書房、2011 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編、第一法規、2011 『特別支援学校学習指導要領・立活動編』文部科学省、2011

《参考図書》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010 『国民衛生の動向』厚生統計協会、2011 『学校保健マニュアル』江藤隆・岡田加奈子編2010 『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011

《授業時間外学習》

学校保健では特に近接領域である「小児看護学」「精神看護学」「心理学」「臨床病理形態学」及び「成人看護学」の復習をしてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導養護実習の意義と目標	養護実習のために必要な養護実習の意義目標について学習する。
2	事前指導養護実習の方法と内容	養護実習のために必要な知識を再確認する。
3	事前指導養護実習の準備	養護実習のために必要な技術を再確認する。
4	事前指導養護実習のためのガイド	養護実習要項により実習のガイダンスを行う
5	養護実習一般校	養護実習
6	養護実習一般校	養護実習
7	養護実習一般校	養護実習
8	養護実習一般校	養護実習
9	養護実習特別支援学校	養護実習
10	事後指導実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
11	事後指導実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
12	事後指導実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	養護実習（事前事後指導を含む）				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	実習	単位・必選	5・選択	開講年次・開講期	4年・通年（期）
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

養護実習では学校における養護教諭の実践活動から、教育者としての養護教諭の役割と職務の特質について学び、学校保健の意義を理解する。事前指導では、養護実習のための知識・技術を再確認するための機関である。事後指導は、実習の成果をまとめ発表することで他の学校での実習の学びを共有し、また、評価の視点を学ぶ。

《授業の到達目標》

事前指導では実習での心構えや実習に必要な準備事項について学習する。実習中は学習した知識・技術を学校保健活動の中で体験することで、養護教諭の職務の専門性が理解できる。一般校と特別支援学校での実習成果として養護教諭の役割が説明できる。事後指導では実習成果の発表により学生間で共有できる。

《成績評価の方法》

事前学習資料の提出10%、実習成果発表会20%実習での記録、保健だより、健康教育案、保健学習指導案、プレゼンテーション等の結果から70%

《テキスト》

『新養護学概論』大谷尚子・中桐佐智子編、東山書房、2011 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編、第一法規、2011 『特別支援学校学習指導要領自立活動編』文部科学省、2011

《参考図書》

『四訂養護概説』三木とみ子編、ぎょうせい、2010 『国民衛生の動向』厚生統計協会、2011 『学校保健マニユアル』江藤隆・岡田加奈子編2010 『教育小6法』市川須美子・浦野東洋一・小野田正利他編、学陽書房、2011

《授業時間外学習》

学校保健では特に近接領域である「小児看護学」「精神看護学」「心理学」「臨床病理形態学」及び「成人看護学」の復習をしてください。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導養護実習の意義と目標	養護実習のために必要な養護実習の意義目標について学習する。
2	事前指導養護実習の方法と内容	養護実習のために必要な知識を再確認する。
3	事前指導養護実習の準備	養護実習のために必要な技術を再確認する。
4	事前指導養護実習のためのガイダンス	養護実習要項により実習のガイダンスを行う
5	養護実習一般校	養護実習
6	養護実習一般校	養護実習
7	養護実習一般校	養護実習
8	養護実習一般校	養護実習
9	養護実習特別支援学校	養護実習
10	事後指導実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
11	事後指導実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
12	事後指導実習のまとめ・発表会	実習報告のまとめを行い一般校は個別に、特別新学校はグループごとに発表する。
13		
14		
15		

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（養護教諭）				
担当者氏名	柴田 順子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

・養護教諭は専門職であり、学校保健活動では中核的役割を果たしており、対象者への保健学習を行う責務がある。養護教諭は保健の教科を、職務の特質を生かした構造的化された指導案を作成する。授業案作成は養護教諭の職務の質的向上に向けた能力を培い教育力を高めるを目的とする。
 ・応急処置技術を習得する。保健室対応で最もニーズが高いのは適切な応急処置であるためその技術を学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・学習指導要領に基づく保健の単元から本時の狙いが見える
- ・単元における・指導観・教材観・生徒観を記述できる
- ・単元での指導計画および時間配当を確認できる
- ・前時につづく本時の位置付けを明らかにできる
- ・本時の授業案を作成し模擬授業を実施できる
- ・学校に緊急処置の必要性が理解できる
- ・赤十字救急員の資格を取得できる

《成績評価の方法》

演習での参加状態20%、各段階における個別レポート20%
 課題レポート20% プレゼンテーション40%

《テキスト》

『養護教諭の行う保健学習』三木とみ子監、東山書房、2004
 『新訂版学校保健実務必携改訂版』戸田芳雄編第一法規2011
 ・赤十字社から提示されるテキスト

《参考図書》

『学校保健の動向』日本学校保健会、2011
 『国民衛生の動向』ぎょうせい、2011
 『保健の授業づくり入門』森昭三・和泉正勝編、大修館書店、2009
 学校保健で履修してテキスト、臨床病理病態学 . . .
 * 教職に関する科目の履修したテキスト

《授業時間外学習》

既習の科目を復習することと、特に小児の発達課題、臨床病理病態学 . . . について熟知しておくことが大切である。
 緊急処置の技術が応用できる為に事前学習が必要である

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実践演習の目的 指導案作成の必要性	養護教諭として必要な情報収集・処理能力・情報発信能力、教育力・指導力、企画力・実行力、連携能力・調整能力、研究能力を統合できる指導案を作成する
2	保健の単元を確認する 単元の狙いを確認する	小学校、中学校、高等学校のグループ毎に、2人1組で「保健」の学習指導要領解説を精読し指導案を作成し、模擬授業として発表する
3	単元の指導観・教材観・ 児童生徒観と本時案作成	指導案作成
4	指導案作成指導	指導案作成
5	指導案作成指導	指導案作成
6	指導案による模擬授業指導	模擬授業実施
7	指導案による模擬授業指導	模擬授業実施
8	指導案による模擬授業指導	模擬授業実施
9	指導案による模擬授業指導	模擬授業実施
10	指導案による模擬授業指導	模擬授業実施
11	模擬授業講評・評価	模擬授業の振り返り
12	応急処置の講義 赤十字基礎演習後テスト	応急処置の実践について学ぶ
13	赤十字救急員養成講習1日	応急処置の実践について学ぶ
14	赤十字救急員養成講習2日	応急処置の実践について学ぶ
15	赤十字救急員養成講習3日 赤十字救急員資格証修得	応急処置の実践について学ぶ